

丁史学讲义

(1)

井(田) (4/26) ~~アラビア半島の地理~~

- 今日アラブ圏は東はイラク、西はモロッコ
北は北アフリカ沿岸、南はスーダン

イスラム圏 北はインドネシア、東はインドネシア、南はインドネシア、西はインドネシア、北はインドネシア

西はモロッコ、北は黒海、カスピ海

南はアフリカ中央部

はオーストラリアからくる。

- しかし何となくも アラビア半島 (シエラレオネ・アラブ)
が アラビア文化、イスラム文化の揺籃の地であることは間違いない。

(アラビア半島を全体的に見ても北東部が中心)

- したがって アラビア半島の地理的振動をみれば、

• アラビア半島の地理的概観

~~アラビア~~

アラビア半島の定義

東に紅海 (アラビア海) とインド洋

西に地中海

南にアフリカ海とアラビア海に接する。

(この土地の境界が不明確)

便宜上、

サウジアラビアとエジプト、イラクとシリア

及びイエメンとイラクとの国境として

今日のアラビアと呼ぶのは上を指す。

• キリシヤ、ロマの時代には半島以北の砂漠地帯やエチオピアもアラビアと呼ばれていた。

• アラビアの名称を最初に用いたのはキリシヤ人 (Anabia)

<p>αραβια (αραβος)</p> <p>Anaps (Anabos)</p>	} の住む土地の

• Anaps とも (Anabos) とは ~~アラビア~~ アラビア人のこと。

~~アラビヤ半島の歴史~~

- アラビアの歴史は、地中海と紅海に挟まれた地帯に
 位置する。 ~~アラ~~ Arabs (Arabos) - Greek
 Arabus (Arabus) - Latin

と呼ぶ。

• アラビア半島の歴史は、

- ① Arabia Petraea (石の国) → 東部
 - ② Arabia Deserta (砂漠の国) → 西部
 - ③ Arabia Felix (幸福の国) → 南部
- 前 = 南に
 230年全境、
 即ち今日のアラビア
 半島にほぼ同じ。

• 5-5世紀に、~~アラビア~~ アラビア半島の歴史は、
 別な歴史に中絶し、今日、今日呼ぶ。 = 39
 アラビア半島は地理的に複雑です。

《自然環境》

・位置

東経 $35^{\circ} \sim 60^{\circ}$
 北緯 $12^{\circ} \sim 32^{\circ}$

北西から南東に斜めに傾いている。

1717kmの長さを持つ、短靴形の半島。

・面積 ≈ 270 万 km^2 (世界最大の半島の一つ)

そのうち $\frac{1}{3}$ が砂漠。

有名砂漠

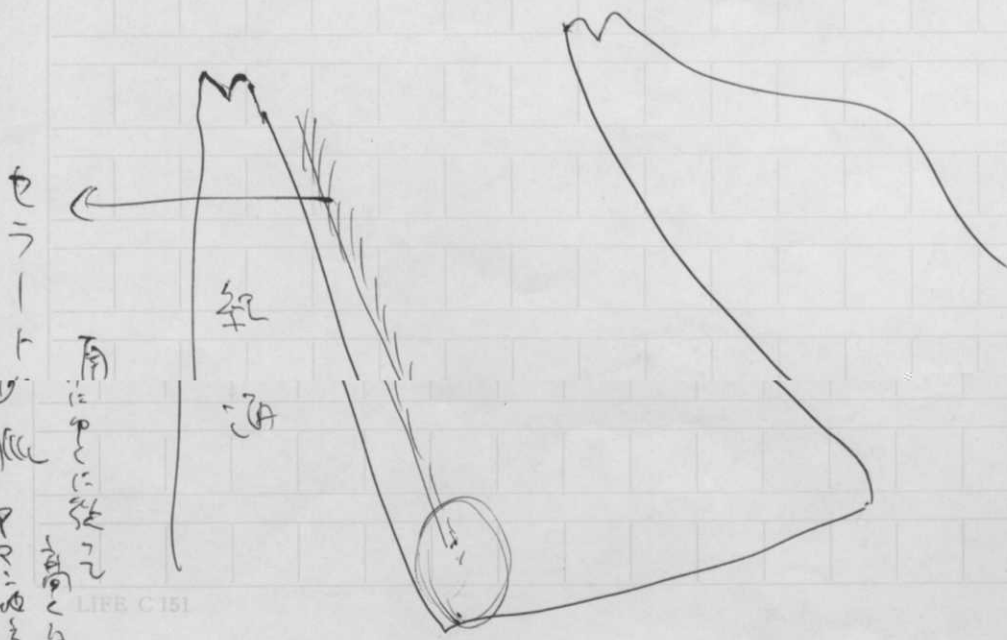
- イル・アム・ハル・砂漠 (南部)
60 万 km^2 (cf. 日本面積 37 万 km^2)
- ナフト砂漠 (北部)
10 万 km^2

西海岸は東のオマーンに高い山がある。

南西端(中東)は乾燥している

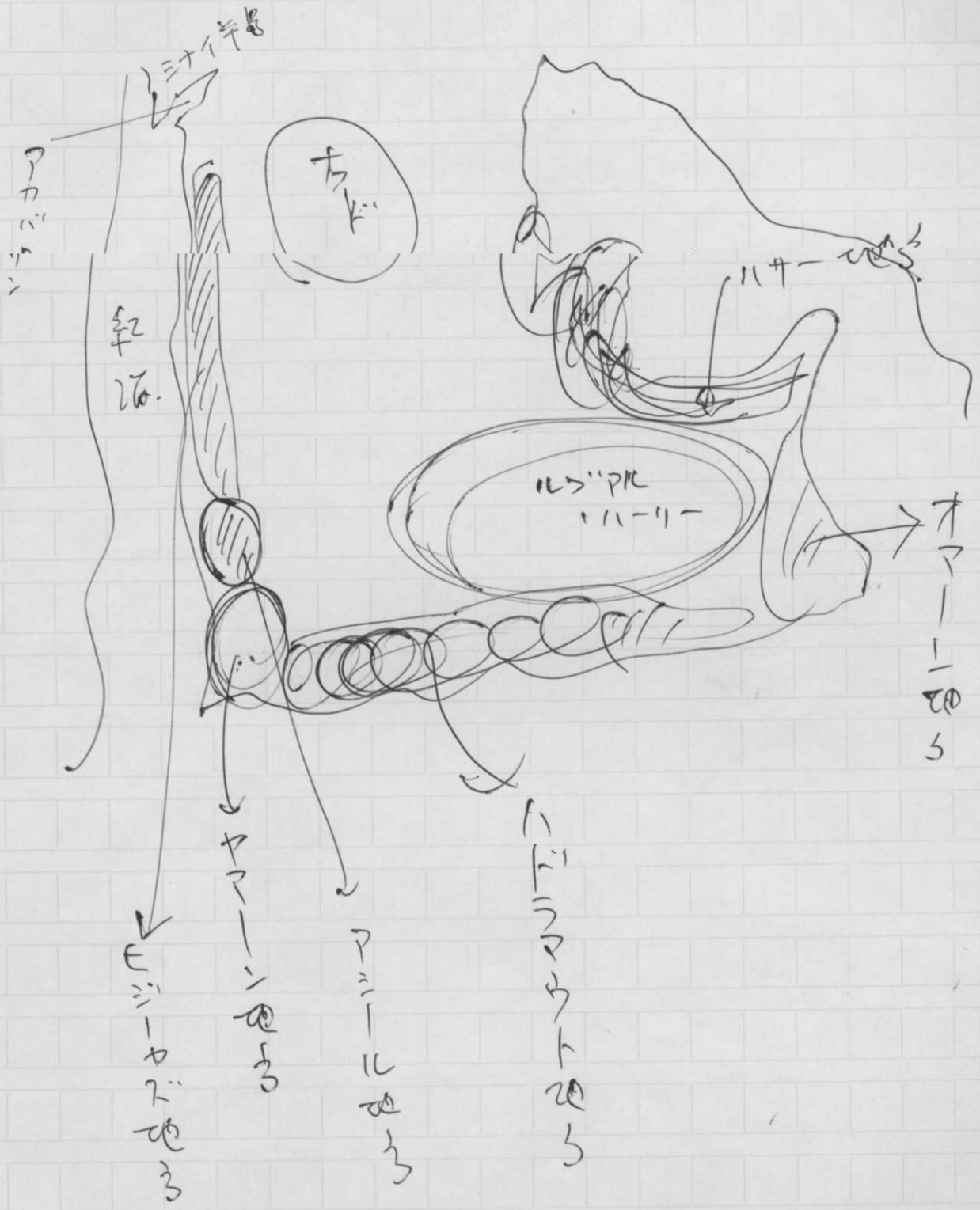
アラビア半島のXYポイントの方向に43度傾いている。高さは約2100m。

(平均 1000m)



4000m
 2000m
 1000m
 0m

- 典型的な砂漠地帯から大陸性気候、
(~~①~~ 海岸地帯を除く)
- 世界各地に砂漠とステップ地帯がある。
- 夏季アフリカ平均はサハラ砂漠と地帯まで
の間に、
- ヤマニ地帯は 4000m 近い山もあり、
雨もふって、(年間降雨量は 1000mm)
に達する
川が流れ、農耕に直する ~~土地~~ 肥沃な土地
がある。
- 他の地域は大部分、ステップ地帯がある
砂漠とステップ地帯がある。
- 狭い海岸バリエーション地帯は高温多湿で
夏は酷暑。高原地帯は空気がかん
すいにして、 50°C に達するところもある。
冬は内陸では氷点下になり、雪も
みられる。降雨は季節風の影響を受ける
ヤマニ地帯を除く。年間降雨量は
は下伴 100mm 程度である。



産物

• ヒジャーズ地帯: ヌツクヤニ (ヌツホマシアからの移殖)

• アニール地帯: アラビヤゴク

• ヤマーン地帯: 小麦とコーヒー
(cf. 14C. に アラビヤ = アラビア) ^{輸入}
コーヒーはマダガスカルのジャババ島
最初の文献は 1592年.

• ハドラムウト地帯: 乳香 カカオ地帯, モカ産,

• オマーン地帯・及びハサール地帯: コブ

オアシスでは, サクロ, アニス, アモニ,
オレニシ, レモシ, ナトゥキ,
スイカ, バナナ.

家畜は
ラクダ, 羊, 山羊, 馬,

↓
1000倍の飼料

ラクダのミルクをバターに加工して飲料に用いる
水はたばこを飼育用.

牛は乳と肉,
羊は肉と毛,
馬はハートニング及び医薬品

コ-ト-1-5-2

Shakespeare (1564 - 1616)

- ① 1564年7月23日 英国のストラットフォード・アポン・エヴロンで生まれる。
- ② 1572年 父の死により、母と弟と共にオックスフォードに送られる。
- ③ 1582年 1607年まで 詩人として活躍する。
- ④ 1590年代後半 劇場に参入し、劇作家として活躍する。
- ⑤ 1609年 (1613年頃) 劇場で大火に巻き込まれる。

1616年4月23日 死去する。

彼の作品は多く残されている。(『ハムレット』、『マクベス』など)

- ⑥ ~~1616年~~ 1616年 死去する。
- ⑦ 1616年 死去する。1616年 死去する。
- ⑧ 日本では 1888年 (明治21年) 可憐茶館 上野

丁史序漢

第2回 (5/17)

以前 2014年 7月 17日 9:00

位置 { E 35° ~ 60°
N 12° ~ 32°

面積 270万km² 1/3 が砂漠

{ 60万km² が 川・湖・池・海
10万km² が 森林

(日本の面積 377万km²)

セーラ山脈が 陸の 2つの 海岸は 沖に 高まり

ヤマニ地帯の 最高は 2000m ほど 山がある

年降水量

平均 河川は 1000mm

→ 冬 (夏に 入る)
雪 降る
→ 夏 50°C 以上 暑い

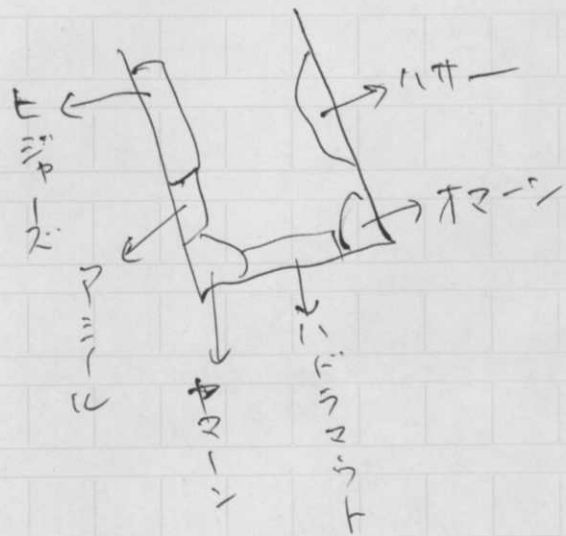
● 海岸地帯を除く 典型的な 砂漠性 大陸性気候

● 海岸地帯は 狭い 低地 である

高温・多湿で 夏は 猛暑

● ヤマニ地帯は 年間降水量 1000mm

その他は 100mm (±4.6mm)



産物

- ① エジプト地：トツヤシ
- ② アシール地：アビゴム
- ③ ヤマーン地：コト 地味
- ④ ハドラマウト地：乳香
- ⑤ オマーン・ハッ：コク

内陸各地のアシス：ガクド・アリス
 アーセント
 (野生の鹿 鹿肉から作られる) オルニ・レン
 アカ・ハッ

コト Shakespeare (1564 - 1616)

- エチオピアのカフ州で木実バニに直産結果
 があることは知られていた。
- エチオピアからアビシアに輸入されたのが11^c
 生産された。せんいして飲まれた。カフ州から
 カフと呼ばれた。(飲まれないで飲まれた)
- 14^cごろから、豆をいってからひきつぶして蒸す方法
 がとられ、熱狂的に飲まれた。(ワインがX 642)
 同時にコトの木がアビシアに移植される。
- 16^cの半ばトルコに入った。
 1517年エチオピアのイジエト遠征の結果

16th 末にヨーロッパに入れた。

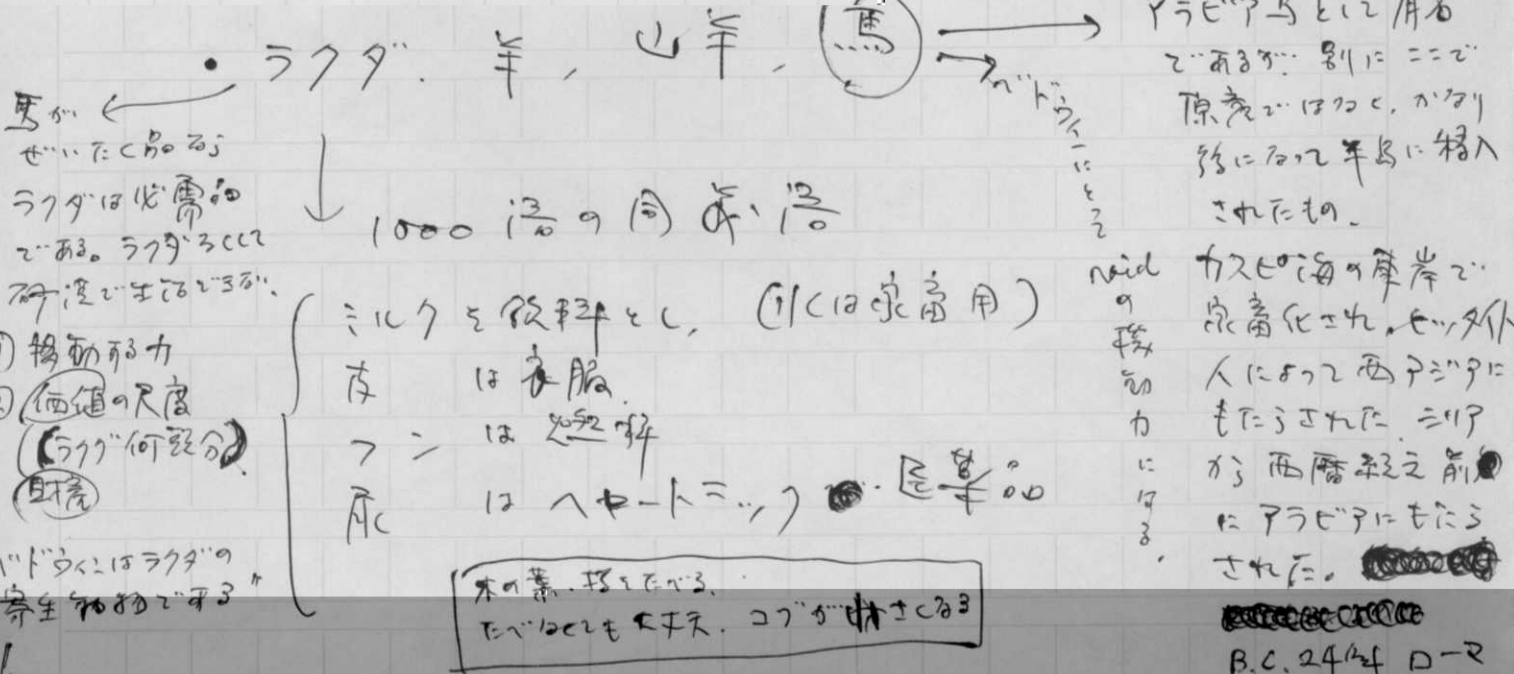
ヨーロッパに定着したのは17th 年頃。

① 日本では 1888年 (明治21年) 可畜茶館 (上野)

世界には250年ほどの伝統がある。エジプトの下層エリートは、ここは。ここは500年

他の動物は1500年

畜産は、ハトウシニは羊と馬の畜産である。(オーストラリア)



このハトウシニは羊と山羊の畜産物である。

馬は、羊と山羊の口には入らない。
 水は吐き出す。20日ほど前
 2-に飲んだ。これは人間のもの。

ラグダは羊と山羊
 夏は5日間
 冬は25日間

馬は畜産物である。馬は羊と山羊の口には入らない。馬は羊と山羊の口には入らない。

馬は畜産物である。馬は羊と山羊の口には入らない。馬は羊と山羊の口には入らない。

ベドウィンは

- 牧草を求めてさまよう,
- 沙漠は海, nomads は 遊牧
- 昔から狩猟を主とする nomads の生活リズムに倣った。
- 土地が... やせ地... 39% 同様に 50% もやせ地。
- 著しい 33% : 遊牧 (individualism)

O Lord! Have mercy upon me and Muhammad
but upon no one else besides.

- 略奪は男... 仕事... 狩り... 遊牧...
- 1120 年 10 月 10 日 nomads が 襲撃した。
- 1039 Raids は 1 年 10 日 10 回。
- 同様に hospitality の 高さは 遊牧に 比例する。
- 1039 年 10 月 10 日 略奪を 主とする... 狩り... 遊牧... も
不要な raids を (1039 年 10 月 10 日) 行った。
それらの hospitality を (1039 年 10 月 10 日) 行った。

下田言語学

第3回 (5/24)

- 従前まで "アラビヤ半島" からどの辺りなところか、
みてきた。

それは住む住民は、有史以前から同一の形態
を示し続けている。⇒ ベドウィン。

- "アラビヤ半島" にはベドウィンは全く居ない。生
活している。但し、~~アラビヤ半島~~ 車とラジスター
の設計

- ベドウィンは自らを "ラクダの人々" と呼ぶ、且つそ
れを喜んでいる。

ラクダはかつては前に... 3... 3 出てきた。

(=97世紀)

- ① 価値の尺度 ラクダ何匹分
(財産)

- ② 胃の容量が満ちると吐くのを止める。
(無量の)

まさかの時には (吐) をラクダの口は吐く = 吐く
吐くのを止める。2日... 前まで吐く
吐くのは人間が飲める。

- ③ ミルク ⇒ 飲料, 皮 ⇒ 衣服, 骨 ⇒ 燃料
尿 ⇒ 肥料 = 肥料。

さてバドゥ仁は,

・ 牧草を求めてさまよふ。

・ 所漠は海, nomads は海賊

・ 昔の狩猟採集生活 nomads の生活 pattern に類似する。

・ 土地が乏しく、資源も同様、食糧を求めてさまよふ。

・ 著しい狩猟長 ⇒ 徹底した individualism

O Lord! Have mercy upon me and Muhammad,
but upon no ~~one~~ one else besides.

・ 略奪は男らしさ、仕事に専念するから。

・ 大規模な略奪に帰依して nomads がさかえる。

・ それらの raids は一攫千金の行為。

・ と同時に hospitality が高く評価される。

・ 陽気な水と、牧草を求めてさまよふ。

不気味な raids を繰り返す。

それらに hospitality とは強固なつながり。

① nomads には 宗教的な情緒がある。

定着民に対する宗教的な感情は木下氏の泉と石に集中している。

==

①

tribe (部族) { 水と牧草は
tribeの共通財産

clan (同族, 氏族) ⇒ シェイク (酋長)

battle-cry が同じ

tent (家族)

→ clan 内の殺人はそこで処理される。

clan 外の殺人は かたきうす が行われる。

→ アカビーンヤ (loyalty) が強調される。

• シェイクは別に絶対的権限をもっていないわけでは無い。
council にほかすねはなすね。

非常に democratic である。

と同時に aristocratic でもある。

• 婦人は定着民と比較して、12行-4前後の
間がかなりの自由を享受していた。

• 習俗 (一夫多妻) にはあったが
未と墮落自由 } なかった。
離婚の自由 }

5/24

• 南アラビア人 について

アラビア半島の南部に定住して... 民族は、アドベーン
と主たるアラビア人とはほぼ異なりと見られるところあり、
= 9世紀末南アラビア人と通称される。

ヤマーンとハドラーマウトを中心地としている。

相異点

- ① 南アラビア人が定住、アラブ人が^{主に}遊牧によるニセ他、
言語、文化、体型が異なる。

- アラブ人：長頭型
- 南アラビア人：短頭型

アラブ人：コーン・アラビア語

南アラビア人：ヒヤル語 (南アラビア語) ⇒ イチビ語に近
A.D. 600年 - ままに死語

② 南アラビア人の国々

記録に最も古い最も古.. 国は サバア王国 ⇒ B.C. 10^c

サバアに関する最も古.. 記録は B.C. 715年
アッシリア語碑文

サバアの首都 Ma'rib に大堰が築かれ農業が栄えた。

① 雨にぬれられた
肥沃な土地

② 海

アビニオン

地中海の沿岸のアフリカの諸島と交易を行なった。

そこでアビニオンを建設した。

A.D. 1^c = 3 紀元前に向い、~~アビニオンの諸島の交易の諸島~~

6^c に入った = 3 崩壊した。 = かに代って 2 崩壊したのか
ヒュピル王国 である。

アビニオンをアフリカの諸島に上ったまたヒュピルでは
あったからアビニオンは 1 崩壊した。

→ 新紀元前 115 年 = 3 紀元前

アフリカと自衛と 12 王国が建設された。

A.D. 4^c に入ると アフリカと アフリカと ... 2 3 あり
1 紀元前 アフリカと アフリカと 6^c の初めに 国王の
アフリカと アフリカと ... 2 3 あり

アフリカと 国内の アフリカと アフリカと
の 存在が 深まり、 かつ アフリカと 王国の つくった
植民地 である。 アビニオンは アフリカと アフリカと
の アフリカと アフリカと ... 2 3 あり
の アフリカと アフリカと ... 2 3 あり
アフリカと アフリカと ... 2 3 あり

→ ヒュピル王国が A.D. 525 年 崩壊した。

アフリカと アフリカと ... 2 3 あり
575 年 まで続いたから、

575年 マーニは マーニ朝 = SE 版土に 39
統治領と成った。

① 南アフリカ人の諸国は 共通した政治的性格
世襲君主政体。

ニホロツツ人 = はみしん、特色

経済面では 高度に発達した 農業を基幹とし

{ 没薬
各種香料 主要な輸出品と成った。

宗教は、ゾロアスター教、キリスト教が入る以前は、

屋々の神々とする 多神教を奉じていた。

月の神が最高神 2 男性。

太陽神は女性 2 月の神の妃と成り、金星神

と呼ばれた。他の屋々の神々も同様。

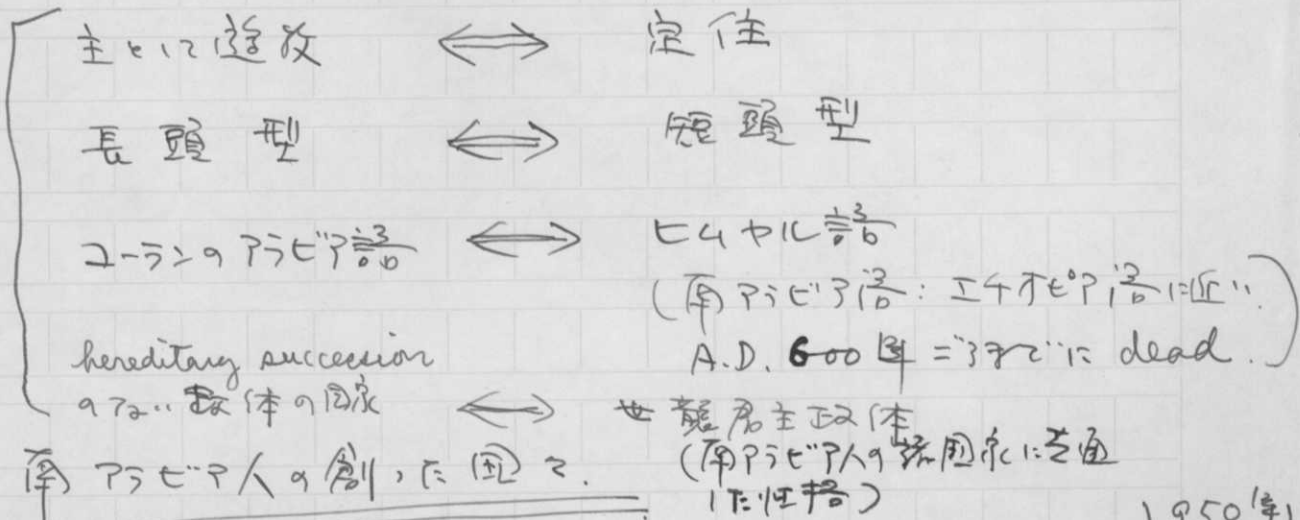
丁史学讲义

第4回 (5/31)

① 南アラビア人について

- アラビア半島の南西部に定住した民族は
ハドゥラと主たるアラブ人とは異なり、
この民族と南アラビア人と通称する。
- 彼等の home ground は ヤマーンとハドラーマウトである。
- ② ①. ②. ③. アラブ人と南アラビア人の相違点を挙げる。

アラブ人 : 南アラビア人



③ 南アラビア人の創成国

~~サバア王国~~ は サバア王国で建国は B.C. 950年

サバアに関する最も古い記録は B.C. 715年の アシリア語
の碑文。

記録上最も古い国である
しかし、最も代表的な国は
(南アラビア人の)

(約 + 115年 B.C.)

(d. Sīrwāh が最初の首都)

(2)

この国は首都 Ma'rib に 74 E 2002 農料 が栄えた。

① 河原南西部に 2985 年文明国が栄えたの理由

理由

- ① 雨の降りる肥沃な土地にめぐられたこと
- ② 地理上でめぐられたこと

・ 紅海のほとり部分とアフリカ大陸と接し、アビシニヤ海に面し、インドとの交通の便があった。

1103
せまくて
紅海は3つめの
海に危険な海
であった。これは
船が通れず
航海は
もつと危険な

・ 上の理由の一つに述べたこと、サバア王国は
対岸のアフリカの諸国やインドと交易を行なった
ことに栄えた。

~~サバア王国は~~

② 南西部に位置するサバア王国の産物として

- ・ 高度に発達した農業 (d. 74) による農産物
- ・ 各種香辛料 (非常に高価なものも多かった)

これは
主要輸出品
とされた。

用途

- ・ 料理、くさいものを食べられるようにするため
- ・ 宮廷、や宗教上の儀式で香として

③ サバア王国への輸入品

- ・ 真珠 ← インド
- ・ 織物、絹 ← インド
- ・ きぬ ← China
- ・ 象牙、金、鳥の羽根 ← アビシニヤ

○ サハブ王国 は、近隣を圧した。
 これは通商、貿易による conquest であり
 military conquest ではない。

○ 近隣上最も古くは

ミネア王国 2000 B.C. 1300年 — 650年 B.C.
 (首都 ~~Qarnaw~~ Qarnaw) に存続した。
 最盛期には 南西部アフリカ
 大陸を支配下に置いた。

南西部に ミネア王国 と サハブ王国 が併立して
 いた時代があった。

650年 B.C. に ミネア王国 が 崩壊し、サハブの天下
 となり。サハブの首都は Ma'rib に移り、650年 ~ 115 B.C.
 の 295年 まで サハブ王国 が 繁栄した golden Age である。
 (南アフリカ)

○ B.C. 115年 まで サハブ王国 を 打ち倒した 舞台は上か
 った。これは 74年 まで 存在した。

Zafar 王 首都 212 A.D. ~~525~~ 525年 まで 存続した。

f. ミネア王国, サハブ王国, 74年 まで 存在した。74年
 同一の民族で、言語も同一であった。

① エチオピア王国の歴史に

南アフリカ人は紅海の対岸にアビシニア王国を建設した。 ところが略奪の被害に遭った。

A.D. 4^cに入るとキリスト教やユダヤ教がエチオピア王国内に持ち入り、特にユダヤ教が盛んになって6^c初めに国王がユダヤ教徒に信奉せよと命じた。

やがて国内のユダヤ教徒とキリスト教徒の対立が深まり、ついに自国領の大部分を植民地であったアビシニア王国がキリスト教国と変わった。 ところがアビシニアがエチオピアのキリスト教徒を保護するために軍事介入しユダヤ教徒のエチオピアの国王を戦死させて、

A.D. 525年 エチオピア王国が崩壊した。

南西部に於いてアビシニアの主権は525年から575年まで続いたが、575年南西部はササニ朝の勢力に征服されてその統治領域となった。

d. 宗教について

ユダヤ教、キリスト教が入る以前の南アフリカ人の宗教は、屋敷神と月神と太陽神であった。

月の神 (Sin) が最高神で男性、太陽神 (Shams) は女性で月神の妃で、屋敷神を祀る他に他の屋敷を祀ることもあった。

第5回 (6/7)

試験

◀ 試験問題 ▶

- ① アラビア半島 ~~アラビア半島~~ について
- ② ベルギーについて
- ③ 南アラビア人について。

3問中 2問を選んで回答せよ。

歴史学諸説

結局は...か!

第6回 (6/14)

第7回 (6/21)

ペトラとピルミラ

アラブ人の定義は
イスラームに入った
直後には...

アラブとは...

ギリシャ・ローマ時代のアラビアの三分割は、...

- I Arabia Petraea
 - II Arabia Deserta
 - III Arabia Felix
- の IV をみたす。

次に... (I) と (II) をみたす。

① Arabia Petraea (岩のアラビア)

シナイ半島 と エジプト東部 の一部

ここには ナバタイ王国 が建てられた。(cf. ペトラの遺跡)
 (北アラブ) 2名高...

これはナバタイ族 (アラブ人の一族) が建てた王国。

ナバタイ族はもともと遊牧民であった。

B.C. 6th 前半にこの地に侵入してきて。

ナバタイの呼称:

アブラハムの孫でありイサエルの子である

ネバヨテ (Nebayoth) に由来する説がある。

この首都 Petra はギリシア語で岩を意味し、

これは

ヘブライ語のセラ (Selah) の載っている。

旧約聖書の列王紀略 }
イザヤ書 } これは二ヶ所 セラ の名で
載っている。

或いはまた、
エリヤ記 }
オバテヤ書 } これは《船の隠場》、
《山崖の巖層》

更には
《高きと=3に住む者》、
《壑の=4に高きばかり
屋の間に築きつくる》⇒

と...の表現があるが、これはみなヘトラとサバタイ語
について述べたものである。

① 一ヶ所サバタイ語自身は二の首都を al-Kāqim (刻られた石)¹
と呼んだらしい。

これは、二ヶ所の名所、表現は二の都市を呼ぶに
ふさわしく、高き岩壁とが二宮殿をつくり、二つ二つ
といた岩山をたこみに中間に堅固に構築された
要塞都市であった。城門に入るにはダブル壁か
らよく通れるほどの狭い通路をめぐらねばならぬ
ほどである。

② キャラバン通商路の拠点として、
ヘブライ語の在世中に相当する期間にその黄金期

とてかえた。

ナバタイ族.

言語はアラビア語を用いたが、
 文化的にはその北のアラブ語文化圏に
 属していた。
 アラビア語文字が未だなかったため、
 アラブ語文字をつかってアラビア語を記した
 のである。ナバタイ族に与った借用された
 この文字が後にこのアラビア語の
 アルファベットに成長していった。

A.D. 2^c に入るとキセラバンの通商路がもつと北東に
 傾き、ペトラは色あせ去る。⇒ ナバタイ王国の可成り
 衰えは 3^c 頃には A-マの保護国となり、
 A.D. 106 年 自治権を失った。

Arabia Petraea は A-マの属州たる Provincia
 Arabia となった。

① Arabia Deserta (砂漠のアラビア)

キソトヨクニアヒニイラケル砂漠地帯

1100 年頃が栄えた。

→ 2^c に入るとペトラに代ってキセラバンの通商路の拠点
 として脚光を浴びたのが A. Deserta である。

都市 1100 年頃 Palmyra (アラビア語では Tadmur)

である。1000年頃の遺跡もペトラスの遺跡と並んで「名高」。

① シリア砂漠の中央部に位置し、
非常に古く歴史も。

② 勿論アラビア人の都市である。(北シリア人)

③ 1000年文化にはギリシアの影響が大きい。

④ 2^{世紀}~3^{世紀}にかけてその絶頂期を過ごし、
中近東で最も繁栄した都市の一つであった。

⑤ 10-20年頃の1000年頃には大勢力国の中核に位置し
た。最初には中核の地位を失った。3^{世紀}に
2^{世紀}初め以来10-20年頃には没した。

⑥ 1000年頃の53年を境にササン朝とローマとの
抗争で、英傑 Udhaymah は 3^{世紀}に
1000年頃には 265年、ササン朝の Shapur I^世
の 3^{世紀}の軍勢でシリアを占領し、その功により
Udhaymah はローマ皇帝より Imperator (≒ 師)
の称号を、小アジアとエジプトの支配権を授けられた。

シリア
アラビア北部
小アジア
エジプト } に 3^{世紀}には 1000年頃の王侯が未だに。

⑦ 5^{世紀}初めには 11年頃。Udhaymah はローマの陰謀
により 5^{世紀}に暗殺された。

39妻 Zenobia (アッシリアの女王 Zaynab)

女傑
非尋常美人

29年其の暗殺後、D-Rは反叛に兵を挙げ、
一時はPLFをシリアに占領する。D-Rは
相争に互角に力を合す。

《東の女王》と称して大いに名を馳せし。

◎ 間もなく272年D-Rの反撃に力つてハレミラ
が陥り、街は破壊され、Zenobiaは捕らえられ、
金の籠に閉じられD-Rに護送された。5.
現在ハレミラの遺墟は34年破壊された跡の
ものがある。

295年

A. Petra : ガハナ王国 ⇒ pro. Byzantine

A. Deserta : ラハ王国 ⇒ pro. Sassanids

296年両者は相争つた。(6^c頃両者は大勢力)

◎ 両者ともアラビア半島南西部の南アラビア人の
子孫に属する。(南アラビア人の居住地は3^c)
女に)

◎ どちらもキリスト教国

◎ 7^cの(25-4)頃にD-RはD-Rの地を失った。



下史学講義

(/)

第8回 (6/28) ⇒ 休講

第9回 (7/5)

イスラーム勃興直前のエジプト地誌
について

○ エジプト地誌 (トシユト地誌) の住民は nomadic.
(4部を除き)

○ エジプト地誌 (トシユト地誌) には 息子の国 有
の文化を 興 した。 然し。

対照的なのは ナバタイ、ハムミラ 両王国

＝ 大さばり、アラブの遊牧民が
つくった国定である。

(q. ガッサー王国, ラハ王国 ← 南アラビア)

○ 二つの地誌の事情を深めたのが 資料 は、
(又(文化は))

種々の伝説、格言 の他に 詩 である

但し = 大さばり 全て、記録 = 大さばり である。 七つ である

11つは 言語部 である。 口承 である。

(伝承文書)

(c. 591 ~ 632年)

q. 大律毛ハキッドの地誌 書 < c. 5 = 4 は

正しく 7つ である。 (q. 512, 568 328 ←
the proto-Arabic inscription)

口承による詩の正しく種々の事件が扱われている

わかるか、読解の...から、読の...と...は...
あり得るか、読の...は...
(読字)

また、読の...は...
また、読の...は...
また、読の...は...

また、読の...は...
また、読の...は...
また、読の...は...

また、読の...は...
また、読の...は...
また、読の...は...

また、読の...は...
また、読の...は...
また、読の...は...

(ghazw)

また、読の...は...
また、読の...は...
また、読の...は...

典型的な...の...
典型的な...の...
典型的な...の...

- ① 教人が...に...
② ...の...に...
③ ...の...に...

dan

- ③ ...の...に...
③ ...の...に...

また、読の...は...
また、読の...は...
また、読の...は...

- ① ...の...に...
① ...の...に...
① ...の...に...

その詩の recital は大衆に下せる藝術である。

《 深い呼吸の藝術 》 といわれたことがある。

アラブ人の芸術は唯一の言語を媒介とするものである。

その詩は唯一の言語を介して

《 モリシヤ人が自己表現の手段として、彫刻と建築と書物とを必要とするが、アラブ人は詩である 》

アラブ人の詩は、

《 人間の本質は体の外、宇宙の隅々には存在する 》

又曰く、

《 アラブ人の詩は、その人自身、アラブ人の心 》

Jāhiliyat 時代には

- ① 弓矢、やり、格闘術
- ② 馬やラクダの乗りこなす技術
- ③ 雄弁（つまり、散文・韻文の力強さ且つ elegantly 自己を表現する能力）

散文は韻文に比べて
 表現が豊かである。
 つまり、韻文は表現力
 未だに開き全上
 である。

→ 完全な人間を三つの事件と見た。

イスラームの勝利とは、414年頃の コーサ の勝利と... である。

下史序論

第10回 (7/12: 夏休みの前最後の授業)

- o Valam 以前の P37/A のほうに、唯一の P37/P38, P37/P38 にある 韻文詩 (散文詩は writing の下書きのほうに、そのほかにもある)。
その詩は A 3C (伝承文庫) であるけれど、それは下史の documents とは関係ない。T32/P38 の詩と関係なく、とらえらるべきである。

つまり 詩の P37 には 44 行あり、そのほかにもある。

= 512 行に及ぶ

- o fühliger 詩: 40 行、そのほかにもある P37/P38 以降の全詩、40 行、狭い詩に及ぶ P38/P39 以降 622 行 以降の約 100 年間 40 行、= 218 行

~~その他の詩は、そのほかにもある。15~~

英雄時代 には、これら。

- 詩、そのほかにもある。第 11。

P37-41 P37

(雄大の詩)

とさる...2... ヤマニ地を流して ヤツカをル-トとつて

は=ばれた。

中国やインドの陸地をたよりにしてたのも 4ヶリス.2-77

=29 下流の3 砂漠を通って ヤツカには=ま"れた。312

ヤツカが3 シリヤやエジプトにもたつされた。

=512 ヤツカは 国際的な大商都府とつた。

• シバ-エリ-ヤの歴史の宗派。

偶像崇拝神話
群の

انسان

70

انسان

人間を形とて70

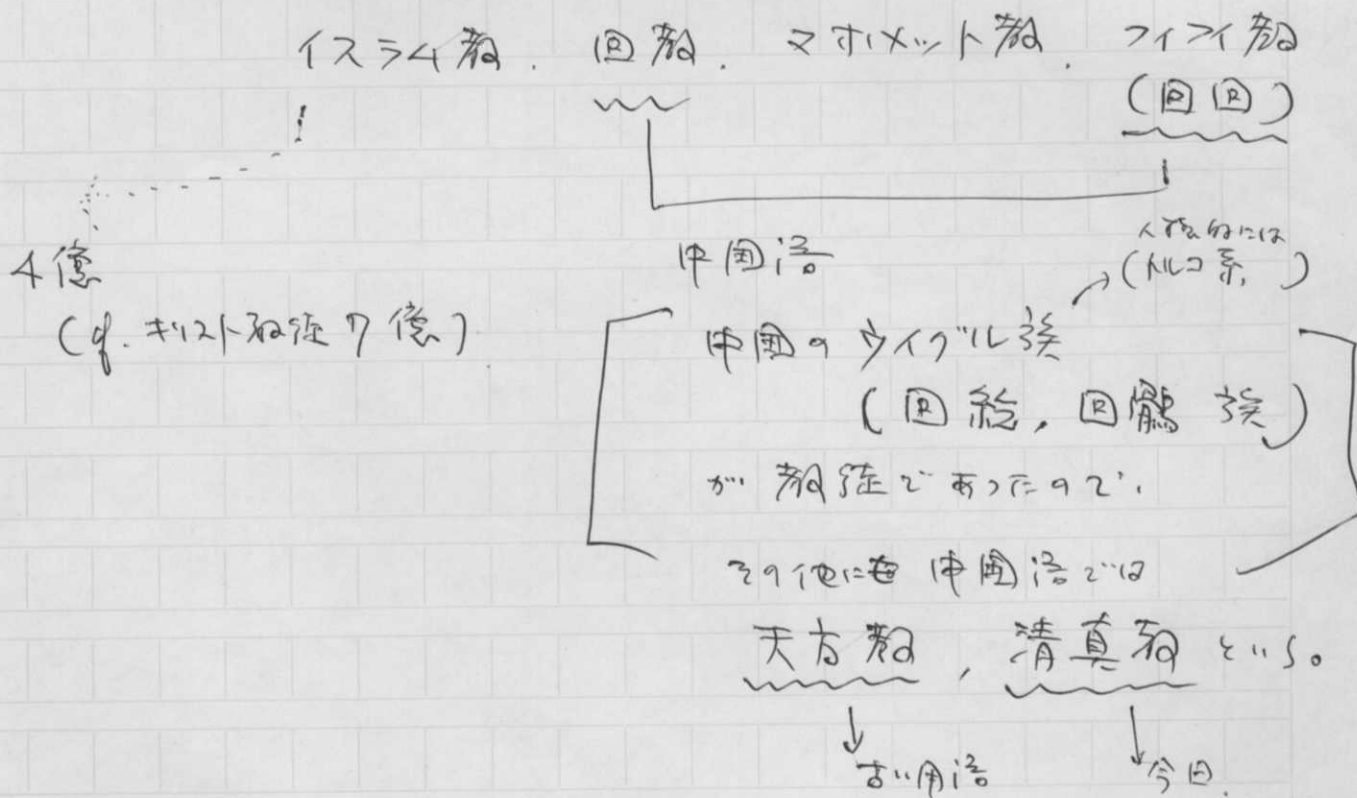
厂史学讲义

第11回 (9/13: 夏休み明け最初の講義)

。アッラの厂史は イスラ-4 境界として扱われ、E=合さ
れる。

... イスラ-4 に入る。

名前について : 本来は Islam



イスラ-4 の 創始者 ムハンマド (マホメット) である。

マホメットは イス・キリストと違って (完全に人間) である。

或いは 神と違って 別に悟りたか開かたか、

マホメットにまつる 神聖性 といふ がある。

これは 宣教師 といふ こと、キリスト教が キリスト

9 30 5 4 2 2 3 9 に 対 し て , 9 3 0 , 意 義 的 に 1 2 5 4 3 9
と 5 マ ホ ヲ ッ ト と 同 様 の 名 稱 を 満 足 し て 3 。

3 9 意 義 的 に 2 7 4 教 に 近 い 。 2 7 4 教 は , 1 8 1 1 , 2
7 4 教 派 派 派 と 5 要 素 が 強 調 さ れ る 。 誰 だ け が 車 輪 に
2 7 4 教 派 派 に 分 れ る 方 け だ け だ 。

と 同 様 , 1 2 5 4 3 9 は 2 7 4 教 , 1 1 2 3 9 と 3 9 意 義 的
9 1 2 3 9 と 1 2 3 9 。

3 9 信 仰 する 宗 教 は 2 7 4 教 の 神 イ ホ ヴ ー
I am that I am.

1 1 2 3 9 の 神 と 全 同 じ の 神 P 1 2 3 9 7 2 3 9 。

0 1 1 1 1 1 1 1



マ ホ ヲ ッ ト に つ いて

神 の 名 前
と 3 9 1 2 3 9 意 義 的

1 1 2 3 9 の 意 義 的 に 1 2 5 4 3 9 に マ ホ ヲ ッ ト も 同 様 に 3 9 前 年
生 に つ いて は 1 2 3 9 1 2 3 9 3 9 。

マ ホ ヲ ッ ト は 意 義 的 に 1 2 5 4 3 9 の 名 前 1 2 3 9 意 義 的
9 1 1 2 3 9 意 義 的 に 1 2 3 9 。

意 義 的 に 1 2 3 9 意 義 的 に 1 2 3 9 意 義 的
1 2 3 9 意 義 的 に 1 2 3 9 意 義 的

1 2 3 9 意 義 的 に 1 2 3 9 意 義 的

Muhammad b. Ishāq (†768年) → エリキッド伝

(3)

その 570年か何年かあるかの「アッバース朝」の

570年頃の推定とされている。

25才の時に、11代イブナー・アッ・ムウナッと結婚する。

11代イブナー・アッ・ムウナッの妻が亡くなった時に、アッバース朝に嫁いでいる

と見られ、アッバース朝に嫁いでいることが、アッバース朝 (7世紀) にある。

この結婚で、アッバース朝の歴史が決定される。

5712年、アッバース朝の歴史が決定される。

(3男・4女を産む)

アッバース朝

40才の頃 (610年頃)、アッバース朝の歴史が決定される。

この最初の歴史で、その後、アッバース朝の歴史が下る。

それは集大成としてある。

厂史学讲义

9月12日 (9月20日)

イスラーム (イスラム教) について

① 神とは: 何に入る前に 3の 見取図をみておきたい。

今日、宗教について 語るときは 或る種を つかうかしてある。

今日の 世界と神。 神とは何ぞあるか。

神をくいても かって 1173の 代々 想。

11313 discuss する前に、神とは 呼ぶ、何に 指す、と する
かが 問題である。

~~端的に言えば、イスラム教の信仰とは << アラーの他に神は
なく、ムハンマドは 彼の使徒である >> として信じ、且つ、
その機会 あり、これを 表明する、他の 宗教とは 異なる。~~

② イスラム教の創始者はムハンマドであるが、そのムハンマド

という人物はどんな生涯をたどったのか。イスラム教の

~~創始者~~ 教義はどんなものであり、

どんな行(きょう)と 行(ぎょう)の物かは、なにかあるか。 ~~#####~~

~~#####~~、これは、つまりは コーラン、ハディース 3つ

イスラム教の 学者達によって 細かに 述べ立てられている。

その中で、大切なものは コーランであるが、これは 複雑な内

容の 書物である。

① コーランをくり返し読んで、その中に読みとった私自身の
イスラ4教団を支持するところのみを

私自身、何もイスラ4教徒(4スリ4)でもなく、いやいや
イスラ4教の宣教を聞きつければ更になる。

私のイスラ4教団を学校の前には提出してのみならず

これは ~~問題~~ まで行ってはいるかも知れない。しかし ~~聖書~~
に對しては論、反論を多用意がある。

[今から論するものは全てコーランの中にある]

① 自己を直視せよ。

徹底的に自己を問え。

今可くそれを行なえ。



くいましたのだ。

思...をめぐらせた。

ボク...と1234

11つ反てぬか分る。

~~ボク~~...ボクボク123
と死んで地獄に落ちるぞ。

警告。

② 自己をみつめる(握録)で、自分

が絶対的だと思つてゐるもの、

信奉してゐる者、主...と

はか...しなれ。



偶像崇拜をやめよ。

偶像はこれをなして

③ その中に産心たんか...無

心になつて、つまり何と何とわ

れな...目で周囲をのぞきよ。



太陽や月、星、雲

雨、山、川、蜜蜂

風、海、その肉体

④ 神と その相底にあつてそれ

を ~~見~~ いてゐるものが ~~見~~ はず

りと分かつてゐる。



全その ~~神~~ の ~~力~~

の ~~力~~ してゐる。

⑤

一本の草花がそれとあり、
 それと木がそれとあり、
 一羽の小鳥がそれとあり、
 それと子とあり、
 それと金があり、
 その背景にある意志にそれ、
 その存在にそれ。
 人間もまたそれとあり、
 その意志に自己をそれ、
 その意志を神の意志とせよ、
 それが正しい事である。

⑥

人間が、自分勝手に
 くりだした、主権主張
 ・理想を絶対として
 するもの。(その)

⇔ 我に同位者
 存在するもの。

⑦

それは不幸である。
 意味
 無意味

⇔ 同位者は他者と
 存在するもの。

9.80/2/1

肉体的に人間に与えられたものはそれとあり、それはそれとあり。
 小鳥の飛ぶと、それはそれとあり、人間もそれとあり。
 於てはそれとあり、それはそれとあり。
 それと自己とあり、
 この自己と他者は、それはそれとあり、人間もそれとあり。
 題とあり、それは自己と他者、我と汝とあり、人間と人間とあり、
 [言語が媒介となる]
 自己と他者、我と汝とあり、人間と人間とあり、人間と人間とあり、
 人間が理性的な存在は人間性に基づく。人間は他者人間に面して存在する。小鳥の神
 19 證美の存在は、それはそれとあり、人間は神と存在する。人間は人間、他者と
 人間と人間とあり、人間と人間とあり、人間と人間とあり、人間と人間とあり、
 人間と人間とあり、人間と人間とあり、人間と人間とあり、人間と人間とあり、

於て人間
 は、
 個
 性
 を
 持
 ち
 出
 現
 した。

第13回 (9月27日)

。ムハンマド

何回も強調する通りムハンマドは「イスラーム」で
 何ら神の要素は与えられず、完全な人間であり、
 奇跡も一つも行っていない。このことはムハンマド
 の死後13世紀にまで伝わる。

ムハンマドの生涯はその前半生についてはあまり知
 られていない。彼に関する様々な伝説があるが、
 Muhammad b. Ishāq (768年) のものが最も
 信頼されることは史家の一致をみている。

これに与えられた、その中でも確実に思われる点のみを
列挙してみる。

① 生誕地 ムッカのクライム族のハーシム家に生まれた。



当時ヤマーン地方はアビシニアの将軍アブラハに
 支配されていた。(熱心なキリスト教徒)

この年、アブラハは大軍を率いてムッカに侵入し
 町を占領し、ムッカを三日路と残す
 ために戻った。軍に疫病が蔓延し、兵士
 達がバタバタ倒れて、退却を余儀なくされ

た。ほぼ全滅 ⇒ アブラハもヤマーンに帰ると
 死亡。

この軍の中に系部隊があった。

アラブ人には 黒 は強力な印象を与えたとみえて、29年と

黒 の年、その軍勢は 黒 の軍、アラブは 黒 の將軍

と呼んだ。

この病を発生した疫病は天然痘であると考へられてゐる。

病に倒れて死んだ人々には体中に黒い斑痕が残り、...

当時のアラブ人は

焼けた石と鳥の大群が一つ一つくわえて兵士達の上から降りかかると解釈した。

コラシの中にも <..... 焼けた石で襲撃した.....> と...表現がある。

ともかく29年の4ハントは至れた。29年の570年頃とされている。

- ・ グライニョ族は500年末にメッカを征服してムスリムに
住みつけた。 (それ以前はヒンズーの山地で遊牧
生活をおこなっていた) グライニョ部族は約25個の族があった。
(tribe) (clan)

メッカの定住町に入ると

グライニョ部族は依然として遊牧町への移動を続けた。

(グライニョ族は他の部族員に報復した場合は vendetta etc.)

各部族は39の全伴会族としてマジリスをもち、

グライニョ部族の各部族もマジリスをもち、

グライニョ部族の部長として、更に有力部族長数名
(ニエフ)

からなる部族全体の会議があった。

クライニコ 部長 金伴 にかかわる 問題は =9

部長 会議 (マラー) に 同 じ け だ。 定 住 化 し て (高 学 部 希)

いた ため、マラー は 心 かん に 出 され、マラー の 中 心

成 員 に 有 力 な 中 心 長 達 の 権 限 は 強 ち、=9

つまり、マラー は 数 名 の 大 高 人 が 互 配 可 能 な 高 人 共 和 国
(高 学 部)

と 思 っ た。 (部 長 長 は 同 じ け だ。)

ハニシタ 氏 は マラー と 互 配 可 能 な 数 名 の 大 高 人 の グループ
(中 心)

に 入 れ ば 可 能 だ、入 れ ば 可 能 だ、 $\epsilon = 3$ 。

~~お~~ お じ ー の アッ - マラー は 12 才 の マホット と シリア
の キアラバン に 同 行 さ せ だ。

人 々 に 告 げ せ だ、 $\frac{1}{2}$ 年 の 時 間 を 取 っ た。

(その 他 の 一 切 は 未 だ 知 ら ず、同 じ。)

○ 25 才 の 時 ハニシタ 氏 と 大 高 人 の 手 合 人 と 結 婚 し た。

その 一 切 は、ハニシタ 氏 が シリア の キアラバン の 中 心
者 と 深 く 関 係 し、アッ - マラー が マホット と 推 挙 し た。

前 の 12 才 の 時 と 同 じ、今 回 の シリア ~~中 心~~ 中 心 行 動 は キリス
ト 教 と の 接 触 を 深 く した 事 が 注 意 され ね ば 可 能 だ。

ま だ、キアラバン は 成 立 し、 $\frac{1}{2}$ 年 の 利 益 を 取 っ た 時、 $\epsilon = 3$ 。

モホットの 可 能 な 高 人 と 談 話 し、al-Amin

al-Amin

は マホット に 結 婚 し、 $\epsilon = 3$ は 結 婚 し た。

=9 年 [マホット は 25 才、] ハニシタ 氏 は 40 才 だ、

と 思 っ た。

この11ページ-34の40と15の間に212はもろに70かたに92
はたしかと15の護もある。マホットとの間に3男4女
をもうけたからである。

この結核はマホットに生活の心配をうけと15と
めがれしめた。

突然!

40才の頃 神の啓示を受けた。(570/年と比べれば610年
と753)

「おん、衣にくまるとる者よ、起して警告せよ。
汝の主を讃えよ。 ~~おん~~ 汝の衣を清めよ、
けがれをすけよ、お返しを求めんがためにほこ
りてはたかれ、汝の主のために祈るべし」

740.1~7

15の最初の啓示、であることが護もあるは

352は15と2が96号1~5の

「創造したまはす汝の主の御名に512読み、
主は凝血から人間をつくり給ひし。
読み! 汝の主は最も高貴なる方。主は人に
512教を給ひし。人間の知ること人間に教を給ひし」

であることが護もあるが。 753の5か5(分)と1511。

1985に211段 啓示が次々に下り それを集めたものが
この本である。

下史学概論

(1)

第14回 (10月4日)

討 論

◀ 討論問題 ▶

① Arabia Petraea & Arabia Deserta

1:212

② イスラ-4 勃興直前の Hijāz 地方

1:212

③ イスラ-4 ~~の~~ 教之 1:212

④ Muhammad 1:212

上記四問中 3問を擇んで回答せよ。

下史序講義

(1)

第17回 (11月1日)

・610年に最初の啓示を受けて、632年に死去する22年間に間及ぬに下りた啓示は、その内容、思想、主題に於て大きな変化が表われていると云うことができる。つまり大きく分される。

れる。即ち610年～613年の啓示とそれ以後の啓示と。

M. Watt は、610年～613年の啓示はその主題から大体5個に分類できると考えた。それは①は「前々世の問答」である(しかし、私は次の3個に分類する)に神の慈悲; 神の万能であった。

今日はその②からやる。

②: 最後の審判と復活。

例 84:12

「空が二つに割れて、ついでに主の御言葉に耳傾けし時、地が平らにされ、その上に天の光を全て照らすこと、

ついでに主の御言葉に耳傾けし時、天の人間は、

主の姿をたとへて進み行く天の道はけがれなき。必す

いつかは逢ふであろう。その時右手にかんじの書と

わたされる者は喜んでその栄耀のたとへて進み行き、

背中にかんじの書とわたされる者はどすか殺して

くちと叫ぶ。なから「救われもせず」に地獄の火に焼

、~~これは~~ ~~前~~ ~~子~~ ~~イ~~ →

最終審判と復活に関する、

① これまた最初から = 425 に関する暗示が ~~あり~~ ^{あり} 終末の

② 日にたつて恐怖が イスラ-4 と... 宗教が... 2... 主要なモチーフである主張が 著者 である、

② 最初^期の暗示には 終末の日々の恐怖は 具現される。

恐怖を表した暗示は ~~あり~~ X... の 4'95 時期にあると主張が 著者 が 対立した。

①、② の主張の問題は 要するに 暗示の chronological order の決定である。

M. Watt の見解は、

● 最終の審判に対する恐怖を 主として描写した暗示は X... の 時期のもので、最初期には 属していない。だが、最終の審判 7... の イ-3... は 最初期から 鮮明な形では 属しているに しても 存在している。人は 死んで 土に 埋められた後、神に 5... 蘇らされる。と... イ-3... も 存在している。

● 要するに、最終の審判を 受けるために 復活する... イ-3... は 最初期から 存在しているが、地獄に 落とされる恐怖が イスラ-4 の 対立、著者の motif と なるに とも なるが である。

③ 神への感謝と礼拝

感謝とは、神への めぐみ を めぐみ であることに 気付く = 心に他 はたす こと。

M. Watt は書く、

「感謝とは、人間は神におと 創造 と 保護 と 恵み と 愛 を 受ける こと である。一方 礼拝 とは 神に 感謝 を 表す こと である。」

何れ、「X」 は 「Y」 を 受ける こと である ならば、「Y」 を 表す こと である こと である。

礼拝 とは、神の めぐみ を 常に 心に とめて いる こと である。
(人間の努力)

不信者 ... 「P」 を 信じる こと である こと である。

これは、不信者 を 意味する 用語 として 定着 する 前 は 「感謝する者」 を 意味する こと である。

これは 重要 である。

つまり、「Y」 を めぐみ に 気付く こと である、「Y」 を めぐみ を 信じる こと である、「Y」 を 不信者 を 信じる こと である。

○ アッラーの他に神は居る、4ハニコドはその使徒である

これはイスラームの根本教義と云ってもよいものであるが、最初期^の啓示には、互にも述べたようにアッラーの他に神は居る^{こと}を唯一なる神を主としたもの^が ~~アッラーの他に神は居る~~ 119である。

更にまた、4ハニコド自身^の役割について、その使徒であるといふことは明瞭に規定も、最初期には居なかった。

たゞそれとも4ハニコド^の役割が何回も強調されること^が しばしば見られる。

このこと M. Watt は

「最初には message を送る者の $\frac{1}{2}$ が messenger 81 重要であった」と言っている。

つまり最初期には、人間の神に対する関係こそが本質的な問題であったわけである。

○ messenger は message を送るより以上以上の役割をもつたからである。

後にはむしろ messenger の役割は比喩を弄り出す。

以上の3項目に分類された 3つの啓示が最初期の啓示、つまりマホムトの最初の教えであった。

この教えそのものを検討する前に、この教えを最初に受け入れた人々、即ち最初の信者達について一瞥をしてみよう。

ともかくも一者最初に信の教を信し入れた人は

妻 ハデーニヤ であつた。

最初の男性の信者が誰であつたか ・・・ 議論が起ることは

① アリ (412年の従兄弟)

② ガイト・イブシ・ハリサ (412年のハリニヤの奴隷で
後に解放されて両者の養子となつた)

③ アブー・バクル (初代カリフ、マホメットの最近の
マホメットの兄弟の下、マホメットの兄弟の友人)

の3説があるが、一般的には

これらの人は 610~613年の間に信者とつた。

ほか、以上の人の他に、ざつと50人ばかりの人が初期の

イスラーム教徒としてリストアップされている。全員が 610~613年

としかけておらず、613年以後の人をも含まれておらずとも知ら

ない。これらの50人余りの人を眺めてみると、

Ⅰ 最上流、最有力の氏族の子弟が多数。

(後にイスラーム教徒軍の主力軍の争いでは英雄の者
として敵、味方に別れて争つたことはある)

Ⅱ その他不利な有力な氏族の若者達

大半が
30才未満

Ⅲ 奴隷や外国人や氏族の保護を名目上受
けていた貧乏の下層民

つまり初期のイスラーム教は

若者と下層民 がいちり立ちあつた。

丁史序講義

第18回 (11月8日)

前回:

} 最初期(610~613年)のマホキットの教え、
 } 最初の4スラム達
 } 最上流と2の12の階層の若者達
 } 下層品

以上がトピックである。

マホキットの教えが、マホキットの教えである。

◎ 最初期のマホキットの教えにもユダヤ・キリスト教的伝統の影響がある。最初期の12使徒の39歳の期間にはユダヤの影響が下層に及ぼされたのだから、最初期にも認められたのは当然である。

マホキット、ユダヤ・キリスト教の教えがマホキットに作用したのか?

○ 例としてマホキットが読み書きが来たとすると、

ユダヤ教・キリスト教の教典を讀んで「トキ」を「トキ」にする。聖書と讀んだ者達に決して「トキ」である。間違えて「トキ」を「トキ」に讀む。

従ってマホキットのユダヤ・キリスト教の知識は口頭による。

マホキットがイスラームを拓く前に少なくとも2回シリヤにカラバンで出て、キリスト教の修道士と出会って話を交わす。また妻ハテーンとシヤの従兄弟に

結論的に言えば

- 創造主としての神
- 復活と最終の審判
- 啓示としての観念

最初期の啓示にみられるユダヤ・キリスト教的色彩は、当時のキリスト教の知識人の一般的风潮であって、特にマホメットに与って生じた統一の思想ではなからずである。

(マホメットが文書に於て、或いは特定の個人との対話から得たものである)

これは最初期の啓示のなかで、ユダヤ・キリスト教には何れも ~~要素~~ 要素 はないか？

それは、復活と最終の審判、啓示としての観念、創造主たる神の観念 (ただし、この際ユダヤ・キリスト教の啓示に唯一性は意識的に主張されている) を除いたものである。

これは神の かこみ の強調である。自然に かこみ されて

いる かこみ の護嘆。人間、動物、植物、或

は天体、或は自然を通じてその存在に流れている

みだく かこみ した一つの かこみ、力、意志への

護嘆。それと、かかき かこみ の 感謝 即ち、

人間がその かこみ の上に かこみ 立てた存在である

あり=とに 見は c = c. 312 礼拝 即ち, 39852
の c"に 見は "2, 39 自體に もとあ" た 主 と 當り
83 に 努力, あり = と.

以上の諸点 ~~の~~ 強調 が ヌグヤ・キ12-教には
よ" ~~再~~ 再の " あり

論 ヌグヤ・キ12-教 2" も 39852 = c を 主張 可 する。
しか し マホヤット は 力 強 く, (1) = c < 112 12 345
強調 は 12 " 2 " の 2" あり。

車に、
{ 創造主 6129 神
啓示
最後の審判 と 浮い石 } 2" 39 = c を 述べ

2" 子 かけ 2" する"。 述へ" 3 必要 する 所 かつ 啓
2" あり。 何 故 なら 上記 の = c は ヤッカ の 知識 " 人 間
2" は 常識 2" あり 2" 9 2" あり。 当時 の ヤッカ の 常識

と 2" 2" と 3" の もの, それ の み が) マホヤット が 本 意
に 言 いた かつ 2" = c 2" あり。 (マホヤット が 述へ" 3 必要 あり 2" 9, また

~~2222~~

= 312 < 112 c, 最初 期 の 2" あり 2" , " かつ 最後 期 2" あり
神 の (c" 2) と それ へ の (啓示) と (礼拝) と 強調 され 2" あり
かつ 2" あり。

。 先に述べたように、

Quraish 族は初めにシヤーズ地帯の山岳地で
遊牧生活を送っていたが、5^c末に メッカに侵
入して住みついた。 クサイに率いられていた。

つまり クサイによって

遊牧民 \longrightarrow 定着民

メッカ地帯は岩が多く、ゴツゴツした地帯で、農耕地としては不適で、もっぱら高層によって生計が営まれた。大層な都が作られた。

。遊牧民に関しては述べた通り。

。遊牧民が高層で生計を立てる定着民になったことにより、その考え方の移り変わりが著される。

遊牧民

（メッカの都市発展の背景をみる）
✓ 自分の高層が民族のため、如何にゆきかへに戦い、
直つてはけんが。

詩人達によって常にその男らしさが高層かへにうつ
られた。

と云うか、高層民の考えはそればかりではなくなる。

端的に言えよ → 如何に戦害(痛)をつくするか、それによって人が高層
と此の価値に値するものがある。世に於けるまじがうた
われる。

この価値の転換はメッカにゆきかへにうつる。

① 先が舟一に遊牧民好作の信託がその簡単に済んで
しるす所のあり

(Qumai^族は 25ヶ族がある)

事案のライニ2族は定住後、創設の族員

が他の族員に報じた場合の vendetta を長く保持した。

前にも述べたが

。各族はその全体会議にてマジリスをもつた。

(クライニ2部族に限らず、一般的に遊牧民の族は
マジリスをもつた)

。クライニ2部族は(その特徴として)更に有力族長
輪名がなる部族全体の会議、マラーをもつた。

。定住化してためマラーはムンバ人に開かれ、

マラーの構成員は有力族長達の権限が強い

まった。これは、力は数名の大商人が支配する

商人共和国と化した(部族長はいるが)。

② これが高きと高き最も近しい型態であるかとい
うか分りはしない。

高きは利潤を追求するが、その利潤追求の姿勢と

族制が~~あり~~あつたときと~~なし~~なしとは隔る。

何れも利潤追求にふりまわして、利潤追求に

なるさい、都合の... 人間関係を未だよくする。

① "カハ"マホキツの"正"道"の"キ"カハ 何の"者"と云 ~~の"者"と云~~
の困~~り~~ん期に於て。

ニニにマホキツの思索と云ふ可 要因が有つたといふ事。
自らも大商人として利潤の追求に専らするしなから、
価値の転換に直衝した人として世に於てある。

利潤、利潤と狂"まわ"り、巨富をきつて、さあそれか
何に於てか！ ニニにマホキツは人生、~~何~~ 宇宙 につ
て報せぬの思索に突入する。

② 是れで終つたものか、人間、世界、宇宙に關する真理
の發見であつて、それを是れ"高"さか"に"した"もの"に"。

それ以上に子等は、富は"い"ふ"可"くも神の"み"ま"り"では
何にも存するものとして主張であつて、利潤 利潤
と狂"まわ"つて"い"ふ人々への批判である。

→ 是れ"い"ふ"もの"は、(理想家肌)者、上流の子弟や下層民には容易に
受け入れられずか、現に富をきつて"い"ふ人々から受け入
れられ"な"い"もの"に"ある。

第19回 (11月15日)

前回:

□ マリヤットの思索は Quraysh 部族の遊牧民 ⇒ 定着民、
 しかも商人としての修行の中で、例の若き方の基本的性格
価値の転換のプロセスの中で、金と力とを本来的
 に問うて、一つの真理に到達し、それを当時のマッカ
 の知識人の間に浸透して言葉として用いて表明した
 こと: そのマリヤットの発見した真理は人間の基本的生き
方に関するものであり、それは生き高きかに上り
 方の生き様、利潤追求に狂い回り、金こそ我が命! などの
 既存の生き様の批判であった。これは、その後の 是が
 下層民や土流の若し人の間に受け入れられたが、
マッカを支配した、利潤追求に狂い回り、金こそ我が命!
 としていた人々に受け入れられなかったこと。

±2

その85にムハンマドの教えを信じた初期の上流階級
 の若者一人に アブ・アルカハ (20~25才) がいた。この青年
 は当時マッカで最も有力、最も大金持の氏族に属するマフス
 -ムン家に属していた。アブ・アルカハはマッカの中心部に大邸宅
 をもっていた。(そのほかからして彼自身も富裕であったこと)

から、逆に、マホメットの教を信じて入れたら、その
 下にはこれに等しい、何かマホメットの教を信じて入れたら
 子に代わって、それと懸念 ⇒ 心理的懸念

1. を除いて、2. 3. はともに未来にかかわる = 危ない。
 従って、大商人といつても長老、下人ともいえる比較的若
 大商人 (例として「アブ・ジャッリ」) が ~~その~~ muhammad
 に教を信じて行くとした。これは危ない。

① マホメット及びその信奉者への迫害の理由として、
 (一神教のイスラームが確立された) 多神教的
 の儀礼であるマホメットの神教の儀礼が禁じられ
 て儀礼による収入がとれた。これはマホメットの中心
 の地位がほかと異なるからだとするのをあきらめた
 が、「これは伝統的であったが、実はそれは間
 違ひである。それは今にも述べたように、イスラーム
 の初期の教義 (つまり迫害が始まった = 39 年) には
 一神性も、偶像否定もなかったからで
 ある。

マホメットの
 聖なる石の地
 に他部族の
 祀る偶像が
 あり、それ
 により、マ
 ホメットの
 マホメットの
 1000年と
 あった。

一神のイス
 神聖月とあ
 らる4ヶ月
 は各地のマ
 ホメットの
 儀礼が
 行われて
 「しかし、
 聖地はマホ
 メットの聖
 地である」

② 二で、1, 2, 3, 4 には理由があるから以前は
 害がなかったと保存してはならない。マホメットを
 害するものも、その理由がなければない。

多神教や偶像崇拜はマホメットの知識人の間では
 何れも特権的に入れたか、それでは「それ」
 ので、マホメットの教に反対する唯一のもの
 も、その理由としてマホメットの教が伝統的の教
 義と異なる点を示すことである。

=512 議論は 伝統的を原則依式 (対) 矢3-4

と...5=とに反り, 伝統側が39攻撃にさらされて, 123-4
のもつ 唯一性, 偶然否定性がけんじょに 存子に111=110。

① 論争が激化し アブー・シヤフル 氏. の自害がきこしこえ
まじりてきた。しかし ==2 逆約民の伝統たる 氏族 =
との独立性; 氏族, 或る成員がほかの氏族にたつた, 或
は 39 氏族全体がほかの氏族にたつたとてり, 39 成員の名字
を奪つたとする = とに反り 再びナットは 別々になつてゐた。

アブー・シヤフルは マフスー4 宗に属したから, 11-24 宗
の 4 人ノマドに直接_キ 害を 加へたわけにはいかなかった。

4 人ノマド_{の 不名誉は} 11-24 宗の 不名誉とされたからである。

だから, 氏族の成員ではあるが 39 保護民であったに 信者
屋は 打しやうに 打しやうを 与へられた = とに反り。

また マフスー4 宗は 各氏族の 3 人ノマドに 譲りて 39
氏族の 中から 42/4 を 求むるに 要請してりて
いる。⇒ 若者屋への 圧力。

=9 打しやう情勢にかんがみて 譲らるる 39 信者屋 5 人ノマド
であった アブー・シヤフルに 移住させたのである。これは 615 年
に 始まった。(と 普通 39 打しやうに 譲らるる)

実はこのアビシニ=ア移住についてははっきりしてはいるが、

ぬらぬらある。

事実として

83... 報字... 資料... あり。

80人(分)

(報)

615年頃 一群のイスラム教徒が アビシニ=アに住居した。

結核の55 報告が 同も70c ヲ、力に帰ったこと。

(報(年分))

622年

アビシニ=アから帰った人達 他9名の人

とて一報にマホットについて Xテニナに移住した。

アビシニ=アに居る者は、622年 直接 Xテニナに...

者も... 又他の者も...

628年 まで 居った。その後は ⇒ Xテニナ。

~~...~~ が認められた

はいる。しかしこれら事実の原因はよく分かった
てある。

簡単に想像からつくるは 直害を 与えることである。

これ。これは、護を support するもの、規則もその
事だ。

これらは、公然とイスラームを排難し、身内の信者に
棄教を迫ったが、後ろ信者か ~~...~~ 住してあり、

(報)

11-34 年頃、イスラームの信者に強く棄教をせよと迫った

が、後ろ信者は Xッカにどど移ったことである。

もし直害を与えられたアビシニ=ア移住は 622年の Xテニナ
への移住時に終了した。従って、既に済んだ アビシニ=ア

に残った者が...に...^{証明して}...~~合~~...
に於いて、被害以外に理由がある可能性がある。

と、被害以外に理由がある可能性がある。

- ① 高売のため。
- ② 信者間の分裂の理由が考えられる可能性がある。

アビシニア特住は上述の如くに

- ① 直害説
- ② 高売説
- ③ 内紛説 と合致する可能性がある。

丁史序講義

第20回 (11月22日)

615年頃、80人余りの muslims が アビシニアに移住した。
 迫害を逃げるためと説明されるが、普通であるが、これには
難点がある。 即ち 622年に マホメットが muslims を率いて
メディナに移住し、ここをイスラム国家を建設したにも関わ
らず、アビシニア移住者の中の一隊の中にはこれに加わら
ないで、628年までアビシニアに滞在していた事実で
ある。 (後述にて \Rightarrow Xデナ)。

そこでこの難点を説明するため、高橋説、内務説がある。
 さらに 622 ~ 628年 の アビシニア滞在を $\left. \begin{array}{l} \text{ } \\ \text{ } \end{array} \right\}$ して説明でき
 るのである。 ✓ 高橋説等と一致している

さて信徒がアビシニアに移住し、マホメット達の族の保護を受けるといえるが、陣中はメッカに残ったが、マフラー
ム族の アム・ジャマル と初めとする迫害者達の追放はす
らなく、アム・ジャマルの各の族長を殺すしか残らず、
クライム部族の全族は ハムラ と ムタリブ と ハム
ハムに分かれた。 具体的には

- (616年頃) $\left\{ \begin{array}{l} \text{①} \text{ 二つの部族とは婚姻関係を保ち結ばれた} \\ \text{②} \text{ 二つの部族とは一緒に高橋を討つ} \end{array} \right.$

→ (ニヤに遠征する)

○ 両家は各々自分のキヤラバンをもっていったし、Xツカ外の
 ベトナムと高取引をできたし、その「みどり」= 村
 八分は両家にとって戦時期的に致命傷であったか
 けではない。二二にもG送単位で独立して3遊路
 隊の便益が幸いしている。直接の暴力に与った子わけで
 はないから、大した痛手とは取れなかった。= 5ツカ
 けで村八分を結んだ最初の5ツカは通害に与った各G送
 はきん35ツカ(2ツカ)が、有名無実には... (2年経てば3ツカ)
 4ツカG送もあつた。(村八分に1ツカと3ツカ後に何の
 利益もなかった)。
 (= 2ツカ、3ツカ、大商人達の独占率が増えたと見られる)

○ 11-34 家や4ツタリブ家に信託が特に多かつたといふ
 証拠はない。ただマホットの教へが、Xツカを独占
 している大商人の批判となつてゐる = 2に打ちあつた同意か
 あつたと思われる。 [... 意味は!! ...]

↑

◎ 619年 ハデーニヤとアブー・ターリブが死んだ。
 ハデーニヤの生前は^{マホットは}他に妻をめぐらなかつた。マホットに
 4ツカあつた妻であつたらしい。
 [ニヤツ]
 アブー・ターリブの死によって11-34家の家長の地位に
 ついてはアブー・ターリブであつた。

これはなすけの男で、はじめうすは アブー・ターイフ同様

説明
アブド・シヤスは
マフス・ウサ
と並んで、
最も金持

マホキットを保護し続ける といっていたが、アブー・シヤフル

側りからの 控えを見返りをもつて マホキットを out-law
→ [アブド・シヤス家の女を嫁にもらった]

にある約束をしてしまった。そのため 攻撃かたてられ

た。 アブー・ラハブは 後に 『アブド・ピルハ...ターイフ』は

今どこにいるか、地獄にいるか、或いはそこで死んだか』

と尋ねた。 マホキットとしては 地獄にいると答えるわけ

にゆかばかった。 (マホキットがアブド・ピルハ...ターイフは死んだのだから)
かつてのシエフを 後悔かきめるかかす

言葉により、現在のシエフは かかす言葉を 送ったマホ

キットに 対して 後悔かき 保護も 取り消すと、恥じかき

を 送ると 宣言できたのである。 → シエフとして 己の後悔を 認める
→ シエフとして out-law になっている、その正當な
理由がなすけ、守る力がなすけに なくなる といえた

として out-law となった マホキットは 力に 任せると

か できなくなり、

力、力の 東約 60km (40 マイル) にある アブ・ターイフ

の町を 訪れた。 この町には サキーフ部族 が 住んで

いて 経済的に 力に 支那 されていった。

彼は 保護と イスラーム 建設 (事業) のために だもて...に 出た

れる。 これは 失敗、して 拒否 された。

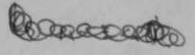
→ サキーフ部族は
クレイニエ部族に 解雇
されたため、
9と、マホキットは 期待した
し、

この他 (X...カ部外に 手取 残る) (事業) 部族と 接触 せよと して

これは 失敗 している。 X...カ ナウアル家の 保護を

5/17 金 2

たが ちと



得ることに成功してマホットはXッカに入ることができた。

ナウアル家の保護の条件はXッカにはその教を口にしな
いことだった。

619年は985にマホットによってつら...年だった。

620年

ヤスリブ(後のXディナ)がXッカにきていたケネシ ^(P521/19)

6人がマホットに接触した(マホットの死と伝
う)かきと聞... てやった。6人のヤスリブ ^(1月) ^(P521/19)

は強い感銘を受け帰っていった。翌621年
のケネシは、去年の6人の555人が他に7人とともに
マホットに会いに来た。彼等はマホットと
Xッカ郊外のアカバの谷で会食した。

何故985にヤスリブの...がマホットに接触したと
きたのか...とは。それはヤスリブの事情にあった。

ヤスリブのT史

複雑な政治・経済

ポルマイオスの地盤でマコラバヤに出ているXッカと
ともに、ヤスリブと...名で...。つまり非常に

古い街である。Xッカ ~~の~~ 北方250マイル $(250 \times \frac{3}{2} = 125 \times 3 = 375 \text{ km})$

に位置する。Xディナはオアシスからなる農耕地

で代々ナツヤニ; 穀物の栽培が行われていた。

古くから...にコギヤ教徒が良徒に農業に従事して

「た。このユダヤ教徒が民族的にユダヤ人だから、民族
 的にはアラブ人でいいユダヤ教を信奉していいから、分けて
 いい。言語はアラビア語を用いた。また、小規模では
 あったが高利貸を喜んでユダヤ教徒の一人もあっ
 た。この一人も民族的にユダヤ人であったかどうかが分ら
 ない。」

エマヤスリブにはこのユダヤ教徒の他に ~~アラブ人~~
 人が30民族 ~~を~~ 余り定住した。このアラブ人は「わが
 南アラブ人で遊牧民と化して北アラブへと移住してき
 た一派である」 ^{最初}「このアラブ人はユダヤ教徒の小人として
 エマヤスリブに住み、移る人口を増してユダヤ教徒と
 肩を並べた。」 ^{最早車馬利作人} ^{この地位はとどまらなかった。}

た。このユダヤ教徒の85%は奇装異服で暮らすマ
 (2部族が主だった) ともいえる、ユダヤ教徒がこれに独立した遊牧民 ^{この遊牧民の性格を}
~~受け継いだ~~ ^{あり、}

~~ユダヤ教徒は~~ 遊牧民と化し、小規模の商人として
~~暮らすようになった。~~ ^{ユダヤ教徒は} 30民族間の抗争は全く無
 かった。

この30民族間の抗争は全く無かった。このアラブ人は各民族
 間の争いを調停して ^{調停者} 維持して
 いた。この85%は ~~ユダヤ教徒~~ ^{調停者} としてユダヤの市場に
 参加した。 ^{中立性}

- 調停者の条件
- ① 30民族の力に均等に属する。
 - ② 争いを止めることができる。
 - ③ 経済上の争いがない。
 - ④ 大ユダヤ教徒の下に置かれるべきでない。
- } この4つは政治的リーダーの不可欠な性格である。マホメットはすべて満たした。

つまり、農畜や小規模では...の交易と生活とが場合

遊牧民の85%に4族単位では各自が自給自足で、4族

と云うに Inter-Clan が必要であることは、自然に

ヤスリブのアラブ人が示しているところである。

換言すれば、遊牧民の ~~生活~~ 倫理ではオアシスの農耕生活に適合しなかったのである。
[遊牧民の倫理は水が枯れたら死ぬ] <1回のみ>

この場所
の30%
は...場所(遊牧)
では遊牧民の
倫理が30%
作用する

(当時おこなわれていた)

① 以上の条件をヤスリブの条件にあり、ヤスリブのアラブ人達はマホメットをヤスリブに招き彼等の調停者になって貰おうとした。

② 2985年 ヤスリブの動きを受けてマホメットはじこ動かれた。彼が当時置かれていた苦境をオマエは当然である。

620年に6人のヤスリブのアラブ人がマホメットと接触した。翌

③ 621年に12人の人達がやってきてマホメットとアカバの谷で会食した。この時マホメットとヤスリブの人達との間で何らかの取り決め一契約が行われた。

この取り決めは「オマエのアカバの誓い」である。

つまりマホメットが調停者としてヤスリブにのりこむにつき、相手が「512回」「512回」「512回」...合、512回守る。と取り決め、それを守ることを誓ったわけである。

具体的にはマホメットの側からはヤスリブの民からムスリムと名をこたえさせたわけであるが、本質的には「オマエ」と云う

(本質的) 結果に1754年の

だが、命がけで、具体的にイスラ教徒を3人に誘った、
行はし、盗み、性的にふれた事 etc. を1回55に本め、
また、ヤスリブの民を教化すべく、マホメットの弟子を一人
ヤスリブにはけんが子=とを懸めるとを本めた。

ヤスリブ側からの要請は論マホメットがヤスリブに勸誘者
として来たか子=とであった。マホメットはすくりに赴いた
わけではなから、ヤスリブの全アラブ族からマホメットを真に
勸誘者として受け入れようべく、ヤスリブのマホメット派をけん
した弟子を通じて工作している。=512-1年かた。

① 622年の巡礼で、^(女=人=を)75人のヤスリブのアラブ人が、再び
アカバの谷で真夜中にマホメットと会見し、^(信託)今度は
車に4スリ4と正3=とのみ乗った、アッラーヒを39使徒
のために戦うことを誓った。これが「カハバの
誓い」>>と知られている。

△ かつ、= a アカバの誓いは信託に基づいて、
= a 形式で確定に行なわれたか、と疑わしいとみる
学者もいる。

② しかし、マホメットがヤスリブにあり=とに、如何なる条
件でなされるかについて、信託と信託との間に数回の会合
がもたれたとある=とは疑わしい。

③ =512-1年、メジラの道は完全にひかれたのであった。

→ 伝は、[マホットは緑色の外衣を愛用していたが、アリーの緑色の外衣をいつかぶったマホットの背に刺さった。そして目をあけていてこの間に、マホットとアブー・バクルが深夜マッカを脱出したとされている] (2)

直ちにマホットとアブー・バクルはマッカを脱出して、急ぎ南の道を通り (ヤスリブはマッカの北東に位置する。南に向ったのは「万が一の場合に」)

カスル山) マッカの南の郊外のカスル山の麓に三日間身を休めた。3日間を過ごした。二人はヤスリブに向った。

622年9月24日 無事ヤスリブに到着した。その3日後、アリー

がヤスリブに着いた。

このマホットのマッカからヤスリブへの移住をヘジラ (Hijra) と呼ぶ。アラビア語ではヒジュラ) と呼ぶ。日本語では聖遷

と称する。 (本意は中国語、中国のイスラム教徒の中国語訳)

ヒジュラは元にも固有名詞では無く、たゞ一般に「移り住む」と意味する普通名詞である。

このヘジラによってマホットとイスラム教のありさまはガラリ180度の転換を見た。ヤスリブはマッカに比べれば規模の小さい

農業都市ではあったけど、たゞきとした独立都市であった。マ

ホットは(53歳で) 辞任するが) 11ヶ月その首長となっていたのである。

マッカでは居候で文字通り小ぢかくなって、イスラム教に聞かせることは出来なかった。

Mecca イスラーム Yathrib

禁じられた美しい都 平和な美しい国

マホットの脱走に荷付したマッカの人々は、マホットの脱走に驚き、マホットの脱走を阻止しようとした。マホットの脱走は、マホットの脱走を阻止しようとした。マホットの脱走は、マホットの脱走を阻止しようとした。

マホメットはヤスリブに、アッラーの意志に自らをゆだねた人々
にあって、アッラーの意志にかなった生活を好む人々の国家を建設
するべきであった。

マホメットに於てヤスリブは併大なるイスラーム国家 (ウママ)
に変えられたのである。

① このために、^(後に) ヲマイヤのウマヤ朝の時に、ヘジラが行なわれた
年の1月1日 (太陽暦の) を紀元元年とすヘジラ暦
が定められた。^(922年の) 太陽暦の1月1日は太陽暦の7月16日

である。ヘジラ暦の紀元元年 = 西暦622年7月16日である

ゆえにヘジラ暦と西暦との間には次のような関係が
成立する。 → ヘジラ暦は太陽暦である。1年 = 12ヶ月 { 奇数月 = 30日
偶数月 = 29日 ∴ 1年 = 180 + 174 = 354日

↓
今から何年何月何日か
を問うことは出来ない。

A.H. 10年以前
のdateは確定さ
せることが出来
ない。Mercat
Medinaの
暦の日付は5か
6か7か8か9
か10か11か12
か13か14か15
か16か17か18
か19か20か21
か22か23か24
か25か26か27
か28か29か30
か31か32か33
か34か35か36
か37か38か39
か40か41か42
か43か44か45
か46か47か48
か49か50か51
か52か53か54
か55か56か57
か58か59か60
か61か62か63
か64か65か66
か67か68か69
か70か71か72
か73か74か75
か76か77か78
か79か80か81
か82か83か84
か85か86か87
か88か89か90
か91か92か93
か94か95か96
か97か98か99
か100か101か102
か103か104か105
か106か107か108
か109か110か111
か112か113か114
か115か116か117
か118か119か120
か121か122か123
か124か125か126
か127か128か129
か130か131か132
か133か134か135
か136か137か138
か139か140か141
か142か143か144
か145か146か147
か148か149か150
か151か152か153
か154か155か156
か157か158か159
か160か161か162
か163か164か165
か166か167か168
か169か170か171
か172か173か174
か175か176か177
か178か179か180
か181か182か183
か184か185か186
か187か188か189
か190か191か192
か193か194か195
か196か197か198
か199か200

大体
$$A.D. = A.H. - \frac{1}{33} A.H. + 622$$

① マホメットがヤスリブに建てた街 Madinat al-Nabiyy
(予言者の街) と呼ばれた (ヤスリブは) al-Nabiyy かつ
省略された。マディーナと呼ばれた。…… とす = ことに
なっている。 [他説ではイスラーム以前にヤスリブはアッラ
al-Madinat と呼ばれたと云う。]

② メッカからメディナに移住して来たイスラーム教徒

は ● クハーン と呼ばれた。
(移住した人々)

メディナのイスラーム教徒

は ● アハラー と呼ばれた。
(土着の人々)

~~③~~

- ① ムスリムの数、クハーンの数 約 70,
アハラーの数 約 80,

約 50%、クハーンとアハラーは、アヒマに移住して来た教徒が約 2 倍あり、~~約~~ また 50% のイスラーム教徒は約 2 倍のメッカから移住した人々、150 人のアラブ人のなかでイスラーム教徒に約 2 倍のメディナに住む約 100 人いた人々、約 100 人、次いでクハーンが追加し、約 1/3 アハラーも次いで入居して、
メディナのアラブ人は全てイスラーム教徒即ちアハラーとなった。

- ② マホメットがメディナに住んだ時に、その家は後に「アブ」
「予言者のモスク」となった。

↳ マホメット、アブーバクル、ウマルの墓がある。

③ メディナに於けるマホメットにまつて

○ さて1983年にマホメットは Xディナに本拠地をかま
Xディナに全く移った、イスラーム国家を樹立
したわけであるが、
(ウマ)

具体的にその構造はどのようなものか。

これは非常に都合のよい史料がある。

それは 《Xディナ憲章》 と呼ばれる文書である。
→ 《ヤスリブ聖約》とも呼ばれる。

◎ これはマホメットと Xディナの アラブ人及び Xディナの
ユダヤ教徒との間に結ばれた契約を474条に
わたって記したものである。

この Xディナ憲章に関して、
→ この文書がいつどこで書かれたか！
どういった形での書かれたか！ ... 議論
を伴う。

~~XXXX~~ 或る時、或る所で、マホメットと Xディナの アラブ人
(ヒジュラ直後) Xディナの ユダヤ教徒
との間で、474条の文書をつくらせて三者を合意させた
◎ 条約の締結を記した文書であるのか
いつ頃に ~~書かれた~~

それと
《ムハムマドの誓い》以来、概してマホメット
と Xディナの アラブ人との間で結ばれた(べき) 契約 の 文書に
まとめられたものであるのか

Watt は 様々な理由をあげて、後者の見解を主張している。
これはこの文書が作成されたのは、少なくともヒジュラ後5年(627年)
頃のことである。

どっちが正しいかは、それだけの見解に一長一短があって
断定は出来ない。しかし、どっちにしろ「32」文書の114と
あると3に変化が生じるわけでは無い。

≪Xティナ憲章≫はよくてこの「繋ぎ文」書である。

47条の前にはY2985の前文がある。

下史序讀義

(1)

第22回 (12月6日) ⇒ 休講 (入付採点のため)

第23回 (12月13日)

× ティナ憲章 ... 50 聖った契約文書である。

47 条の契約文の前には 12 の 85 条前文がある。

← この文書は ~~...~~ 万々以後 ~~...~~ のイスラ
[慈悲深く、慈愛あまねきアッラーの御名において]

教徒及び「ヤスリフ」のイスラ教徒と 彼等に 従った 彼等と

ともに 聖子戦いに ありて 人々との 間 の 言者 2 人

と、トの文書である。 彼等は 他人とは 区別さ

れる一つの 共同体 (Ummat) と 成る。 ⇒

多神教徒

◎ 条文の 47 条の 内容を まとめて 2 つと

約 20 条 } 1. イスラ教徒 相互 間 の 関係 ⇒ 相互 保護 と 同胞 愛 (兄弟 愛) と 強調

2. イスラ教徒 と 多神教徒 と の 関係 ⇒ 相互 敵対 と 復讐 愛 と 強調

約 15 条 } 3. ヨリヤ 教徒 の 義務 と 権利

約 10 条 } 4. ヤスリフに 於て ^{新たに} 2 つ 族 と 2 つ 族 と あり たる 9 つ 族 に 関する もの。 即ち、血の代金 と 身代金の こと。
(2 つ 族 族 長 の 4 つ 族 構成 あり たる 2 つ 族 あり たる)

。 9ヶ條の5 最初のものは

411-ギル-ン の 集團 (マル、ト、ト、ト、ト、ト、ト、ト、ト) である。

。 8ヶ條の8 は アニマルからなる。

さうと以上 4つに分類される。

これから言えることは、

①

前文にもあるように

今のイスラム教徒は多神教徒より豊か

かつウマと結成していること、

新正に << 信仰のまじり >> であることは明らか

である。

「史学」

(1)

第24回 (12月20日: 冬休み前最終の講義)

「基本法」第47条の内容及びその趣意、

第20条

Ⅰ 相互に教統相互間の関係 ⇒ 相互保護と同胞愛
と強調

Ⅱ 相互に教統と霊神教統との関係 ⇒ 相互理解と尊重
と強調

第10条

Ⅲ 又「ついでに」新たに「宗教」と認められる「宗教」に關する
こと、即ち「血統」の「身」の「規定」。

(つまり「道徳」の「宗教」の「規定」を「規定」することである)

① 「宗教」の「規定」の「規定」は「41-21-1」の「規定」(「宗教」
「規定」の「規定」) 「規定」の「規定」は「宗教」

からなる。

←「規定」前文→

第15条

Ⅳ ヌダヤ教統の義務と権利

「規定」以上の「規定」に「規定」される。

「規定」の「規定」は「規定」。

② 前文にもあるように、即ち「相互に教統は霊神
教統と「規定」の「規定」を「規定」する」とい
ふこと、新たに「信仰の「規定」」に「規定」を
「規定」することである。

③ 更に「規定」の「規定」に「規定」は、形式的には
(法律的、契約上は)

彼は Xデーの日の途中の1日後の日経長に
 すぎなかった。しかし、1254教団間の1152は
 は全て ~~XXXX~~ 又、X、T ~~XXXX~~ に解決を一任
 されている。奥力的には全 Xデーに力が及んでい
 たが、Xデーには G 級の上のランクである強長
 と... 若くは若者が伝統的になかつたので、(X、Tに於て
 も強長はなかつた) 実質的に Xデーの支配者
 といえる。大きな行事(例えは戦争)は彼が
 主導の会議、~~XXXX~~ の結果にまつた。

① 411-311-2 と アンサールと一人一人の間には義兄弟(411-11
 の関係と結びつけた。

兄弟は助け合わなければならぬので、義の身、39まで
 で、格位にきた411-311-2の生活の面倒をアンサール
 にみさせること計算があったわけである。新正の
信仰に与る兄弟 は下げさと言えは革命的ともいえる。
 もっとも、もっとも豊かだった。倉庫集団に、糧食集団
 が加わったわけ、生活の面倒をみることも正
 がか知られた。そこで伝統的な キヤンパ の
啓蒙 を始めた。高貴なる予言者が強盗をやるな
 といふ、その他若くは若くは若くは若くは、raid は当

ぬすとも悪...とは答へたは...かた。

キャラバンをあげると...でもどこのキャラバンかといふ
は当然! キッカのキャラバンであった。

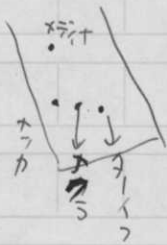
第25回 (1月10日 : 冬休み明け最初の講義)

前回まで ... ともともと豊かではなかったヤリゴの
 アニマルの所に Xツカの極貧の(着の
 身着のまの) 411-311-2がや
 ってきたので、食之の度合いはま
 すす深まり、その結果 キヤラバ
 への襲撃が始まった。それは
 裕福な Xツカのキヤラバへの襲撃
 といふことになる。

勿論この襲撃の目録は 自分達の収入を削ると
 いふ他に、 異神教徒の集まり Xツカ ~~の~~
~~の~~ に damage を与えたといふ意味もあった。

→ 記録に残されている重要な戦いは、 623年3月に最初の襲撃ラッセル
 が行われた。
 317人が 300人 vs. 30人 (20人
 の捕虜)

624年1月 : 10人前後の411-311-2 (対) 4人のボテ・ガード
 (8人~12人) とつれたXツカの
 キヤラバン



√ アブド・アッラ-の指揮 (2日間 東に向って進み
 300名 襲撃した) 411-311-2 僅けの勝利,
 Xツカがキヤラバンを奪った。

商品が奪われ、
 ボテガード
 1人が殺され
 2人が捕えられた。

2月 は 神聖月 (7月に相当)
 で戦いは禁止されたので、
 マホットは ほんたうに
 手かいていった。

外は戦いになるわけである
 襲撃を受ける側はホニマリと
 襲撃する側は
 防衛する側は
 ニ

238
86
324

(2)

ハドールの戦い

624年3月15日

非常に大規模にキャラバンが (ラクダ1000頭分)

シリアから → ヌッカ

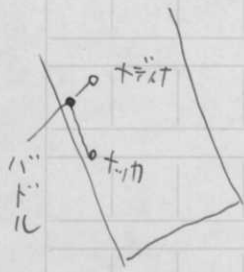
この情報を手にしたマホメットは 全兵力を動員して (324人)

この襲撃に向った。

マホメット出撃の情報を入手したヌッカでは直ちに アブー・ジャフルを指揮官とする1000人近い兵をキャラバンの守護のため ヌッカから出陣させた。

もともとキャラバンには相当数のボディーガードがついてはいた (70人であったとされ、50名は未だとされている)。

そして両軍は、
ヌッカの西側 125km } ハドール
ヌッカの北 215km }



で相対し、3月15日に戦闘状態に入った。

この戦いは全イスラームの軍命をかけた一戦であった。イスラーム側は全兵力を ~~投入~~ した。

この結果、ヌッカ側は全敗であった。

ヌッカから出撃した1000人近い兵のうち、300人近くが戦闘の前にヌッカに帰っている。これはキャラバンのボディーガード隊の死傷による。しかし、残りの兵はよく戦った。何れにせよ、戦いはヌッカ側の勝利であった。ヌッカからの援軍をこぼしたためである。それによって300人近くのものがヌッカに帰って来た。

それぞ、バドルの両軍が相まみえられた。
両軍の勢力比は、Xツカ軍が下層2倍
くらいであったと知られる。

3月15日の「バドルの戦い」でイスラム軍は大勝を博した。

Xツカ軍の被害：
戦死者：50人〜70人
(総指揮官 アブ・ジャハルを含む)
捕虜：68人又は69人
総は敗走

イスラム軍の被害：
戦死者：14人

キヤラバンの^{自陣}は^{自陣}被害を^{自陣}受けてイスラムに降伏した。

バドルの大勝の影響は大きかった。

① Xツカにたいしては「おまじき」おまじきおまじきおまじきの商品の奪取
(食糧)

② 捕虜の身代金 (捕虜の中にはXツカの名門がいて
この名門の者に対する身代金は^{巨額}であった)

③ またXツカはこの戦い以前には^{Xツカ}軍に^{Xツカ}の
9族のうちの1族の^{形式的. 契約上は}地位
しかなかったが、この戦いの結果、~~この~~形式的にも

×デパート全体、長と短つて。

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
⑨
⑩

① 彼は全戦利品の $\frac{1}{5}$ を自分のために取り、 $\frac{4}{5}$ を参加者
全員で分けさせた。(自分のためにも、金い人 \rightarrow 出た。
②、③、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩、⑪、⑫、⑬、⑭、⑮、⑯、⑰、⑱、⑲、⑳、㉑、㉒、㉓、㉔、㉕、㉖、㉗、㉘、㉙、㉚、㉛、㉜、㉝、㉞、㉟、㊱、㊲、㊳、㊴、㊵、㊶、㊷、㊸、㊹、㊺、㊻、㊼、㊽、㊾、㊿、

② = 彼は $\frac{1}{3}$ の遊牧民の間で、戦利品を参加した場合は

戦利品の $\frac{1}{4}$ を部族長が取り、残りの $\frac{3}{4}$ を参加者
の間で分けた。とと関連がある。

= 40% の $\frac{1}{3}$ の遊牧民の常駐地があったとしても、 $\frac{1}{3} = \frac{1}{3}$

とが之、また $\frac{1}{5}$ の取り分けと $\frac{1}{3}$ の取り分けは、

即ち、彼は部族長が取り分けと $\frac{1}{3}$ の取り分け
あり。

~~① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿~~

以上 角川書店に
次の記事は $\frac{1}{3}$ と $\frac{1}{5}$
とを補正する。

厂史序講義

(1)

伊26回 (1月17日)

バドルの戦い ○ 624年3月15日

- 非常に大規模のキャラバン (ラグダ1000頭) がシリアのガザと通ったキッカに近づきつつあるという情報が来た。

ラグダ1000頭のキャラバンと云うのは珍しいが、これは小規模の

キャラバンがキッカの4スリムを攻撃を恐れて、合流して

大キャラバンとなって充分なボディーガードをつけておくと見られる。

この大キャラバンは船70人を率いたアブー・スファーン

によってガードされた。

- この情報を得たマホメットは直ちに可能な限り全兵力を動員してこの攻撃に向った。この兵力は300人

以上はいたと見られる。 [或るリストによれば]

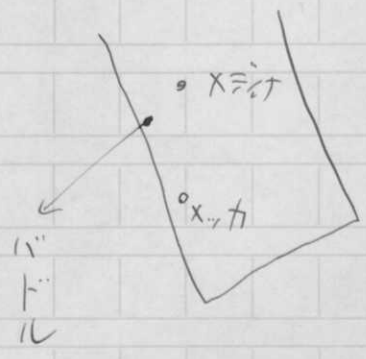
238人のアハル
86人の4ハジール 計 324人

- マホメットが攻撃の情報を入手したキッカでは直ちに、

アブー・シヤールを指揮官とする船950人の兵力を

キャラバンの守護のためキッカから出兵させた。

- キャラバンを率いるアブー・スファーンもまたマホメットが攻撃の報を知り、ルートを変えた。



バドルでまじぶせ(イスと1区)であさか
 キヤラバンが迂回してルトをはずして
 いると... = 4日 マホメット軍には ~~命令~~ 命令
 したらしい。
~~この時、マホメット軍はバドルを占領した~~ しかし、Xツカ

{ Xツカ北215km 軍はそのままバドルにあり、3月14日の夕刻バド
 Xディヤの南西125km ルにキャンプは張った。

一方、Xツカ軍総司令官のアブー・ジヤフルもまたキヤラバン
 が迂回してルトを離れたと知らせを受け、29日Xツカ
 軍の中には、キヤラバンは無事なわけから、事態は
 危ないとは主張するものもあり、総司令官は(2日ほど)兵を引上
 げたが、残りはバドルを目指した。アブー・スファールも
 兵を引上るにXツカ軍に命令を送ったとみられるが、
 アブー・ジヤフルはここでマホメットをたてかたはなすかと考
 えてあつた。結局はバドルを目指した。これは単純な
 勇将(インズィヤ)ではない性格になつてゐた。

- 両軍は3月15日に戦闘状態に入った。
- 両軍の兵力は 650人 v.s. 324人
- Mecca Medina

○ 戦闘の結果はイスラーム側の圧勝に終わった。

② 自信が失われるモラルの喪失
① イスラム側は中東の歴史を知らない

イスラムの大勝の要因

キッカ側の被害 : 戦死者, 45人 ~ 70人
捕虜者, 大津上と同じ

実342トでは 戦死者 68人 }
捕虜 69人 }

◎ 戦死者には 総司令官 アブー・ジャフル をはじめ
多くの有力者達が含まれていた。
(12人)

イスラム側の被害 : 戦死者 14人 { 411-ジール-ン : 6人
アサール : 8人

バトルの大勝の影響

- ① イスラームに大量の戦利品を没収した。(大軍をけしきしたの
で相手をたぶらした)
- ② 捕虜の身代金 (捕虜の中にはキッカの名門の者もいた)
この名門の者に対する身代金は巨額であった)
- ③ キッカ側にとって 多くの有力者 15~20人のうち
12人が戦死したことは大に痛手であった。
- ④ キッカの威信が大きくゆさぶられた。
- ⑤ イスラム教徒に与えた自信と、宗教的感動は大きかった。
キッカ側の自害の日々、キッカ側の貧しい生活の日々、の苦境
(居候の)
でイスラームに驚きと歓喜の日であった。
また、それは自分達の宗教がまさかこうなることでは
神が助けをくれたこと、etc. でイスラム教に与えた報
けは大きいと喜ぶこともあった。

⑥ マホットは 29 バドルの戦い。以前では
 形式的に、契約上は 車に X データの 9 族
 の 1-29 族長と 12 の地位しかなかったが、
 29 戦いの終、形式的にも X データ全付
 の長と化した。

。 29 戦いで彼は 全戦利品の $\frac{1}{5}$ を自分のためにと、
 $\frac{4}{5}$ を参加者全員で分けさせた。(自分のためにもって
 食いや explain, 他人を助ける費用にもあてた)

⑦ これは アラブ諸国民の間で、戦いに参加した場合
 戦利品の $\frac{1}{4}$ を部族長がとり、残りの $\frac{3}{4}$ を参加者の間で
 分けた。とて 関連がある。

これが アラブ諸国民の常識であったならば、幸 = 3
 とかえ、マホットが $\frac{1}{5}$ をとることと認められたことは、即ち、
 彼が部族長であったことを認めたことなのである。

X データの戦い

丁史学讲义

1月27日 (1月24日)

1月28日 (1月31日)

バドルの大敗後、Xツカ側は復讐の準備に忙しかつた。

Xツカに大敗を喫したままだとアビシヤ半島の通商の

独占の地位がくずれ去るからである。

Xツカが練兵は出来た
Xツカが戦いの上にならぬ
いた

Xツカ側とXツテナ側との間に小さな争いがあった

後、遂に625年3月11日 3000人がいる軍をXツテナ
(教頭官: アブ・スパーン)

にかけた。395700人が襲かたウツと着ていた

これは遊牧民とアビシニヤからの傭兵を合み 馬 200頭
ラマ 3000頭

と争った。つまりXツカは決戦を企てたのである。
《ウツの戦い》

3月21日

Xツカ軍はXツテナ北方のウツの丘の近くに陣營を

深夜

設けた。このあたりにはXツテナの兵が居たが、
遊牧民はこれを見かねてに助けを求めた。

3月21日

マホットは700人(ウツか)を率いてXツテナの陣營を

Xツカ軍の背後にまかり込み、Xツテナに居る軍との

間にXツカ軍を挟む形になった。

3月22日

戦いが始まり、初めはイスラム軍側に有利であった

が、ほんの間に、~~イスラム軍の兵~~ Xツテナ

に逃げ戻ってしまった(マホット軍はウツから出

たらしい)。マホットはウツの近くに居た

まていた。イスラム軍は、アビシニヤ、アム、アブ・スパーン

マホットはウツに居た
アビシニヤの兵は
ウツを占領した
マホットはウツを
占領した
アビシニヤの兵は
ウツを占領した
マホットはウツを
占領した

マホットはウツに居た
アビシニヤの兵は
ウツを占領した
マホットはウツを
占領した
アビシニヤの兵は
ウツを占領した
マホットはウツを
占領した

マホットはウツに居た
アビシニヤの兵は
ウツを占領した
マホットはウツを
占領した
アビシニヤの兵は
ウツを占領した
マホットはウツを
占領した

アッパはアラブ人には居るために決戦と見做された。

メディナの住民の中で
イスラームに反発もしている連中
が戦いの際中メディナに帰り、
そこでイスラム軍に奇襲されて
かけることを期すし同じくそこには居ることに
した

アブ・スファーンもかなりの
傷を負った、また戦
かまかたり落したことに
ある(馬が死ぬ) (2)
死傷は多
くだった

スファーンは戦局の中止を命じてメッカ軍をよそへて
帰った。 (何の途道もなかったが) メディナにはとりで
かきとりでに逃げこんだ守りの強固になり不利が
なかなとみられた。 ところで ~~メッカ~~ イスラム軍の作
戦もとりでに閉ざされてうごめくことが出来ず、老
人達の意見で、うごめくことが出来ず若者達の意見で
かきとりめた。 だが、またメッカは若者達の意見を
入れて、うごめくことが出来た。

メッカ軍はメッカに居る者
がメッカに居る者

メッカ軍がメッカに居る者
がメッカに居る者

若者の意見の理由

・ イスラム軍の被害

・ メッカ軍の被害

戦死者 75人
(そのうちメッカの騎兵は52)
(イスラム軍は食糧で馬が死ぬた)

戦死者 27人

① このウツドの戦いは、戦い自体に於てはメッカ軍が勝ったとい
える。しかし、決戦でメッカに12はイスラム軍側 ~~メッカ~~ に
かきつた打撃を与えることが出来た。
3000の大軍と相手に充分に戦ったこと自信をイスラム軍
側はもつた。

② またメッカはウツドの敗戦で、アッパに53倍印が ~~メッカ~~
とてとる且つ護衛してゐる。 [イスラム軍のマニフェスト]
 (評練)

③ 結局のところ、メディナに於てはメッカ軍の地位は何も変わらなかった。

④ この不戦に終わった戦いの結果、両方とも主として同じ国民と
味方に引き入れた勢力を境下とせよとて力を注ぎ、また互
いに勢力を示して互いに軍を争い、また争った。
このせり合いはあつた戦局にはなつた。

⑤ かくもかきつたメッカは、

627年3月

「ハンダク戦」

○ ヌッカは1万の大軍をステータに派遣した。

軍馬 600頭. ~~...~~ 三个軍団に命じられていた。 (全軍中)

○ ニホに対してマホキットは3000人の軍で対処。 (大半が歩兵部隊: 2900名はイスラム軍は騎兵隊を持って居た)

○ ヌッカ軍はステータにつくとウダの丘に陣をしいた。

○ マホキットはステータの街の中を迂回して軍勢をこせしめて、かつステータの出入口に ~~...~~ 塹壕 (平坦な) と掘った。

この戦いはハンダク(塹壕)の戦いと呼ばれ、この戦いは29日である。 (守備)

塹壕はアラブ人には目新しく、1000名は従来の戦法であるが、マホキットの弟子である1000名は新法を採用して居た。

ヌッカ軍がヌッカを陣にした知らせを受けた直後に塹壕をほりつけた。ヌッカ軍が到着時には掘り終わった。(工事は6日後に完成した)

○ ヌッカ軍は3月31日ステータ ~~...~~ 攻撃を開始した。

主力の騎馬隊が ~~...~~ 塹壕を突破出来ず、隣にせり入る二ヶ所を突破出来た。 (2) 同時に二ヶ所も塹壕を突破できなかった。ヌッカ軍の士気は落ちたが、寒気が吹き出しスッカリ白けてしまったと云われている。3月31日ヌッカ軍はステータの包囲をこえて引上げてしまった。

ステータの東・西・南側は岩の流石で囲われていたが、北側には塹壕が掘られた。

歩兵部隊はイスラム側には居るが、二軍は互いに打ちあつて居た。

夜襲も討みかけたが、見張りには46の騎馬隊が居た。

① = 9 騎 "... マホキットが... 作戦は ① 57ト... 1889... 551... 322... ある
 かつたこと ② ハンタウ... 打ち退けたこと 900に
 600 騎の 敵の 援 効力を まひさせ 子 隊 内に、Xディナ
 馬が 322

② 周 辺 の 奉 火 隊 の 奉 火 全 2 4 1 1 1 2 2 " (馬 9 騎)
 料 を 取 っ て せ じ ま っ た。

③ = 5 12 4 騎 が 6 人 の 戦 死 者 を 1 2 3 4 軍 団 に 分 け ば 9 騎 で
 Xディナ軍は 徹 退 した が、これ は Xディナ に 対 して 致 命 的 な 痛
 手 と な っ た。

戦死者は 3 人
Xディナ軍 団 の

- ① 1 万 人 の 軍 勢 を 組 織 的 に は 莫 大 な 成 果 ... 2。
- ② かがり大軍を 打ち 退 け Xディナ を 落 と せ ず かつ た こと に
 よ る 威 信 の 隆 下。
- ③ 遂 に Xディナ 側 の 威 信 の 高 まり、自 信 の 増 加。

④ = 9 戦 ... 以 後 周 辺 諸 軍 団 に 対 して Xディナ の 影 響 力 は 高 々
 と な り、そ の 分 反 対 側 に Xディナ の 影 響 力 は 強 ま っ て い っ た。
 また 意 識 的 に マホキット は 3 軍 団 に 配 置 して い っ た 9 騎 だ っ た。

⑤ Xディナ の ~~隊~~ 兵 と み れ ば、これ に ラッズニヤ を 加 へ る こと は 勿 論 2
 あ っ た が、Xディナ も ま だ 大 規 模 な キヤラハン を 3 リア
 に 送 っ た り し じ め っ た。

~~XディナとXディナの戦いは、5512、逆転したことも云えた。
 マホキットはXディナに軍勢を率いて武力侵入185と
 区別して、... Xディナに922ある。~~

⑥ 7-11 (Xディナ) の 3 向 に 対 して 礼 拜 を 始 め っ た 9 騎
 624 年 2 月 9 日 まで。これ 以 前 は エルサレム の 3 向
 に 向 っ た 様 子 だ っ た。

以上
 1/24

何 故 エルサレム ⇒ Xディナ と な っ た か と 言 っ ば

その論から マホキットとエジプトの宗教の関わりが雲行き
 が怪しくなりはじかたからである。
 マホキットの言は従来のエジプトに 新神 9件 とい
 エジプトの宗教を偽るとしての対して エジプトの宗教
 は旧約聖書とエーラニの違ひを指摘するに非
 ず一向にやめるとしての対しての対しての対しての対しての
 対しての対しての対しての対しての対しての対しての

マホキットの力が強まることにより、エジプトに於けるエジ
 ヲトの宗教から離れさせ、最終的にはエジプトからエジ
 ヲトの宗教を排除し、本としてした。

これはエジプトの宗教の革新の存かて マホキットはエジ
 ヲトの強固な確立を回す。

マホキットの勝利

⇐ ヲトのカーバ神殿はエジプトに於て建設されたことにより
 を利用して、エジプトの宗教はエジプトの宗教であり主張
~~エジプト~~ エジプトはエジプトの祖モーセよりエジプトに古
 であるから、エジプトの宗教はエジプトの宗教であり主張
 エジプトの宗教はエジプトの宗教であり主張した。
 エジプトの宗教はエジプトの宗教であり主張した。
 エジプトの宗教はエジプトの宗教であり主張した。

[1. エジプトの宗教はエジプトの宗教であり主張した。]

エジプトに エジプトの宗教はエジプトの宗教であり主張した。
 エジプトの宗教はエジプトの宗教であり主張した。

Q. 結論 = エジプトは エジプトの宗教はエジプトの宗教であり主張した。
 結論 = エジプトは エジプトの宗教はエジプトの宗教であり主張した。

① エジプトにカーバに 新たらしい宗教を認めさせるとともにマホ
 キットは

イスラーム教徒の義務としてカーバ・ラッセルを命じた。
 勿論命じた当時のキリヤクはイスラーム教徒がキリヤクに
 行くことが出来た。行くとともに... ではない。不可
 能なことはなかった。従って、いつかキリヤクをイスラーム教徒
 の街にするのだ。この決意を彼自身ももち、且つイスラーム
 教徒全体の上一に之を決意せしめた。このことには了了。

◎ この事情を背景として、

今世巨大勢力にのり上ったマホムトとイスラーム教

徒とは、キリヤクが ~~弱体化した~~ ~~弱体化した~~

建在してゐた

（まだ）

（強いに強さ）

~~弱体化した~~
 とは「之未だ」

628年3月13日 1500人以内のイスラーム教徒ととも

マホムトはキリヤクのカーバ・ラッセルへ赴いた。

（このとき以来）

◎ ~~マホムト~~ キリヤク側は 200馬からなる ~~部隊~~ ~~部隊~~

騎兵

と行くと、イスラーム教徒の侵入をさげすんで来た。

この報を受けたマホムトは巧みにさかしてけかし

山地へ退く（馬には好戦... 無力化する）キリヤクに

近づくと、キリヤクの ~~陣~~ ~~陣~~ ~~陣~~

（聖域）

陣を張った。聖域では戦いが禁止された。

（P.L.）
 したがってキリヤクはアブ・ダビヤにマホムトとは使者を

送り出した。次の日は盟約を結んだ。

これは ~~アブ・ダビヤ~~ の盟約と呼ばれた。
 （和約）

① つまり マホットはイスラム教徒と率で X、カアが
 310まで無事に共に行きわたる。X、カアが
 1000は秘密であつたわけではな。また逆に秘密
 密にしたと3で X、カアがきつくと3とあつた
 であつた。

X、カア側は ^馬200頭 ^{騎兵部} ~~騎兵部~~ 直下にさして、
 マホットは 2つとさつたために山地を行く X、カアに
 入ると3とあつた。 2つ 戦闘予備行進には
 9つとあつた。 3つとあつた。 3つとあつた。

X、カアの威信はもつとあつた。 X、カア
 側には 戦争 (武力に勝つ) 2つとあつた。 3つとあつた。
 3つとあつた。 3つとあつた。 3つとあつた。
 2つとあつた。 3つとあつた。 3つとあつた。
 3つとあつた。 3つとあつた。 3つとあつた。

3つとあつた。 3つとあつた。 3つとあつた。
 3つとあつた。 3つとあつた。 3つとあつた。
 3つとあつた。 3つとあつた。 3つとあつた。
 3つとあつた。 3つとあつた。 3つとあつた。

① 2つとあつた。 3つとあつた。 3つとあつた。
 3つとあつた。 3つとあつた。 3つとあつた。
 3つとあつた。 3つとあつた。 3つとあつた。

② Xツカは血を流さねばならぬと云ふに似たる叙述の
行と行とが並んである …… またXツトの信念

今までの通害や戦争の状況の流が示すところ、一見は
ほろあつたしち之(35183 と見えはてきた) といふ
のさかすたすけける気もするが、 二二にともなうこの政府の
善悪がでてきたと思われ。 つまり、

今までの通害や戦争の状況の流が示すところ、一見はほろあつたしち之(35183 と見えはてきた) といふのさかすたすけける気もするが、 二二にともなうこの政府の善悪がでてきたと思われ。 つまり、

① 決戦をいふ。 …… 決定的なものがあつてさうして
さうしてついでにさうして

② Xツカの特別な配置
(戦場の位置が(戦地) ともあつてはたし)

③ Xツカを高くして、いさうかにはいさうか
あるといふ 高人の判断

二二に協定が結ばれた。 その内容は

① 今年(1918)の協定は行はさるゝ、またXツトに似たる
叙述はXツカから出てきた。

② 翌年の協定は行はさるゝ。 その際Xツカは
3年間ほどあつておたか、その間協定を
すまふ。

③ 今後10年間、本支には戦争をやめると。

④ XツカとXツトは互にこの協定は同盟と
認め、その干渉をしないこと。

⑤ ナテイトのイスラム教徒を殺せとて

Xツカに帰るゆへには、ナテイト側には別に何も無い。(マホキットの自信がすごかった)

Xツカの側で、この紛争の責任はナテイトにあり、直ちにXツカに送り返されるべきである。

- この「ナテイト」の盟約の内容は、Xツカの捕虜を解放し、戻しては「お返し」の義務を負わせる。また、Xツカの捕虜を解放し、戻しては「お返し」の義務を負わせる。

この盟約の95%は、イスラム教に改宗する条件が、Xツカの捕虜を解放し、戻しては「お返し」の義務を負わせる。

- 629年3月にはこの盟約によるXツカの礼拝堂が破壊された。^{約2000人}
- このPIC・「ナテイト」の盟約は、翌629年の末に破棄された。

この事象は { Xツカとナテイトは、超絶民権と各々の同盟の自由を認め、互いに干渉し合った。

この事象に反する事件が生じた。事件のしきりは、マホキットがPICと盟約を破棄した。この盟約にもとより、Xツカを捕らえ、マホキットは

630年1月1日、1万人の軍を率いてXツカに向った。1月10日の夜、Xツカに着き、1万人の軍勢が盛大なパーティーをたて、Xツカを占めた。

Xツカは、この盟約を破棄した。マホキットは、Xツカを捕らえ、マホキットは、Xツカを占めた。

翌 1月11日

Xツカに兵を入れた。抵抗は4町か

か行なわれり、

$$\left\{ \begin{array}{l} Xツカ側9戦死者 28人 \\ 1234側9戦死者 2人 \end{array} \right.$$

{ Xツカ 24人
34町側 4人

であった。

マホツトは直ぐにカーバ神路に入つて、神路内
の諸部族と交渉して兵を率へた。

抵抗を止めたXツカ9人29戦死者は保障された。

この事にはXツカ9征服が完成したとされた。

Xツカ征服成った理由

別段の理由は無い。印部と12部族の事は、

- ① 1234の魔力
- ② マホツトの外交の才能
 (政治的)

下史学講義

第29回 (2月14日)

第30回 (2月21日)

630年1月11日、アッラバ、イラク、近畿 - カンタラニシスに出兵し、

アッラの兵士たちと知事らは同じ諸部族にかなりなヨウフ
をさす。

アッラのフアイニコ部族は、この地は、セキヤーズ地帯

はかなり有力なワー~~ニ~~部族とアキーフ部族は

同様、アッラとアキーフ連合してアッラ目指してやっ

つた。この両部族の連合軍勢は約2万人で

ワー~~ニ~~部族は西の民、アキーフ部族は東の民
アキーフ部族は定住民、ワー~~ニ~~部族は遊牧民に往つた。

= { 同い高き民
アッラの支配下にあった。

このマホキットは 630年1月27日にアッラと去つ

1月30日の夜 フアイニに到着した。

マホキット軍の勢力は アッラ征服にわたつて 1万人

と新たにアッラの人数 2000人 が加わり 1万2000人

であった。
(但し馬 800 頭)

1月31日 フアイニの戦い、と叫ばれ、戦いにかつた。

とされた。マホキット側の大勝利。

= { 大軍同士か(は)つたが
激戦も行なわれず、白兵戦もなかった

{ 敵軍はアッラに降参し、
アッラは彼らを
東部の地帯に
住しにさせた。

莫大に:

↑ 全参加者一人一人に
ラゲージ4個分の合計額
を支払うこと... (2)

→ ナイン戦... に 80戦 戦利品は 100% = 802 300 $\frac{1}{5}$ 支

マホキットが... 残り $\frac{1}{5}$ 支 戦利品 = 802 300 $\frac{1}{5}$ 支

合計は... 合計した。

~~300~~
~~300~~

注目すべきは、この戦利品のうち5割は... 支給された。

マホキットの有力者は20%に... 支給された。

またこの20%は... 有力者の大部分が...

いすうの... と... 支給された。... 20%に支給された...
マホキットの有力者は20%に... 支給された...
マホキットの有力者は20%に... 支給された...

○ この有力者の20%は...

マホキットの $\frac{1}{5}$ が支給されたが、残り $\frac{4}{5}$ が支給されたが...

これは20%に支給されたが、残り $\frac{1}{5}$ と $\frac{4}{5}$ に分けた...

のが、50%に支給された。またこの20%は...

これはマホキットの10人に支給されたが、この額は...

支給されたといわれる。... 300個分に及ぶ...

マホキットの有力者は20%に...

20%... 300個分

○ ナイン戦... の結果、マホキットはマホキットの有力者に... 支給された。

○ ナイン戦... の結果、マホキットはマホキットの有力者に...

マホキットに支給された武力で... 支給された。

→ ナイン戦... の結果、マホキットはマホキットの有力者に...

支給されたマホキットと... 支給された。

∴ マホキットは事実上アビシヤ年終全席の
支配者 となつた。

盟約とマホキットと結ぶに際しては 従前はイスラム教
徒と密着して行つたが、またイスラム教徒には
子分に 従前は 5割 5分 (5割) となつた。

問題は ユダヤ教徒 と キリスト教徒 の 場合
であつた。

630年10月
~12月

従前は 自己の信奉する宗教の 執着度 が 極めて 強
い一方、また マホキット には 同じ ~~執着度~~ 執着度 がない
教徒の 信仰 と 認められ 気が 楽 になつた のである。

~~ユダヤ教徒・キリスト教徒は~~

∴ ユダヤ教徒・キリスト教徒 は ~~ユダヤ教徒・キリスト教徒~~

身は一定の ジスヤ であるが、イスラム教徒 の 保持
と 度々 自己達の 信仰 と 結び つけ たい になつた。
(当初は 1人・1年・1回 - T - C)

[イスラム教徒には 改宗 可能な 方法 がある]

632年3月 再び マホキットは キッカに 集つた。

(別名 ウラ) マホキット には ウラ と 呼ばれた。
= 5月 1日 =

3) 大衆 (聖徒) の 信仰 と 結び つけ たい になつた。
ユダヤ教徒・キリスト教徒は 身は一定のジスヤであるが、イスラム教徒の保持と度々自己達の信仰と結びつけたいになつた。(当初は 1人・1年・1回 - T - C)

二の別れの儀式は非常に大規模なもので参加者は

4万人に達したと云われる。 [後の伝説に別れの儀式は二の別れの儀式で行なわれたと云われている]

≪別れの儀式≫ ~~マホキット~~ Xに痛つてくると、~~マホキット~~ (3月末) 申請子

と3人がみられたと云う。マホキット自身 = 別れの儀式の儀式

に付きてあると云う自腹にいたと云われる。

≪29年の5月の末に或る日の真夜中、マホキットは妻を呼び出した。妻は、マホキットに痛つてくると云い、激しい腹痛に苦しむ。痛完

した後は死んでしまった。腹痛が続き、夜は妻の

部屋を一夜中泣き回して、マホキットは(規則通り)。

妻をP-1の部屋に連れていき、二人が妻屋

に居た。以後P-1の部屋にいつの間にか

632年6月8日死去。P-1の腹から

突然の死去であった。⇒ P-1は別れの儀式に指示された。マホキットは、妻をP-1の部屋に連れていき、二人が妻屋に居た。

① マホキットが死んだのは1131年である。1131年

中の特筆すべき事象を挙げるならば:

① アラブの統一 (民族の統一) である。

アラブに何国も連なっていた。アラブ人は民族 (大きな部族単位) 単位で独立独立し、互いに攻撃し合っていた。今、全統一された民族であった。

この儀式は、マホキットと妻の別れの儀式である。

マホキットは、妻をP-1の部屋に連れていき、二人が妻屋に居た。以後P-1の部屋にいつの間にか

マホメット^は アラビア半島内の各遊牧民と盟約を結ぶ。

とにより、 彼等がイスラーム教徒となり、 結果として、 結果は互いに攻撃するところから弱さになって = 512 アラブの統一が成り立つ。

このころの中にも アラブの統一 とその理念は 道徳 には出てこない。

II) イスラームの宗教、文化、政治の混合律をその統一されたアラブに与えた。

III) = 512 イスラームは新鮮な活力に包まれたアラブ人として ~~アラビア~~ アラビア半島外の世界に広がった。 抑々、 独特のイスラーム文化を形成した。

丁史学講義

第31回 (2月28日)

《閉講演説》

後期試験問題(案)

- ① 最初期(610~613年)のモホキットの教えについて。(その背景、土壌にもふれて)
信徒
- ② 614年頃からヤシロブの程住まいのモホキット及びイスラム教徒への迫害について
- ③ ヘジラについて
- ④ ヌビヤの^{ウミマ}(イスラムの)宗について
- ⑤ ヌビヤ対キツカの戦争について
- ⑥ モホキットの回教

[1番と4、2~6から1つ選んで
計2問について答えて。]
とすのか、

丁史学讲义

井1 (B) (4/26)

~~アラビア半島の地理~~

- 今日アラブ圏は東はイラク、西はモロッコ

北は北アフリカ沿岸、南はスーダン

イスラム圏 北は地中海、東はインドネシア、南はインドネシア

西はモロッコ、北は黒海、カスピ海

南はアフリカ中央部

はオーストラリアがってる。

- しかし何となくも アラビア半島 (シナイ半島 - ラトウル・アラブ) が アラビア文化、イスラム文化の揺籃の地であることは間違いない。

(アラブ圏を全体的に見ても北東部が中心)

- したがって アラビア半島の地理的振動をみれば、

• アラビア半島の地理的概観



アラビア半島の定義

東に紅海 (アラビア海) とインド洋

西に地中海

南にアフリカ海とアラビア海に接する。

(この土地の境界が不明確)

便宜上、

サウジアラビアとヨルダン、イラクとシリア

及びイエメンとイラクとの国境として。

今日アラビアと呼ぶのは上を指す。

• キリシヤ、ロマの時代には半島以北の砂漠地帯やエチオピアもアラビアと呼ばれていた。

• アラビアの名称を最初に用いたのはキリシヤ人の (Anabia)

<p>αραβια (αραβος)</p> <p>Anaps (Anabos)</p>	} の語源は土地の

• Anaps とも (Anabos) とは ~~アラビア~~ アラビアの語源。

~~アラビヤ半島の歴史~~

- アラビア半島の歴史は、地中海と紅海を結ぶ重要な交通路として、シルクロードと紅海に結ばれた地帯に位置する。
 - ~~アラ~~ Arabs (Arabos) - Greek
 - Arabus (Arabus) - Latin

と呼ぶ。

- アラビア半島の歴史は、

① Arabia Petraea (石の国) → 東部一帯

② Arabia Deserta (砂漠の国) → 西部一帯

③ Arabia Felix (幸福の国) → 南部一帯

→ 前 = 石の国に
 Arabia Petraea, Arabia Deserta, Arabia Felix
 は、今日のアラビア半島の三つの地域を指す。

- 5世紀に、この地域はイスラーム教の中心地となり、今日のアラビア半島の歴史は、この地域から始まる。

《自然環境》

・位置

東経 $35^{\circ} \sim 60^{\circ}$
 北緯 $12^{\circ} \sim 32^{\circ}$

北西から南東に斜めに傾いている。

1つ1つと2方向のものは短靴形の半島。

・面積 ≈ 270 万 km^2 (世界最大の半島の一つ)

そのうちその約 $\frac{1}{3}$ が砂漠。

有名砂漠

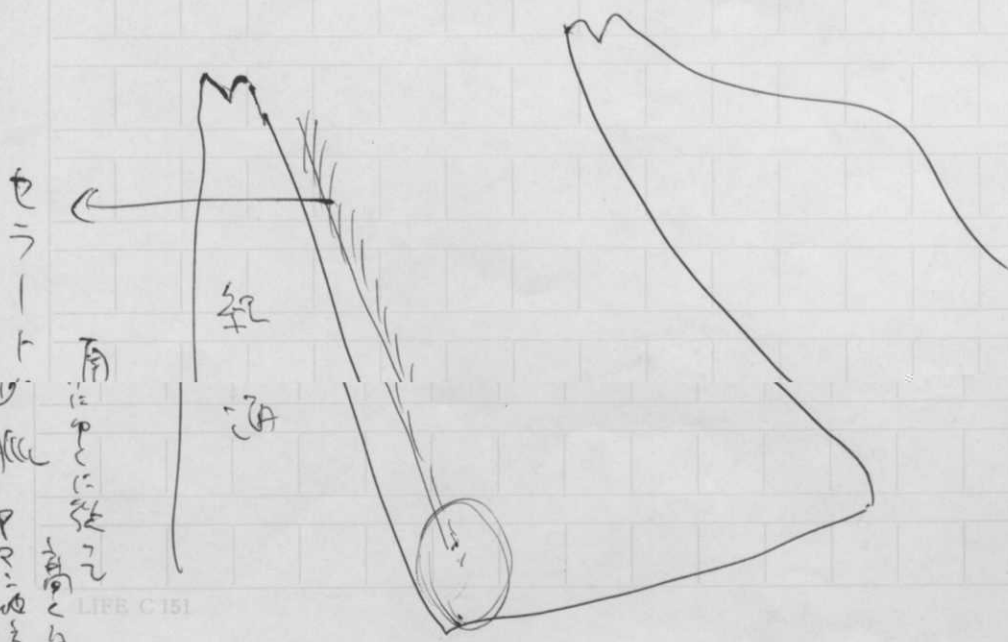
- ・ ILP・AL・11-11-砂漠 (南部)
 60 万 km^2 (cf. 日本面積 37 万 km^2)
- ・ ナフト砂漠 (北部)
 10 万 km^2

西海岸は東のオマーンに高い山がある。

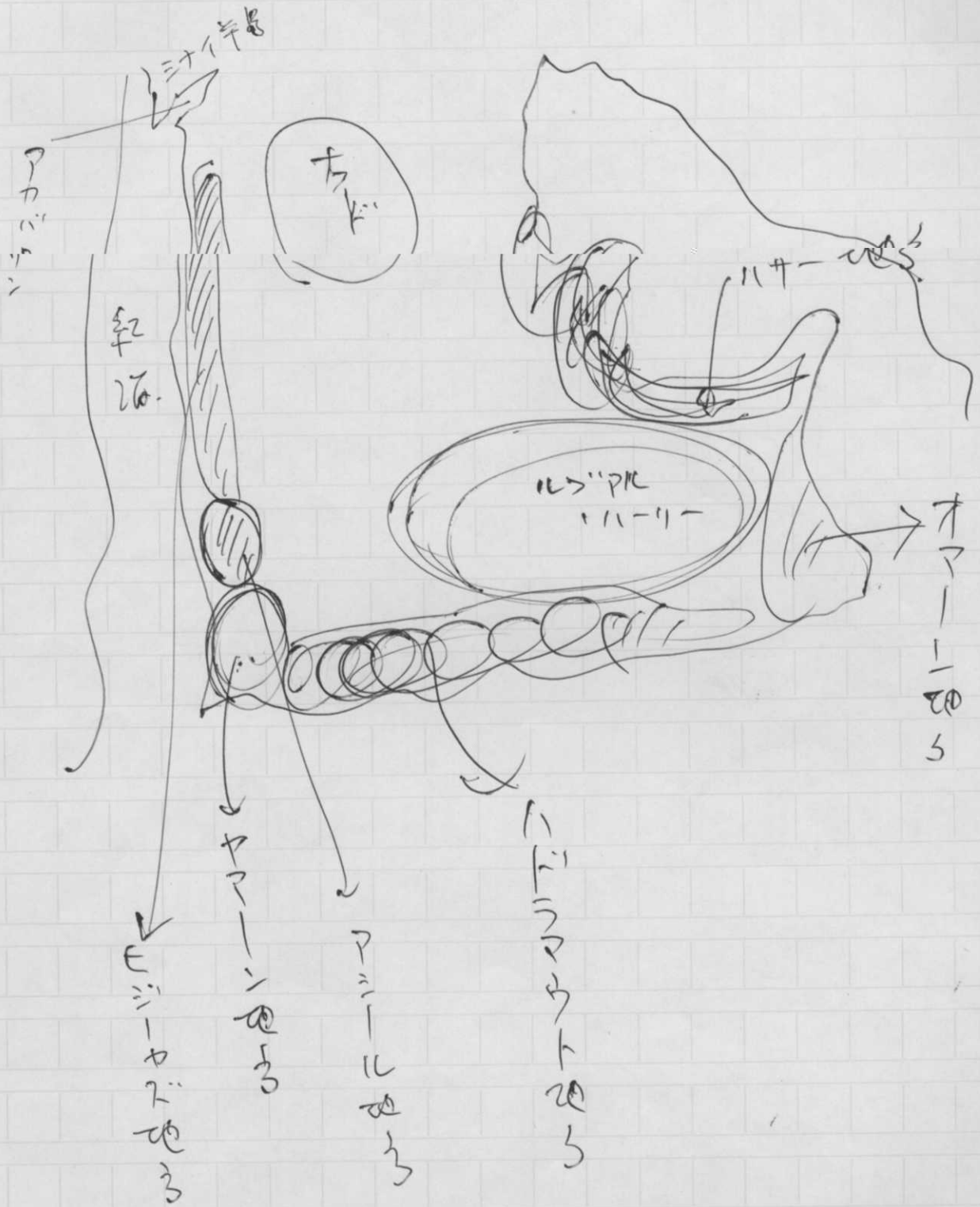
南西端(中東)は乾燥している

その中心、XYの739の方向に4300mに下る斜面がある。

(平均 1000 m)



- 典型的な砂漠地帯から大陸性気候、
(①海岸地帯を除く)、
- 世界各地に砂漠とステップ地帯がある。
- 北米アラスカ半島はサハラの砂漠と地帯を
なしている。
- ヤマシロ地帯は 4000m 近い山もあり、
雨もふって、(年間降雨量は 1000mm
に達する)
川が流れ、農耕に適する ~~土地~~ 肥沃な土地
がある。
- 他地域は大部分、ステップ地帯がある
砂漠とステップ地帯がある。
- 狭い海岸バリエーション地帯は高温多湿で
夏は酷暑。高原地帯は空気がかん
たしく、50°C に達するところがある。冬
は寒く、雪がふる。
- 冬内陸では氷点下になり、雪も
みられる。降雨は季節風の影響を受ける
ヤマシロを除く。年間降雨量は
は下年 100mm 程度である。



産物

- エジプト産地： ヌツクサニ (ヌツホマシアからの移殖)
- アーブル産地： アラビアゴク
- ヤマーン産地： 小豆 と コーヒー
 (cf. 14C. に アラビヤ = アラビア) ^{輸入}
 コーヒーに關する事 - アラビアの事
 最初の文献は 1592年.
- ハドラムウト産地： 乳香 カツク産地、モカ産地、
- オマーン産地、及びハサール産地： コク

オアシスでは、サクロ、アリス、アモシ、
 アラビヤ、シモ、アトウキ、
 スイカ、バナナ

家畜は
 ラクダ、羊、山羊、馬

↓
 1000倍の飼料

ラクダのミルクをアドウインに飲料に用い、
 水は吐いて飼料用。

牛は乳と、
 羊は肉と、
 馬はハヤートニツク及び医薬品

コ-ト-1-5-2

Shakespeare (1564 - 1616)

- ① 14世紀のイタリアで木の実から ~~抽出された~~
~~抽出された~~
- ② 直産効果がある = 10% 以上増えた
- ③ 14世紀のイタリアに輸入されたが
11世紀と14世紀とも言われている
- ④ イタリアでは ~~生豆~~ 生豆を焙煎してせんじで飲んだ
イタリアからイタリアへ呼び戻された
- ⑤ 17世紀 (14世紀) 豆を飲むことが
出来た。17世紀
蒸出する手法が
とされた

~~17世紀~~
17世紀に飲まれた (17世紀に飲まれた)

- ⑥ ~~16世紀~~ イタリアに伝わった
16世紀後半
- ⑦ ヨーロッパに17世紀末に伝わった
ヨーロッパに17世紀末に17世紀後半
- ⑧ 日本では 1888年 (明治21年) 可否茶館 上野

丁史学漢文

第2回 (5/17)

以前 2014年 7月 7日 9:00

位置 { E 35° ~ 60°
N 12° ~ 32°

面積 270万km² 1/3 が砂漠

{ 60万km² が 川・湖・池・海
10万km² が 森林

(日本の面積 377万km²)

セーラント山脈が 陸の2/3 両海岸は 地帯に 高まり

ヤマニ地帯の 最高は 4000m 以上 山に あり

年降水量

平均 河川は 1000mm

→ 冬 (夏 下 入)
雪 あり
→ 夏 50°C 以上 あり

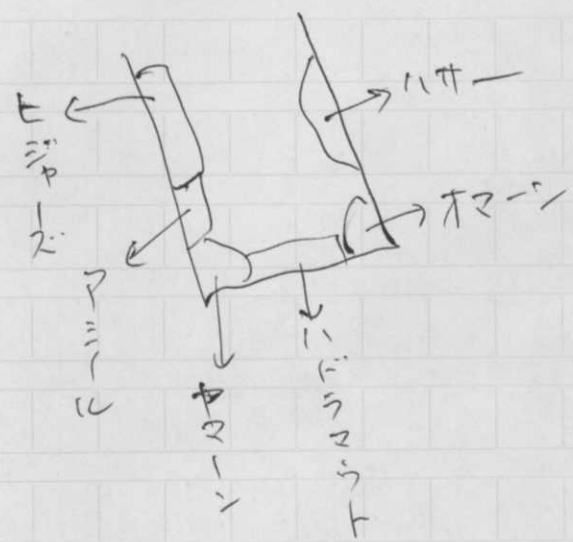
● 海岸地帯を除く 典型的な 砂漠性 大陸性気候

● 海岸地帯は 狭い 地帯

高温・多湿で 夏は 猛暑

● ヤマニ地帯は 年間降水量 1000mm

その他は 100mm (±40% 変動)



産物

- ① エジプト地帯 : ナツメヤシ
- ② アビシール地帯 : アビシール
- ③ オマーン地帯 : コロン と小麦
- ④ ハドラマウト地帯 : 乳香
- ⑤ オマーン・ハハー : コメ

内陸各地のオアシス : ガラ・アス
 アービ
 (野生の鳥) オアシス・レン
 アカ・バタ

コロン

Shakespeare (1564 - 1616)

- エチオピアのカフ州で木実バニに 直産結果 があることは知られていた。
- エチオピアからアラビアに輸入されたものが 11^c 全豆とされた。それによって 領土。カフ州からカフ州と呼ばれた。 (~~それ~~ くりかえして領土)
- 14^c ころから 豆 によって ひきつぶして蒸す 方法が知られ 熱狂的に 領土された (ワインが X 642)
- 同時に コロン の木が アラビア に 移植 される。
- 16^c の半ばトルコに入った。
 1517年 14-世のエジプト遠征の結果

16th 末にヨーロッパに入れた。

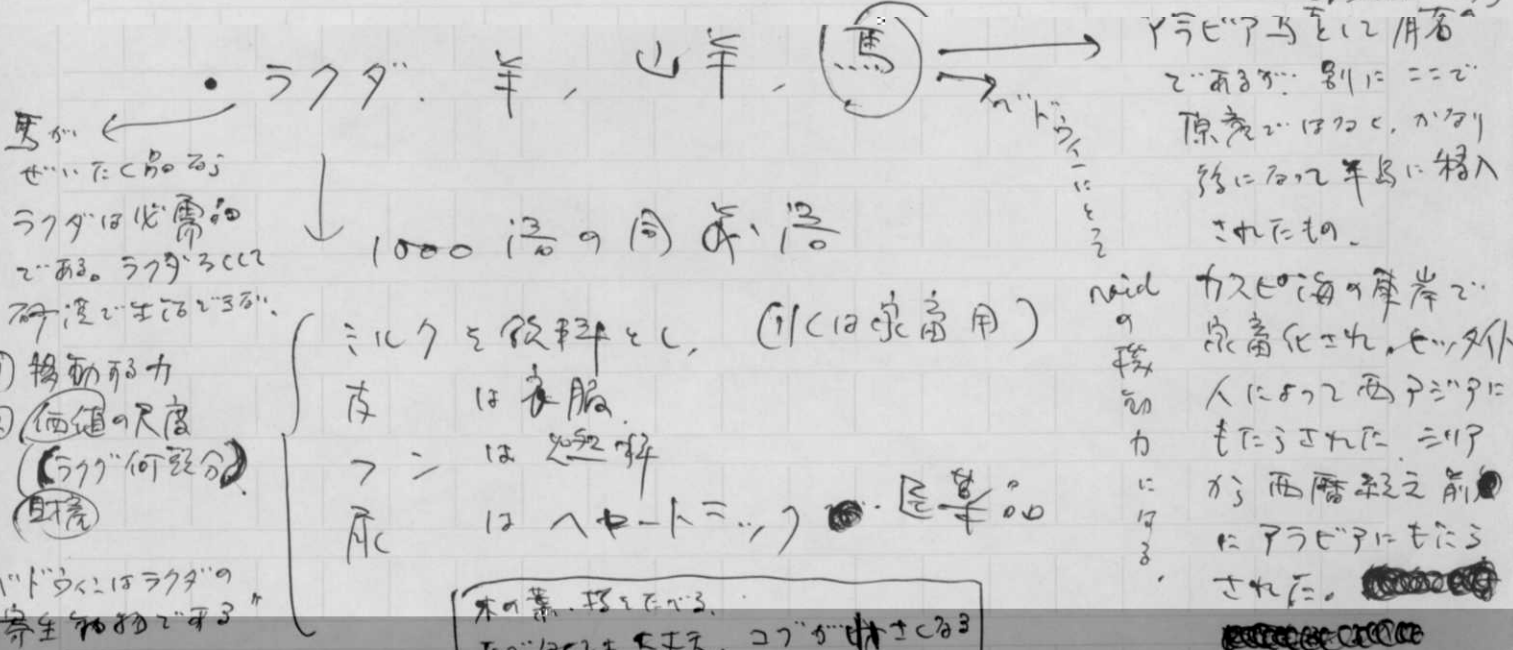
ヨーロッパに定着したのは17th 年頃。

① 日本では 1888年 (明治21年) 可畜茶館 (上野)

世界には250年ほどの伝統がある。

エジプトの下層エリトリアでは 1000年
他の動物では 1500年

畜産は、オーストラリアには羊と馬の畜産である。(オーストラリア地方)



馬の世話用品
羊は必需品
である。羊の毛織物
研究は盛んである。

- ① 獲取能力
- ② 価値の尺度 (羊の何部分か)

オーストラリアは羊の畜産が盛んである。

本業は羊の畜産である。オーストラリアは羊の畜産が盛んである。

オーストラリアは羊の畜産が盛んである。

オーストラリアは羊の畜産が盛んである。

羊の畜産が盛んである。夏は25日間、冬は25日間。

羊の畜産が盛んである。

羊の畜産が盛んである。

オーストラリアは羊の畜産が盛んである。B.C. 24th 年頃。オーストラリアは羊の畜産が盛んである。

バドゥインは

- 牧草を求めてさまよふ,
- 砂漠は海, nomads は 遊牧
- 昔から狩猟生活 - nomads の生活 パターン - に 倣っている。
- 土地が... やせ地... 39% 同じ様に 狩猟も やせている。
- 著しい 弱長 : 弱長 (は individualism

O Lord! Have mercy upon me and Muhammad
but upon no one else besides,

- 略奪は男... 仕事... と 暮らしている。
- 1121 年 1-9 月 後に... nomads が 襲った。
- 29 年 Raids は 一年 9 回 行なう。
- 同じ様に hospitality が 高く 評価されている。
- 弱長 (は) (は) 牧草を 求めて... 争... する... も
不要な raids を (は) (は) ... する...
それか hospitality を (は) 高く 評価している。

丁史序講義

(/)

第3回 (5/24)

○ 従前まで "アヒアキ" の "ヒ" の読みが "アヒ" だった。

ヒに位を付民に、有史以前から同一の状態を示し続けられている。⇒ アヒアキ。

○ "アヒアキ" の アヒアキ は 武蔵野の "ヒ" ではなくて "アヒ" である。但し、~~アヒアキ~~ 車トラニニスターの設計

○ アヒアキ は 自ら "ラクダの人" と呼ばれ、自らはそれを喜ぶ。

ラクダには前には... 居て。

(=97年)

① 価値の尺度 ラクダ何匹分 (財産)

② 胃の容量が 2リットルしかない。 (無敵)

またその時には "ヒ" をラクダの口には入れない。2日ほど前までには食べられなかったが人間が食べた。

③ ミルク ⇒ 飲料, 皮 ⇒ 衣服, 骨 ⇒ 燃料, 尿 ⇒ 肥料。

エエバドゥ仁は,

• 牧草を求めてさまよふ。

• 所漠は海, nomads は 遊牧

• 昔の生活様式を nomads の 生活 pattern に 類似させる。

• 土地が 少なくて 資源が 少ない。 資源を 求めて さまよふ。

• 著しい 個人主義 \Rightarrow 個人主義: individualism

O Lord! Have mercy upon me and Muhammad,
but upon no ~~one~~ one else besides.

• 略奪は 男の子... 仕事... を 奪った... 。

• 大規模な 略奪に 関係して... nomads が さまよふ... 。

• これらの raids は 一年の 1/3 程度。

• と同時に hospitality が 高く 評価された。

• 陽気な 水と、牧草を 求めて さまよふ... 。

不気味な raids を 受ける... 。

それから hospitality を 強く 評価した。

① nomads には 宗教的 情緒が 多い。

定着民に 対する 宗教的 感情は 木々の 泉と 石に 集中して...
= =

①

tribe (部族) { 水と牧草は
tribeの共通財産

clan (同族, 氏族) ⇒ シェイク (酋長)

battle-cry が同じ

tent (家族)

→ clan 内の殺人はそこで処理される。

clan 外の殺人は かたきうじ が行われる。

→ アカビータ (loyalty) が強調される。

• シェイクは別に絶対的権限をもっていないわけでは無い。
council にほかす権はなすね。

非常 = democratic である。

と同時に aristocratic でもある。

• 婦人は定着民と比較して、より一歩前進を
問うたかなりの自由を享受していた。

• 尋常 (一夫多妻) にはあったが
未と墮落自由 } なかった。
離婚の自由 }

5/24

• 南アラビア人 について

アラビア半島の南部に定住してその民族は、アドベーン
と主たるアラビア人とははっきりと異なるものであった。
その民族は南アラビア人と通称される。

ヤローンとハトラマウトを中心地とした。

相異点

① 南アラビア人が定住。アラブ人が^{主として}遊牧してその地、
言語、文化、体型が異なる。

- { アラブ人：長頭型
- { 南アラビア人：短頭型

アラブ人：コーン・アラビア語

南アラビア人：ヒヤル語 (南アラビア語) ⇒ イチビ語に近
A.D. 600年 - ままに死語

② 南アラビア人の国々

記録に最も古い最も古の国は サバア王国 ⇒ B.C. 10^c

サバアに関する最も古の記録は B.C. 715年
のアッシリア語碑文。

サバアの首都 Ma'rib に大堰が築かれ農耕が栄えた。

① 雨にぬれた
肥沃な土地

② 海

アビシニヤ,

紅海の沿岸のアフリカの諸島と交易を行なった。

そこでアビシニヤ王国を建設した。

A.D. 1st = 3世紀に向い、~~アビシニヤの諸島の諸島 (A. D. 1st)~~

6thに入ると崩壊した。これに代って登場したのが

エチオピア王国である。

アビシニヤをアフリカの最南に上ったまたエチオピア

から、アビシニヤを南へ移った。

この新国部は、B.C. 115年 = 3rd =

アキスムと自衛と12王国を建設した。

A.D. 4thに入るとキリスト教やユダヤ教が、ユダヤ

教にユダヤ教がユダヤで6thの初めに国王の

ユダヤ教徒に伝わり始めた。

やがて国内のユダヤ教徒とキリスト教徒

の対立が深まり、かつてアビシニヤ王国のつとめた

植民地であったアビシニヤ王国はついにキリスト

教国となったが、このアビシニヤからエチオピア

のキリスト教徒を保護するために軍事介入し

ユダヤ教徒のエチオピアの国王を殺した。

これはエチオピア王国が A.D. 525年 作られた。

アビシニヤに於けるアビシニヤの王権は525年から

575年まで続いた。

575年 ヤマニハ 川-川- 朝 = SE 版 ± 北 39
統治領 と な っ た。

① 南アフリカ人の諸国は共通した政治的性格
世襲君主政体。

ニホロツツ人ニホミツルハ、特色

経済面ニハ高度ニ発達シテ 農産を基幹とし

{ 没薬
各種香料 主要な輸出品とシテ。

宗教は、ゾロアスター教が入り以前は、

屋々ニ神々トテテ多神信を奉じてシテ。

月神が最高神ニ男性。

太陽神は女性ニ月神の妃トテテ、令居神

トシテ他ノ屋々ニテテテテ。

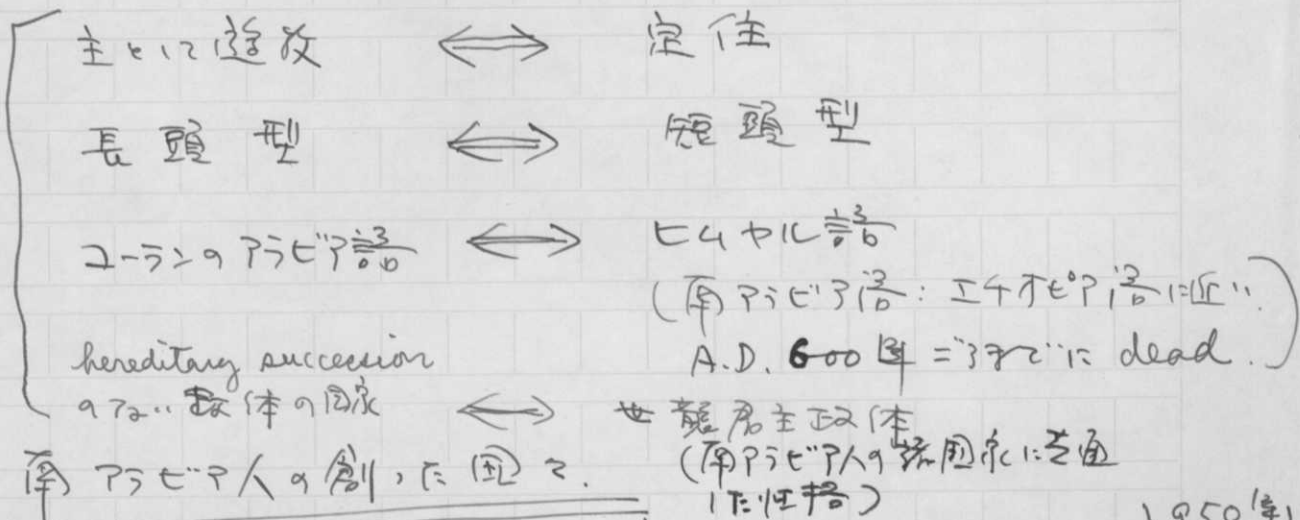
丁史学讲义

第4回 (5/31)

① 南アラビア人について

- アラビア半島の南西部に定住した民族は
ハドゥラと主たるアラブ人とは異なり、
この民族と南アラビア人と通称する。
 - 彼等の home ground は ヤマーンとハドゥラマウトである。
- ② 主として、アラブ人と南アラビア人の相違点を挙げる。

アラブ人 : 南アラビア人



③ 南アラビア人の創成国

~~サバア王国~~ は サバア王国で建国は B.C. 950年

サバアに関する最も古い記録は B.C. 715年の アシリア語
の碑文。

記録上最も古い国である
しかし、最も代表的な国は
(南アラビア人の)

(約 + 115年 B.C.)

(d. Sīrwāh が最初の首都)

(2)

この国は首都 Ma'rib にアムンとクハの農料が採れた。

① 河原南西部にこの850年文明国が出現したの理由

理由

- ① 雨の降りる肥沃な土地にめぐられたこと
- ② 地理上でめぐられたこと

・ 紅海のほとり部分とアフリカ大陸と接し、アデン湾に面し、インドとの交通の便があった。

しかし、
 せまくて
 紅海は三つぬき
 海に危険な海
 であつた。これは
 船が通れな
 かつた。これは
 航海の不便
 であつた。

・ 上の理由の一つに述べたこと、サバア王国は
 対岸のアフリカの諸国やインドと交易を行つた
 ことに栄えた。

② 南西部に位置するサバア王国の産物として、

- ・ 高度に発達した農業 (d. アムン) による農産物
- ・ 各種香辛料 (非常に東西の国とつながり)

これは
 主要輸出品
 として

用途

- ・ 料理、クハの肉を食する
 ため
- ・ 宮廷、宗教上の儀式で香として

③ サバア王国への輸入品

- ・ 真珠 ← パルティア
- ・ 織物、剣 ← インド
- ・ 絹 ← China
- ・ 象牙、金、鳥の羽根 ← アムン

○ サバア王国は、近隣を圧した。
 これは通商、貿易による conquest であり
 military conquest ではない。

○ 近隣上最も古くは

ミネア王国 2000 B.C. 1300年 — 650年 B.C.
 (首都 ~~Qannaw~~ Qannaw) に存続した。
 最盛期には 南西部アッラ
 大なる配下に置かれた。

南西部に ミネア王国 と サバア王国 が併立して
 いた時代があった。

650年 B.C. に ミネア王国 が 崩壊し、サバアの天下
 となり。サバアの首都は Ma'rib に移り、650年 ~ 115 B.C.
 の 295年 まで サバア王国 が 繁栄した golden Age である。
 (南アッラ)

○ B.C. 115年 まで サバア王国 が 繁栄した 舞台に上か
 ったのは アッラ王国 である。

Zafar 首都 212 A.D. ~~525~~ 525年 まで 存続した。

f. ミネア王国, サバア王国, アッラ王国, が 併存した 912
 年 - 917年 まで、言語も 同一 である。

① エチオピア王国の歴史

南アフリカ人は東部の沿岸にアビシニア王国を建設した。 ところが略奪の被害を被った。

A.D. 4^cに入るとキリスト教がエチオピア王国内に伝わり、特にエチオピア教が広がり、6^c初めに国王がエチオピア教徒に改宗した。

やがて国内のエチオピア教徒とキリスト教徒の対立が深まり、ついに自国領の大部分を植民地とした。 アビシニア王国はついにキリスト教国と変わった。 ところがアビシニアがエチオピアのキリスト教徒を保護するために軍事介入し、エチオピア教徒の王国が戦死して、

A.D. 525年 エチオピア王国が崩壊した。

南西部に於いてアビシニアの主権は 525年から575年まで続いたが、575年南西部はササニ朝の支配に屈服してその統治領域となった。

g. 宗教について

エチオピア教、キリスト教が入る以前、南アフリカ人の宗教は、屋と神とを祀る多神教であった。

月の神 (Sin) が最高神で男性、太陽神 (Shams) は女性で月の神の妃で、金星神を祀る他に屋とを祀る人々もいた。



下 史 学 読 取

(/)

第 5 回 (6 / 7)

試 験

≪ 試 験 問 題 ≫

- ① アラビア半島 ~~の歴史~~ について
- ② ベクトルについて
- ③ 南アラビア人について。

3 問中 2 問を 選んで 回答せよ。

歴史言語学

結局「ア」か!

第6回 (6/14)

第7回 (6/21)

・ ペトラとノルシラ

アラブ人の定義は
イスラームに入ってから
適用できる。

アラブとは「アラブ」

ギリシア・ローマ時代のアラビアの三分割は、以下の通り

- Ⅰ Arabia Petraea
- Ⅱ Arabia Deserta
- Ⅲ Arabia Felix の Ⅳ をみたす。

次に「アラブ」の語源は「アラブ」の語源は、ⅠとⅡをみたす。

① Arabia Petraea (岩のアラビア)

シナイ半島 と エジプト東部 の一部

ここには ナバタイ王国 が建てられた。(cf. ペトラの遺跡) この名高い

これはナバタイ族 (アラブ人の一族) が建てた王国

ナバタイ族はもともと遊牧民であった

B.C. 6th 前半にこの地に侵入してきて

ナバタイと呼称。

アブラハムの孫でありイサマエルの子である

ネバヨテ (Nebayoth) に由来するこの語がある。

この首都 Petra はギリシア語で「岩」を意味し、

これは

ヘブライ語のセラ (Se'la') の載っている。

旧約聖書の列王紀略 } 211 は 29 セラ の名で
イザヤ書 } 212 になる。

或いはまた、

エリヤ記 } 211 は 《 磐の隠場 》、
オバテヤ書 } 《 山崖の巖層 》

更には

《 高きと3に住む者 》、
《 磐の2に4に高きばかり
屋の間に巢をつくる 》

と...の表現があるが、これはみなヘトラとナバタイ語
について述べたものである。

① 一之 ナバタイ族自身は 2の首都を al-Kāqim (刻かれた石)¹
と呼んだらしい。

これは13、2の9の名称、表現は 2の都市を呼ぶに
ふさわしく、高き岩壁とが2宮殿をつくり、2つ2つ
といた岩山をたかみに斬削して堅固に構築された
要塞都市であった。城門に入るにはダブル壁か
およやく通れるほひの狭い通路をめぐらねばならず
ほひである。

② キラバン通商路の拠点として南之、
ヘブライ語の在世中に相当する期間にその黄金期

とてかえた。

ナバタイ族.

言語はアラビア語を用いたが、
 文化的にはその北のアラブ語文化圏に
 属していた。
 アラビア語文字が未だなかったため、
 アラブ語文字をつかってアラビア語を記した
 ことができ、ナバタイ族に与った借用された
 この文字が後にこのアラビア語の
 アルファベットに成長していった。

A.D. 2^c に入るとキアラバンの通商路がもつと北東に
 傾き、ペトラは色あせ去る。 ⇒ ナバタイ王国の衰退
 その結果として A-ラマの保護国と名づけた。
 A.D. 106 年 自治権を奪われ、

Arabia Petraea は A-ラマの属州として Provincia
 Arabia となった。

① Arabia Deserta (砂漠のアラビア)

キアラバンの北東部の砂漠地帯

1100 年頃に栄えた。

→ 2^c に入るとペトラに代ってキアラバンの通商路の拠点
 として脚光を浴びたため A-Deserta にも

都市 1100 年頃に Palmyra (アラビア語では Tadmur)

である。1000年頃の遺跡もペトラスの遺跡と並んで「名高」。

① シリア砂漠の中央部に位置し、
非常に古く歴史も。

② 勿論アラビア人の都市である。(北シリア人)

③ 1000年頃の文化はギリシアの影響が大きい。

④ 2^{世紀}~3^{世紀}にかけてその絶頂期を過ごし、
中近東で最も繁栄した都市の一つであった。

⑤ 1000年頃のペトラスはローマ帝国の中央部に位置し
た。最初には中東の主要な都市の一つであった。
2^{世紀}初め以来ローマ帝国に属した。

⑥ 1000年頃のシリアはローマ帝国とシリアの間に
抗争し、英傑 Udhaymah は 265年
1000年頃のシリアは 265年、ローマ帝国の Shapur I^世
の 265年 軍勢がシリアに侵入し、その功により
Udhaymah はローマ皇帝の Imperator (皇帝)
の称号を、ローマ帝国の皇帝に授けられた。

シリア }
アラビア北部 } に属する1000年頃の王侯が未だ存在。
小アジア }
エジプト }

⑦ 1000年頃のシリアは 117年頃、Udhaymah はローマの陰謀
により暗殺された。

妻 Zenobia (350? 370? は Zaynab)

女傑。
非尋常美人

二の夫の暗殺後、D-Rに反抗して兵を率い、
一時は PLATINUM まで占領する。大D-Rと
相争い互いに力尽きた。

《東の女王》と称して大いに名を馳せた。

- ◎ 間もなく 272年 D-Rの反撃に力尽きた
かたき、街は破壊され、Zenobiaは捕らえられ、
金の金貨に交換されてD-Rに護送された。
- 現在のパルミラの遺跡は298年の破壊された跡の
ものがある。

二の息子も、

A. Petra : ガハナ王国 ⇒ pro. Byzantine

A. Deserta : ラハ王国 ⇒ pro. Sassanids

二の両者は相争った。(6世紀両者は大勢力)

- ◎ 両者とも アラビア半島南西部の南アラビア人の
子孫に属する。(南アラビア人の居住地は3世紀
までに)
- ◎ どちらもキリスト教国

◎ 7世紀 (25-4世紀) には二つは吸収された。

下史学講義

(/)

第8回 (6/28) ⇒ 休講

第9回 (7/5)

イスラーム勃興直前のエジプト地誌
について

○ エジプト地誌 (トシユト地誌) の住民は nomadic。
(4, 5節を除き)

○ エジプト地誌 (トシユト地誌) には 見知らぬ 固有
の文化を 興 して いた。

対象の国は ナバタイ, ノルミラ 両王国

→ 大さばり 大さばり 大さばり 大さばり
つくって 国定 である。

(q. ガッサー王国, ラハム王国 ← 南アラビア)

○ 二つの地誌の事情を深めたため 資料 は、
(又(文化は))

種々の伝説, 格言 の他に 詩 がある

但し = 大さばり 全て, 記録 = 大さばり いる... 大さばり

いかに 言語部 にも あり。口 承 文書 である。

(口承) (伝承文書)

(c. 591 ~ 632年)

q. 大律毛ハキッドの地誌 大さばり 大さばり = 大さばり

大さばり 大さばり 大さばり。 (q. 512, 568 328 ←
the proto-Arabic inscription)

口承による詩の伝承の事件が扱われている

わけであるが、証言の「証」から、証言の「言」は「ことば」

あり得るか。 $\frac{\text{証言}}{\text{証}} \times \frac{\text{言}}{\text{ことば}}$ 証言は「証言」は「証言」。 証言の

意味は「証言(である)から事実的に無価値である」とは言えない。

証言に「証言」は「証言」である。 証言の「証言」は「証言」

重要なものは、raid であるから「証言」である。 (証言の証言)

(ghazw)

「証言」は「証言」は「証言」である。 証言の「証言」は「証言」である。 証言の「証言」は「証言」である。

典型的な(「証言」が大津同士の「証言」) 証言。

- ① 証人が「証言」に「証言」した。
- ② 「証言」が「証言」の「証言」に「証言」した。

clan

- ③ ~~証人~~ 者の「証言」により「証言」が「証言」した。

「証言」は「証言」の「証言」は「証言」である。 hospitality は「証言」に「証言」した。

- ④ 一人の「証言」は「証言」の「証言」は「証言」である。 (証言, ~~証言~~ vendetta に「証言」 vendetta の「証言」は「証言」である) 証言は「証言」の「証言」は「証言」である。

→ ... 詩の recital は大衆に下する藝術である。

《 深い知識は 言われざるべきである。 》

アラブ人の芸術は 唯一の言語を媒介とするものである。

言われざるべき

《 モリシヤ人が自己表現の手段として、彫刻と建築と
と文字の意を伝える手段として、アラブ人は詩である 》

アラブ人の詩は、

《 人間を愛するは 彼らも、宇宙の巧みさを知る 》

又曰く、

《 アラブ人の器用さ、その人の手、アラブ人の舌 》

7th hijrat 時代には

- ① 弓矢、やり、格闘術
- ② 馬やラクダの乗りこなす巧みさ
- ③ 雄弁（つまり、散文・韻文に力強く且つ elegantly 自己を表現する能力）

散文は韻文に比べて
 表現が豊かである。
 つまり、韻文は表現の
 手段として開き、
 上にある。

→ 完全な人間の三つの事件 とされた。

イスラームの勝利とは、411年頃の 3つの言語の勝利
と... 述べた。

中央部・北部

√ 300カニ一ツ 諸人 にF22 したたれた。した。

これは服の、αニャーヒリーの街の 特異な 現象と言ふ。 それは とよと とE 言ふ子母と。

~~①~~

自然に はじま、たつてある。

~~②~~

• X...カ

アラブ 莫大の街は 遊牧民の 街で であるが、 都市 がある。 たたいて はる。

ニヤ街は 下中 非常 に古。 ← 伝説に 5415

トルコ 地図で ~~Macorab~~ Macorab と... 2... 2... の... X... カ... と した... 。

X...カが 1075... と 17... 地位を した... 7... 7... = 1 =

Quraysh 部族 が 定住 した... 2... である。

Quraysh 部族 は 初めは ヒジャール 地帯の 山岳地帯で 遊牧生活 を 送って... たが、 500 年 末 X...カ に 侵入 して 住みつけた。 南西部 ヤマール 地帯の 或... は ハドラーマウ 地帯の 産物の 北方への 主要ルート を 一年に 1 回 しか った。 また 東部 と ササニ朝 の 長期の 争い に 対し シリア・アラブ 砂漠を 通り ルート は ア と 3... 2... いた。

(ヤラバ)

アフリカ 中国の 産物は、 アフリカ 2-7... の ルート

とる...2... ママニ地を流す... ヲツカ... ルト... とつて
は=ばれた。

中国のインドの陸地を... 4... 2...
=2... 下流... 砂漠を通り... ヲツカには=ま... 3...
... ヲツカ... エジ...
=5... ヲツカは 国際的な商都市とされた。

• シカ-ヒ-カ... の宗派

偶像崇拝神話
群の

انصاب 石
اضنام 人間の形を... 石

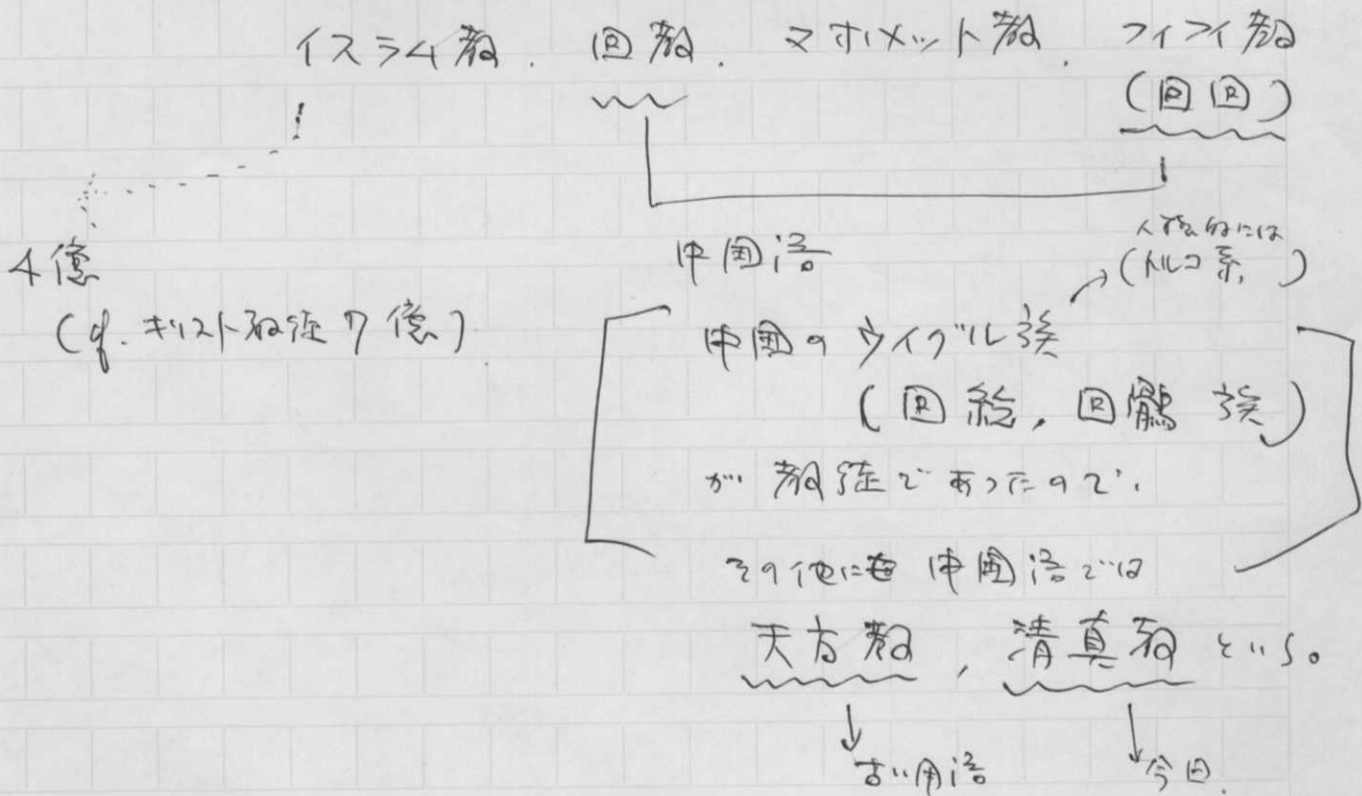
厂史学讲义

第11回 (9/13: 夏休み明け最初の講義)

。アッラの厂史は イスラ-4 境界として扱われ、E=合さ
れる。

イスラ-4 に入る。

名前について : 本来は Islam



イスラ-4 の創始者 ムハンマド
(マホメット)
E=合さるべき。

マホメットは イス・キリストと違って (完全に人間) である。

或いは 神と違って 別に悟り通るか開かたの。

マホメットにまつる 神聖性 E=合さるべき。

これは 聖訓 (の) であるが、キリスト教が キリスト

9 知を 422... 知に 対して, 9 知, 意識的 には 1254 知
と... マホキットは 関係 72... 名称を 満足 12... 3.

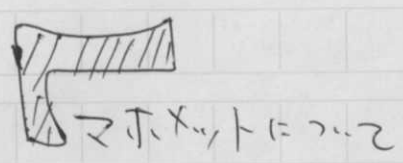
その 点 2... は 27... 教に 近... 27... 教は, しかし, 27...
27... 片 27... と... 要素が 強調 される. 誰 27... が 単純に
27... 教 徒に 分れる わけ 27... 12... 4214... 12...
単純に 分れる.

4... 2, 1254... は 27... 教, キリスト 教 と 27... 教
9 土 質 12... 3.

その 信仰 する 対象 は 27... 教の 神 イホバ,
I am that I am.

キリスト 教の 神 と 全く 同い 神 1254... 27... 3.

0111 11011



神の 名 27...
と 27... の 感謝.

1254... 27... 27... 1254... マホキット も 27... 27... 前 年
12... 27... は 27... 27... 3 27... 12...

マホキットは 泉の 年 に 27... の 名称 クライニ 27...
9 11... 27... 12... 12... 27... 12...

27... の ヤ... 27... 27... 27... 27... 27...
27... 27... 27... 27... (27... 27... 27...)

27... 27... 27... 27... 27... 27...

Muhammad b. Ishāq (†768年) マホムド伝

(3)

その 570年か何年かあるかははっきりとはしないが、

570年頃と推定される。

25才の時に 11歳の子と末の人と結婚する。

11歳の子の腹胎をまがいで 3人に分け有能

を示し、新妻とあはれをわたり、新妻(7: 女)とあはれ

の結婚でマホムドは生活安定する。

512. 年を45.3.0を生活で送る。

(3男・4女を産む)。

息

40才の時 (610年頃) マホムド - 啓示を受ける。

これが最初の啓示で、その後、次々に啓示が下る。

それは集大成の形でマホムドに下る。

厂史学讲义

9月12日 (9月20日)

イスラーム (イスラム教) について

① 神の存在を疑う前にその見取図をみておきたい。

今日、宗教について語ることは或る種のタブーがある。

今日の世界と神。 神とは何ぞあるか。

神をくいてもやめていけずの代り... 想...

... discuss する前に、神... 呼称で何を指すことができるかが問題である。

~~端的に言えば、イスラム教の信仰とは「アラームの他に神はなくムハンマドはその使徒である」と信じ、且つこれを機会あるごとに表明するに他ならない。~~

② イスラム教の創始者はムハンマドであるが、そのムハンマド

という人物はどんな生涯を歩いたのか。イスラム教の

~~歴史~~ 教義はどんなものであり、

どんな行(きょう)と行(ぎょう)の物語はなされたのか。 ~~歴史~~

~~歴史~~、これはつまりはコーラン、ハディースとその他

イスラム教の学術達によって細かに述べ立てられている。

その中で大切なのはコーランであるが、これは複雑な内

容の書物である。

① コーランをくり返し読んで、その中に読みとった私自身のイスラ4教體を支配し直してやる。

私自身、何もイスラ4教體(4スリ4)でもなく、いやいやイスラ4教の宣教をとりつければ更によい。

私のイスラ4教體を皆殺の前には提出してやる。

これは ~~何~~ まじがっていいかも知れない。しかし ~~論~~ 是論に対しては論、反論の用意がある。

[今から論がよめる材料は全てコーランの中にある]

① 自己を直視せよ。

徹底的に自己を問え。

今可成りこれを行え。



くいましたのだ。

思...をみこしたのだ。

ボク...と1234

...の反転が分かる。

~~...~~ ボク ボク 1234 と死んで地獄に落ちるぞ。

警告。

② 自己をみつめる(程観)で、自分

が絶対的だと思ってるもの、信奉してる差を、主と、え

はか...しえぬ。



偶像崇拜をやめよ。

偶像はこれに等しい。

③ その中に産心 たんか...、無

心になつて、つまり何と何とわかれたい目で周囲をのぞく。



太陽や月、星、雲

雨、山、川、蜜蜂

風、海、その肉体

④ 神とその相底にあつてそれ

を ~~...~~ しているものが ~~...~~ ほうきりと分かるのである。



全その ~~...~~ の

うしろにある。

⑤

一本の草花がそれとあり、
 それと木がそれとあり、
 一羽の鳥がそれとあり、
 それとそれとあり、
 それとそれが金とあり、
 その背景にある意志にそれと
 その存在とあり、
 人間もまたそれとあり、
 その意志に自己とあり、
 その意志を神の意志とせよ、
 それが正しいとある。

⑥

人間が、
 それ他の、自分勝手に
 くりあげた、主張
 ・理想を絶対として
 するもの。(T.M.)

⇔ 我に同位者
 にはあるもの。

⑦

それは不幸なものである。
 (意味
 と無意味)

⇔ 同位者は他者と
 絶たれぬものである。

9. 80/2/1

肉体的に人間に与えられたものはそれとあり、
 小鳥の羽と証明と... 人間もそれとあり、
 於てはそれと証明と... である。
 (肉体的)
 身の本来的

それは自覚せよ。
 この自覚は他者と理性の存在と人間の存在とあり、
 題とあり、それは自己と他者、我と汝とあり、人間と人間とあり、
 [言語が媒介となる]

自己と他者、我と汝の間に神は倫理的な人格神として存在する。
 人間が理性の存在は人間性に基づく。人間は他の人間に面して存在する。小鳥の神
 19 證美の存在は理性の人間は神に證美をまかせ、理性の人間、他者と
 人間は理性の存在は人間性に基づく。人間は他の人間に面して存在する。小鳥の神
 存在とあり、この問題には回答がコランにあるとある。

於て人間は
 個々人の
 存在を
 証明する
 ことである。

第13回 (9月27日)

。ムハンマド

何回も強調する通りムハンマドは「イスラーム」で
 何ら神の要素は与えられず、完全な人間であり、
 奇跡も一つも行っていない。このことはムハンマド
 の死後13年以内に明らかになる。

ムハンマドの生涯はその前半生についてはあまり知
 られていない。彼に関する最も古い伝記があるが、
 Muhammad b. Ishāq (768年) のものが最も
 信頼があることは史家の一致をみている。

これによれば、その中でも確実に思われる点のみを
列挙してみると

① 生誕地 ムッカのクライム族のハーシム家に生まれた。



当時ヤマーン地方はアビシニアの将軍アブラハムに
 支配されていた。(熱心なキリスト教徒)

この年、アブラハムは大軍を率いてムッカに侵入し
 町を占領し、ムッカを三日路で蹂躞す
 ために戻った。軍に疫病が発生、兵士
 達がバタバタ倒れて、退却を余儀なくされ

た。ほぼ全滅 → アブラハムもヤマーンに帰ると
 死亡。

この軍の中に系部隊があった。

アラブ人とは鳥は強力な印象を与えたとみえて、その鳥は

鳥の年、その軍勢は 鳥の軍、アラブ人は 鳥の將軍

と呼んだ。

この鳥を主とした疫病は天然痘であると考へられている。

病に倒れて死んだ人々には体中に黒い斑痕が現れていた。

鳥のアラブ人は

焼けた小石と鳥の大群が一つ一つくわえて兵工廠の上から降りかかると解釈した。

コーランの中にも <……焼けた小石で降参した……> と…表現がある。

ともかくその鳥の年に4回ほどは生れた。その鳥の年は570年頃とされている。

- グライニョ族は500年末にメッカを征服してムスリムに
住みついていた。(それ以前はヒンズーの山地で遊牧
生活をおこなっていた) グライニョ部族は約25個の氏族があった。
(tribe) (clan)

メッカの定住町に入ると

グライニョ部族は依然として遊牧の町に定住していた。

(氏族間…他の氏族員に報復した場合は vendetta etc.)

各氏族はその全伴会族としてマジリスをもっていたが。

グライニョ部族の各氏族もマジリスをもっていたが。

グライニョ部族の酋長として、更に有力氏族長数名
(ニエハフ)

からなる部族全体の会議があった。

クライニコ 部員全件にかかわりある問題は =9

部員会議 (マラー) に開かれた。定住化して (高専部員)

いたため、マラーはみんなに知らせた。マラーの代表

成員に有力な部長連の権限は強まった。

つまり、マラーは 数名の大商人が支配する 商人共和国
(高専の)

といえた。 (部長連はなかった)。

ハニヤは マラー と 支配する 数名の大商人のグループ
(部長)

に入れたとしても、入れたとしてもよい。3.19 E=3。

~~おじ~~ おじの アジャー・ターリフ は 12才の マホット と シリア
の キアラバンに同行させた。

人々に知らせた。1年、~~1年~~ 8月、E=3。

(その他のことはあまり知られていない)

○ 25才の 11テゲ・ジヤヒス 大富豪の末っ子と結婚した。

その理由は、11テゲ・ジヤヒス シリアの キアラバンの 貴族
者と深く関係する。アジャー・ターリフが マホットを推薦した。

前の 12才の時と同じく 今回も シリア ~~の~~ 旅行で は ほぼキリスト
教との接触を避けた。だが 注意されなければならぬ。

ときかキアラバンは成り立って 多くの利益をかせいで帰ってきた。

モホットの 町に大商人と 交渉すにいかれて、11テゲ・ジヤ

al-Amin

は マホットに結婚を申し込めば 二人は結婚した。

=9年 [マホットは 25才] 11テゲ・ジヤは 40才であった

という。

この11ページは40巻の序章に212行も「~~若~~」の語句が
はなはたかといふ護もある。マホットと9問に3男4女
をもちつけたからである。

この結核はマホットに生活の心配を押しこめて
めかけしめた。

突然!

40巻の序章の啓示を受けた。(570年生れは「610年」
と753)

「おお、衣にくるまる若さ、起して警告せよ。
汝の主を讃えよ。 ~~おお~~ 汝の衣を清めよ、
けがれを土けよ、お返しを求めんがためにほこ
こすべしおくれ、汝の主のために祈るべし」

74:1~7

こゝから最初の啓示、であるといふ護もあるは:

352行の序章に96:1~5

「創造したまはし、汝の主の御名に512読み、
主は凝血から人間をつくり給ひし。
読み! 汝の主は最も高貴なる方。主は人に
512教を給ひし。人間の知恵は主が人間に教を給ひし」

であるといふ護もあるが、こゝから「主は」

この85に21行の啓示が次々に下り それを集めたものが
コラニである。

下史序撰義

(1)

第14回 (10月4日)

討 論

◀ 討論問題 ▶

① Arabia Petraea & Arabia Deserta

1:212

② イスラ-4 勃興直前の Hijāz 地方

1:212

③ イスラ-4 ~~の~~ 教之 1:212

④ Muhammad 1:212

上記四問中 3問を履く2回分である。

下史序講義

(1)

第17回 (11月1日)

・610年に最初の啓示を受けて、632年に死去する22年間に間及ぶに下った啓示は、その内容、思想、主題に於て大きな変化が表われていると云うことができる。つまり大きく二分される。

即ち610年～613年の啓示とそれ以後の啓示と。

M. Watt は、610年～613年の啓示はその主題から大体5個に分類できると考えた。それは①は「前々世の罪を許す（しかし、私は次の3個に命ずる）」
②は「神の慈悲；神の万能であった。」

今日はその②からやる。

②：最後の審判と復活。

例 84:12-12

「空が二つに割れて、ついでに主の御言葉に耳傾けし時、地が平らにされ、その上に天の宮を建てられた。ついでに主の御言葉に耳傾けし時、天の人間は、主の姿を眺めとて走り行く道はけがれなき。必すいつかは逢ふであろう。その時右手にかんじろ書をかたされる者は喜んで、その栄耀のもとへ帰り行き、背中にかんじろ書をかたされる者はどすか殺してかれと叫ぶ。だから、救われよとて、地獄の火に燻

、~~それ~~ ~~の~~ ~~前~~ ~~で~~ ~~了~~ ~~る~~ ~~。~~ ~~→~~

最終審判と復活に關しては、

① これまた最初から = 425に關する暗示が ~~あり~~ ^{あり} 終末の

② 日に對する恐怖が イスラ-4 と... 宗教が... 2... に主要なモチーフであること主張する学者と、

② 最初^期の暗示には 終末の日への恐怖は含まれていない。

恐怖を表わした暗示は ~~あり~~ ~~あり~~ ~~あり~~ ~~あり~~ X... の (195) 時期にあると主張する学者が対立した。

①、②の主張の問題は要するに暗示の chronological order の決定である。

M. Watt の見解は、

● 最終の審判に對する恐怖を主として描寫した暗示は X... の時期のもので、最初期には属していない。だが、最終の審判の様子そのものがイ-3... は最初期から鮮明な形で存在しているに似ても存在していた。人は死んで土に埋められた後、神に502蘇される。と... イ-3... も存在していた。

● 要するに、最終の審判を促すために復活すると... イ-3... は最初期から存在していたが、地獄に落とされる恐怖が イスラ-4 の成立、發展の motif となつたと主張する学者がいた。

○ アッラ-の他に神は居る、4ハニコトはその使徒である

これはイスラ4教の根本教義と云ってもよいものであるが、最初期^の啓示には、之にも述べておらずにアッラ-の他に神は居る^の唯一なる神を主張したものが~~何れも~~119である。

更にまた、4ハニコト自身^の役割について、その使徒であるといふ事は明確に規定も、最初期には居なかった。

たゞと云も4ハニコト^の役割が何回も強調されることにはなされておらず。

このこと M. Watt は

「最初には message であることが messenger として重要であった」と言っている。

つまり最初期には、
人間の神に対する関係こそが本質的な問題であったわけである。

○ messenger は message を伝えること以上の役割をもつていた。

後にはむしろ messenger の役割は比喩を弄り出す。

以上の3項目に分類されたその啓示が最初期の啓示、つまりマホメットの最初の教えであった。

この教えそのものを検討する前に、この教えを最初に受け入れた人、即ち最初の信者達について一瞥してみよう。

ともかくも一者最初に信の教を信じ入れた人は

妻 ハディーニヤ であつた。

最初の男性の信者が誰であつたか ・・・ 議論が起る事になる。

- ① アリ (412年の従兄弟)
- ② サイド・イブ・ハーリサ (412年のハリーニヤの奴隷で、後に解放されて両者の養子となつた)
- ③ アブー・バクル (初代カリフ、マホメットの最近の甥、マホメットの2才下、マホメットの3年の友人)

の3説があるが、正確にはこれ5人とは 610~613年の間に信者とつた。

ほか、以上の5人の他に、ざつと50人ばかりの人数が初期のイスラーム教徒としてリストアップされている。全員が 610~613年としかけてはるが、613年頃の人々も含まれていふかも知れない。これは50人余りの人々を眺めてみると、

Ⅰ 最上流、最有力の氏族の子弟の子弟

(後にイスラーム教徒軍の主力軍の争ひで没落の者) といふ敵、味方に別れて争つたに過ぎない

Ⅱ その他不利な有力の氏族の若者

大半が30才未満

Ⅲ 奴隷や外国人や氏族の保護を名目上受けつた下層民

つとに初期のイスラーム教は

若者と下層民 がいちり立ちつゝた。

丁史序講義

第18回 (11月8日)

前回:

- 最初期(610~613年)のマホキットの教え、
- 最初の4スリ4達
 - 最上流と2の12の階層の若者層
 - 下層民

以上をまとめてみる。

2つに分けてみる。若者層と下層民。

- ① 最初期のマホキットの教えにもユダヤ・キリスト教的伝統の影響がみられる。最初期には1000年ほど前のユダヤ教の教えは、ユダヤ教の教えが下層民に受け入れられたのか、最初期にも認められたのかは不明である。

ユダヤ教、キリスト教の教えがマホキットに作用したのか？

- ② 例としてマホキットが読み書きを教えたこと。

ユダヤ教・キリスト教の教典を讀んで11ヶ月前にはなす。聖書を讀んだ者には決して犯さぬこと。又その間達にはコーラニの法で聖書に問はれしこと。

従ってマホキットのユダヤ・キリスト教の知識は口説による。

マホキットがイスラームを勧める前に少なくとも2回シリアにキラバンで出て、キリスト教の修道士と出会ったことと述べた。また妻ハティージャの従兄弟は

アラビアのキリスト教徒が「正統派」に属していた。
 モハメットのユダヤ・キリスト教の知識は三人のクリ
 スト教徒に伝授された。その「正統派」の聖典として
 マホメットは「クルアーン」とも三人のクリスチアンと接触した
 ので「クルアーン」は「正統派」である。

当時のヤツカの商人階級にあってキリスト教徒と
 接触することは別に困難なことであった。
 もたつた。

（ミリアの国境地帯...キリスト教徒の到着）
 当時のアラビアの東部にはキリスト教徒
 が住んでおり、ユダヤ教徒の定住地

且つその上階級は特別の激しい商業地帯で、且つ
 ヤツカは一年に一度、大市が立つたのである。

つまり、特にマホメット以前に他の商人屋と異なり
 ユダヤ教、キリスト教の知識を獲得したのではない
 かと、当時のヤツカの商人階級の知識階級の人々
 はユダヤ・キリスト教の知識にかなり通じ、聖書
 の諸概念にもかなり明瞭だったと考えられる。

つまり、ヤツカの当時の精神風土にはそれがある
 程度（かなり）通じていたと考えられる。換言すれば、
 「一神教」の形態にはあつた、一神教が或る程度は
 入っていたのである。

結論的に言えば

- 創造主としての神
- 復活と最終の審判
- 啓示としての観念

最初期の啓示にみられるユダヤ・キリスト教的色彩は、当時のキリスト教の知識人の一般の風潮であって、特にマホメットによってもたらされたユニークなものではなからずである。

(モハメットが文書によって、或いは特定の個人との対話から得たものである)

これは最初期の啓示のなかで、ユダヤ・キリスト教にはない ~~要素~~ 要素はどれか？

それは、復活と最終の審判、啓示としての観念、創造主たる神の観念(ただし、この際ユダヤ・キリスト教の啓示に唯一性は意識的に主張されている)を除いたものである。

これは神のめぐみの強調である。自然にめぐみを受けて

いるめぐみの証嘆。人間、動物、植物、或いは天体、或は自然を通じてその恵みに流れている

みゆきみゆきとした一つのめぐみ、力、意志への

証嘆、これと、かかきめぐみの感謝、即ち、

人間がこのめぐみの上にのみ立てた存在である

ある=とに 見れば = と、 312 礼拝 即ち、39852
のみに見れば、39 自體に もとめ、た 主と 當り
85 に 努力、あり = と。

以上の諸事 ~~の~~ 強調が、マヤ・キリスト教には
107 = 再集の あり

方論 マヤ・キリスト教 212 39852 = とを主張は 可。
しかし マヤ・キリスト教は、(7) = (1) 112 12 345
強調は 12 = 21 21 あり。

車に、
{ 創造主 6129 神
啓示、
最後の審判と 39852 } 2129 = とを 述べる

2129 2129 あり。述べる 必要 可ら 可から 答
2129 あり。何故 自ら 上記の = とは マヤの 知識、人々
2129 常識 2129 あり。当時、マヤの 常識

2129 2129 あり、それのみが) マヤ・キリスト教
に 言いた 可から = と あり。 (マヤ・キリスト教は 述べる 必要 可から あり、また

~~2129~~

2129 < 1129, 最初期 あり、1129 最終期 あり、
神の(2129) と それらの(2129) と(2129) とは 強調 され
可から あり。

。 先に述べたように、

Quraish 族は初めにシエラレオネの山岳地帯で遊牧生活を送っていたが、5⁰の末にアッカリに侵入して住みついた。クサイに率いられていた。

つまりクサイによって

遊牧民 → 定着民

アッカリ地帯は岩が多く、ゴツゴツとした地帯で、農耕地としては不適当。もっぱら高層に於いて生計が営まれた。大高層都市化した。

。遊牧民に関しては先に述べた。

。遊牧民が高層で生計を立てる定着民になったことにより、その暮らしの質と文化が変えられる。

遊牧民 (A族) は、都市空間の下層を占め、自分の高層を維持するため、如何にゆきかへに戦い、争つ = シケン争いが。

詩人達によって常にその 男らしさ が高層からけりつけられた。

と云うが、高層民はそれをどうも受け取らない。

端的に言えよ → 如何に戦害(争)をつくらせ、それによって人が争い、それゆえに価値を失うと信じる。世に於ける争いがうたわれる。

この価値の転換はアッカリにゆきかへにけりつけられた。

① 先が舟一に 遊牧民の好む信託がその簡単に済んで
 (手付金)の2倍あり (Quraysh 部族は 25ヶ部族がある)

事象がライニ2部族は定住後にも、例えど其族員
 が他の部族員に殺された場合の vendetta と長く保持した。

前にも述べたが

- 。各部族は其の全族会議にて マジリス と呼ぶ。
- (クライニ2部族に限らず、~~部族~~ 一般的に遊牧民の部族は マジリスと呼ぶ)
- 。クライニ2部族は (その特徴として) 更に有力部族長 輪名がなる部族全族の会議、マラーと呼ぶ。
- 。定住化して以来にマラーはムスリムに開かれ、マラーの構成員は有力部族長達の権限が強化された。これにより、ムスリムは数々の大商人が互配する商人共和国と化した (部族長はいるが)。

② これは高きと高き最も近しい形態であるから、
 うかがい合はしむ。

高きは利潤を追求するが、その利潤追求の姿勢と
 部族制度が ~~あり~~ あつれきと成す所とは異なる。

何れも利潤追求にふりまわして、利潤追求に
 なるが、都合の... 人間関係と未だに深く。

① "カハ"マホキツの"正"道"の"キ"カハ 何の"者"と云ふ ~~何の"者"と云ふ~~
の困~~り~~ん期に於て。

ニニにマホキツの思索と云ふ可~~き~~要因が有つたといふ事。
自らも大商人として利潤の追求に専ら~~ん~~しなかつた、
価値の転換に直向した人として中選んだのである。

利潤、利潤と狂~~ま~~まわ~~り~~、巨富をきつて、さあそれが
何に存するか！ ニニにマホキツは人生、~~何~~ 宇宙 につ
て報~~せ~~むる思索に突入する。

② 是れで導かれたものは、人間、世界、宇宙に關する真理
の發見であつて、それを是れが"高"さにかゝつた"あり"た。

それ以上に~~く~~子~~の~~は、富は~~い~~こ~~う~~あつても神のみ前~~に~~では
何にも存するぬと~~い~~主張~~を~~あつて、利潤利潤
と狂~~ま~~まわ~~り~~、~~い~~る人々への批判~~を~~あつて。

→ (理想家肌)者、上流の子弟や下層民には容易に
受け入れられず、現に富をきつて~~い~~る人々からは受け入
れられ~~な~~たのである。

第19回 (11月15日)

前回:

□ マサットの思索は Quraysh 部族の遊牧民 ⇒ 定着民、
 しかも商人としての行程の中で、例の若者の基本的性格
価値の転換のプロセスの中で、金と命を犠牲的
 に問う直して、一つの真理に到達し、それを当時のマッカ
 の知識人の問に信憑して「言葉」を用いて表明した
 こと: そのマサットの発見した真理は人間の基本的生き
 方に關するものであり、「これは生き高きか」に「上げ」
 次に「これは現実のマッカの人の
 の生き様、利潤追求に狂い回り、金こそ命!」と
 する生き様の批判であった: こと、その「物」の息子は
 下層民や土流の若人との問では受け入れられたが、

マッカを支配した、利潤追求に狂い回り、且つそれだけ
 巧みであった人々にとっては面白くないことであったこと。

±2

その中にムハンマドの教を信じた初期の上流階級
 の若者一人に アブ・アルカハ (20~25才) がいた。この青年
 は当時マッカで最も有力、最も大金持の氏族に属するマサ
 ア一家に属していた。アブ・アルカハはマッカの中心部に大邸宅
 をもっていた。(その家からして彼自身も富裕になったわけ)

PIL. アルカ4は =9 タカ9 中心にある 大正10年迄にマホット9
 教之の道に寄附した。 (614年) =512 614年 マホットは =9
 信者イストラ-4 伝導の道の本拠地といた。 信導の本拠
 地といたも、信者達から1500人ほど =9 信に出入りして、マホット
 を中心として 語り合ひ、或る者は之に泊り = せしめたり
 せしめられた。

=9 PIL. アルカ4の道が マホットの相拠地とたつた頃と平行
 して ~~マホット~~ マホットへの 敵対行爲が 始まったといえる。
 (大商人団 = 500)

① 敵対行爲の理由

1. (前にも言った通り)

マホットの教之は 富や財産を人生の中心にす
 る = せしめ拒否した。 = ため 大商人の反感を
 買った。 ⇒ ~~反感~~ 反感

2. と同時に、マホットが 300人ほどを 説き
 せしめ 一大勢力 ~~と~~ となり 潜在力をもて
 いる = ため への 恐怖。 (自分達の ところを 生き残り
 を 厳しく 批判して いる 人物が 勢力を にも せしめ
 する 天下は ついて くる)

マホットが 政治に 目を 向け ~~た~~ 300人ほどに 向つた
 ため。 今の ところ には ない けれど ⇒ 政治への 恐怖

3. 近頃 には 29 位 位 上、アラブは 或る グル-70 を 拵
 揮 する 人物は、その グル-70 = 属する 最も 可成り 人物
 不慮に 死す。

死す ならば 死す けれど 若くは 若くは (cf. hereditary succession)
 死す ならば 死す

から、逆に、マホメットの教を信じて入れたら、その
下にはこれに代わり、何かでマホメットの教を信じてくれたら
子に代わってあげようという懸念 ⇒ 心理的懸念

1. を除いて、2. 3. はともに未来にかかわる = 危ない。従って、大商人といつても長老、下人ともいえる比較的若く大商人 (例として「アブ・ジャッリル」) が ~~その~~ muhammad に教を勧める行動を促したと見られる。

① マホメット及びその信奉者への迫害の理由として、
一神教のイスラームが確立された、多神教
の依拠地であるマッカの神殿への巡礼が禁じられ
て巡礼による収入がとれなくなった。これはマッカの中心
的地位がほかへ移るからだと見られる。これは間
接的であったが、実はそれは間
接的である。それはさらに進んだ時に、イスラーム
の初期の教義 (つまり偶像がなかった) には一神性も、偶像否定もなかったからである。

マッカの聖地
に他部族の
巡礼を禁ずる
ことがあつた
こと、マッカ
の神殿の
崩壊なども
あつた。

一神のイス
ラームの
巡礼は各地
のマッカの
神殿に巡礼
を促した。

② さて、1, 2, 3, 4 には理由があるから以前は
害がなかったと見られる。マホメットを
害するもっともしい理由がなければならぬ。

「しかしマ
ッカの聖地
以外にも
巡礼を
促した」

多神教や偶像崇拜はマッカの知識人の間では
何れも ~~その~~ 特権的に入れたか否かによって決ま
るのであるが、マホメットの教に反対する唯一の
もっともしい理由としてマホメットの教が宗教的
な懸念をもちもたらした。

→ 議論は伝統的「原則依式」(対) 123-4

→ 5=6に依り、伝統側から攻撃にさらされて、123-4
のもつ 唯一性、偶然否定性がけんじふに存するに依る。

① 論争が激化し、アブー・シヤフに死の宣告がきかされた
まじりき下。 (しかし = 2: 従軍兵の伝統たる「氏族」
への独立性; 「氏族」成員が「何」かされたら、それは
その「氏族」全体が「何」かされたことになり、その成員の名誉
を辱すことになり、それにより「マフタ」が「何」かされたこと。

アブー・シヤフは「マフタ」の「家」に属した。 11-14 家
の「人」に「直接」害を加えられた。 (非)

「人」に「何」かされた「家」の「不名誉」とされたからである。
(「不名誉」)

だから、「氏族」成員では「何」か「その保護兵」であった「信者」
は「何」かされた「マフタ」に「何」かされたことになり、

また「マフタ」の家は「各氏族」の「シヤフ」に「何」かされた
氏族の「中」から「何」かされた「何」か「何」か「何」か「何」か
に。 ⇒ 若者への「力」。

→ その「情勢」にかんがみ、従軍兵の「信者」を「何」か「何」か
であった「アブー・シヤフ」に「何」かされたことになり、これは 615 年頃に
に始まった。(と「普通」の「何」か「何」か「何」か「何」か「何」か)

実は = a アニシ = ア移住についてはいまはわかりませんが、
ねえねえある。

事実として

83... 数字をみた... 資料をみる。

80人分

情報

615年頃 一群のイスラム教徒が アニシ = アに住居した。

結核の症状が同じようなツカに帰ってきた。
(報告書参照)

622年

アニシ = アから帰ってきた人達も、他の部の人

と一緒にマホメットについて ヌテットに移住した。

アニシ = アに留った者は、622年直接 ヌテットに...
者もいるし、また他の者も。

628年まで留っていた。その後は ⇒ ヌテット。

~~この報告書は...~~ が認められて

はいる。しかしこれら事実の原因はよく分かって
ていない。

簡単に想像からつくるは 直書 を示すためのこと

である。これは = a 説を support するもの、規則もその
事だ。

でそれは、公然とイスラム教を批判し、身内の信者
を殺害したアッラの属する信者が ~~多く~~ 住んでおり、
(情報)

11-34 家のイスラム教徒に強く攻撃をせよと
アッラの信者は ヌッカに逃げたことである。

もし直書を示すならば アニシ = ア移住は 622年の ヌテット
への移住後に終了した。したがって、~~報告~~ 報告 アニシ = ア

に強、た者か...に...事案の~~説明~~を^{説明}する。

と、た、損害以外の理由があるとする。

- ① 高売のため。
- ② 信者間の分裂の理由が考えられるところ。

アビニニア特住は上述の如くに

- ① 損害説
- ② 高売説
- ③ 内紛説 と考えられるところ。

第20回 (11月22日)

615年頃、80人余りの muslims が アビシニアに移住した。
 迫害を逃げるためと説明されるが普通であるが、これには
 難点がある。即ち 622年に マホメットが muslims を率いて
メディーナに移住し、ここをイスラム国家を建設したことは
 知られており、アビシニア移住者の中の一団の中にはこれに加わっ
 たこと、628年までアビシニアにとどまっていたこと事実であ
 る。(後述のとおり ⇒ メディーナ)。

そこでこの難点を説明するため、高野説、内務説があ
 る。ともに 622 ~ 628年 の アビシニア滞在を説明でき
 る点がある。
 ↓ 高野説等と一緒に
 説明できる

さて信徒がアビシニアに移住し、マホメット達の族の保
 護を受けることはできた。陣中はメッカに残ったが、マフラー
 ムの族の アム・ジャフル と初めとする迫害者達の追放はす
 るべく、アム・ジャフルの各の族長をキリキリと成敗して、
 クライジ部族の全族は ハムラ と ムタリブ の部族に
 分かれた。(注) 具体的には

- (616年頃) { ① この両部族は婚姻関係で結ばれた
 ② この両部族は一緒に高野を討つ

→ (ニヤに遠征する)

○ 両家は各々自分のキヤラバンをもっていったし、Xツカ外の
 ヲドクインと高取子とまで来たし、その「みどり」= 村
 八分は両家にとって戦' 取組に致命の打' 刺を
 けてはならない。 = にも (後單位で独立して... 3 遊牧
 隊の行程が幸' して... 直接の暴力に... した... 子わけで
 は... かつ、大した痛手と取組が... である。 = 5... かけ
 で村八分を結んだ最初のうちは 損害に... かわった各... 袋
 はきん... した... だが、有名無実には... 9... 2... 腹落 (2 年経たず... かし)
 4... 5... もあった。 (村八分に... と = 3... 2... 以後に... 何...
 利益も... かつ...) (自分達の)

○ 11-34 家や 4ツタリブ' 家に 信託の時に... かつ... といふ
 証拠はない。 ため マホキットの... 教... かつ、Xツカを独占
 して... 大商人の批判と... して... にと... 対する 同意...
 があったと思われる。 [... 意味... !! ...]

↑

◎ 619 年 ハデーニヤと アブー・ターリブ' が死んだ。
 ハデーニヤの生前は ^{マホキットは} 他に妻をめぐらされた。 マホキットに
 かつ... された妻であったらしい。 [ニヤ]
 アブー・ターリブ' の死によって 11-34 家の 家長の地位に
 ついては... が アブー・ターリブ' であった。

これはなさいな男で、はじめうすは アブー・ターイブ同様

説明
アブド・シヤアスベ
はマフス・ウシ
と並んでヤッカ
最上の金持

マホキットを保護し続ける といっていたが、アブー・シヤフル

例) からの 控えを見返りをもつて マホキットを out-law
→ [アブド・シヤアスベの家を壊した]

にある約束をしてしまった。そのため 計画がたてられ

た。 アブー・ラハブは 後に アブド・ピルム・ターイブは

今どこにいるか、地獄にいるか、或いはそこで死んだか

と尋ねた。 マホキットとしては地獄にいると答えるわけ

にゆかばかった。 (マホキットがアブド・ピルム・ターイブを殺したのだから) かつてのシエーフをばあかしのめるかかる

言葉により、現在のシエーフはかかる言葉を送したマホ

キットに好^{して}い^てい^るが、シエーフから保護をとり消すと、恥じろく

を返すといふ^て宣言できたのである。 → シエーフは、マホキットを out-law にするのは、その正当な理由がある。 守る力がなくなるといふ理由で、マホキットは out-law となった。

マホキットは out-law となったマホキットは ヤッカに住むこと

ができたばかり、

ヤッカの東約 60km (40マイル) にある アブ・ターイブ

の町を設けた。 この町には サキーフ部族が住んで

いて 経済的に ヤッカに 支那されていった。

彼は保護と イスラーム建設^{事業}のために 死ぬ^てことに決めた

れる。 これは失敗、してはかたに拒否された。

→ サキーフ部族は フレインジ部族に解を融するに同意し、マホキットは期待した。 9E. マホキットは期待した。 311

この他 ~~ヤッカ~~ ^{ヤッカ部外に手配された} 部族と接触をせよともしている。

これは失敗している。 / ヤッカのナウアル家の保護を

517 全 2

たがごと

得ることに成功して マホットは Xツカに入ることができた。

ナウプリル家の保護の条件は Xツカには その教を口にし ないことだった。

619年頃 = 985に マホットによって 7500年 だった。

620年

ヤスリブ (後の Xデッタ) から Xツカにきていた 6人 ^(7500年) の人々

6人が マホットに 接触 した (マホットの 教を口にし ないことを 許す) ことになった。 6人の ヤスリブ ^(1人) _(7500年)

は 強い 感銘を受け 帰っていった。翌 621年 の 6人 ^(7500年) には、去る 6人の 5人 が 他に 7人 と とも なる マホットに 会い に来た。彼等は マホットと Xツカ ^[計り] 郊外の アカバの谷 で 会食した。

何故 985に ヤスリブの 母 が マホットに 接触 したのかと云うのは、それは ヤスリブの 事情 にあった。

ヤスリブの 下使

複雑な 政治・経済

ポトマイオスの 地盤で マコラバヤに 出てくる Xツカと ともに、ヤスリブ と云う名で 出てくる。つまり 非常に

古い 街 である。 Xツカ ~~の~~ 北方 250マイル $(250 \times \frac{3}{2} = 125 \times 3 = 375 \text{ km})$

に 位置する。 Xツカ と云う名で オアシス から 西子 農耕地

で 代々 ナツヤニ; 穀類の 栽培が 行なわれた。

古くから 二に ゴギヤ 教徒が 定住して 農業に 従事して

「下。ニラダヤ教徒が民族的にニラダヤ人なラカ、民族
 的にはアラブ人で既にニラダヤ教を信奉して居たが、分けて
 いた。言語はアラビア語を用いて居た。また小規模では
 あったが商取引を喜んで居たニラダヤ教徒の一同もあっ
 た。この一同も民族的にニラダヤ人であったが、その分けて
 いた。

ジャスリブにはニラダヤ教徒の他に ~~アラブ~~ アラブ
 人が30氏族 ~~を~~ 余り定住して居た。(このアラブ人は「わが
 南アラブ人で遊牧の民と化して北アラブへと移住してき
 た一派である) ^{最初} 最も早いアラブ人はニラダヤ教徒の小人として
 してジャスリブに住み、移る人口を増してニラダヤ教徒と
 肩を並べたに居た。 <sup>最早車馬利作人
 とは土地に定住した者であった。</sup>

既にキッカのアラブ人の85に奇装の金銀、金貨、銀貨、
 玉も居た、氏族がこれにて独立的な遊牧の民 ^{その持ちの性格を}
 あり、

~~昔々定着民として、小規模の商人として居~~
~~た。~~ ^{昔々定着民として、小規模の商人として居}
 30氏族間の抗争は全く絶え

間から居た。 ^{ジャスリブの} アラブ人は各氏族
 間の争いを取りついで居た ~~を~~ 待望して

居たのである。その85は ~~は~~ ^{調停者} としてキッカの市場に
^{調停者} 白羽の矢を射て居た。 ^{中立性}

- 調停者の条件
- ① 30氏族の力に均等なものであること。
 - ② 争い止むべきであること。
 - ③ 経済上の争い止むべきであること。
 - ④ ^{キッカの支配下に置かれるべきであること}
- これは政治的リーダーの不可欠の性格である。35から20
 マホットは必ず持つべき。

つまり、豊饒や小規模とは...之交易と生業とあり場合

遊牧民の85%に於て單位とは駄目の92%あり、交換

と之に Inter-Clan ありとありが必要とあり = 之に、自然に
ヤスリブのアラブ人が示して...る...とあり

本...場所
...とあり
...場所(遊牧)
...の
倫理は333作
用...

換言すれば、遊牧民の ~~...~~ 倫理ではオアシスの農耕
生活に適合しなかったとあり。 [遊牧民の倫理は...の...とあり]

(当時おこなわれていた)

① 以上の85%のヤスリブの条件により、ヤスリブのアラブ人はマホメットに
ヤスリブに招き継承の調停者になつて貰ふとした。

② 2985年ヤスリブの動きを受けてマホメットはじと動かれた。
彼が当時置かれていた苦境をおもては当然とあり。

620年に6人のヤスリブのアラブ人がマホメットと接触したとあり、翌

③ 621年に12人の人達がやってきてマホメットとアカバの谷
で会見した。 2985年マホメットとヤスリブの人達と9問で
何らかの取り決め一契約が行なわれた。

この取り決めは 「第一のアカバの誓い」 とあり。

つまりマホメットが調停者としてヤスリブにのりこむにつき、
相手が 「...の...とあり」、「...の...とあり」
とあり。とあり、それを守るべきと誓ったとあり。

具体的にはマホメットの側からはヤスリブの民がムスリムと
なり...とあり、本体的の...とあり

(本体的)
結果にイスラムの

だが、命がけで、具体的にイスラ4教徒を3に3、5のし、
 行ない; 盗み、性的にふれた事など etc, 51年"85に本め、
 3年、ヤスリガの民を教化すべく、マホメットの弟子を一人
 ヤスリガにはけん子とてを懸めるとを本めた。

ヤスリガ側からの要本は論マホメットがヤスリガに朝臣者
 とて来ると子とてであった。マホメットはすくに本に
 かけたははして、ヤスリガの全アラブの族のマホメットを真に
 朝臣者として受け入れざるべく、ヤスリガのマホメット派をけん
 した弟子を通して工作を12...。512-1年かたす、

① 622年の巡礼で、^(女=人を含む)75人のヤスリガのアラブ人が、再び
 アカバの谷で真夜中にマホメットと合見し、^(合見)今度は
 車に4スリ4と本3とのみ本す、アラブと39使徒
 のために戦うことを誓った。これが「 $\mu = 9$ アカバの
 誓い」 \Rightarrow として知られている。

△ $\mu = 9$ アカバの誓いは伝説に基つていて、
 2983年形で確定に行なわれたかどうかが疑わしいとみる
 学者もいる。

② しかし、マホメットがヤスリガにのりこむにふし、如何なる条
 件でなされるかにつて 証と証等との間に数回の合合
 がもたれたとあるとは疑わしい。

③ 512-1 ヘジラの道は完全にひかれたのであった。

甲'21回 (11月29日)

621年 <<ア-9 アカバの書<<
622年 <<ア=9 アカバの書<< を通して マホメット
がヤスリブに調停者として入ると素地が来た。

3=で"い"マホメットは 29 訂通、4 実行に へりかかった。

① 生不 信徒をヤスリブに行かせた。 ↑ → X、カからヤスリブまで 9日間
かかる。

70人程の信徒を、一度に移動させた9日は日立つから

いさるグール-70に命けて、~~ウ~~ウマツリにヤスリブに

移した。移った信徒達はヤスリブのイスラム教徒達

9泉に ~~それ~~ それを命じて置きとられた。これは

カ、カの人達から完全に奪取された。成功した9と

思われる。

マホメットが X、カに 最後の戦いで9は

① 生不 信徒は先に送り = 42 = と 1 = 50 = 11月7日
9 = 11月7日 場合 = 4 = 8 = 0 = 1 = 危険を冒した。

② X、カの人達9月が自分に向いてる12、その間は、信徒達を
ウマツリに移せる ③ 移住は大事に22日 2日に行くと信徒に8%55

②

25に X、カには マホメット、アブー・バクル、アリー 等

29年9月カハの世話をする泉人教名が残る9と取った。

293人と 29泉人達が残されて取って X、カの人を

550と 293人教徒のヤスリブに 移住に気が付いた。
→ (身置からイスラム教徒が11日になった!)

ヤスリブを相し3に マホメットが 勢力を築くことを決めたアブー

・シバツルをはじめと子タツカ9 支配者層は、あわてて、そ

でマラーは マホメット 教養 を決めた。

各4途を代る若者達が同時に刀で刺殺する。
(カカ全件に 追いつけられぬと) ~~させ~~ させざるを得ず。

マホメットが X、カに
いさるグール-70に命けて、ウマツリにヤスリブに
移した。移った信徒達はヤスリブのイスラム教徒達
9泉に それを命じて置きとられた。これは
カ、カの人達から完全に奪取された。成功した9と
思われる。
マホメットが X、カに 最後の戦いで9は
① 生不 信徒は先に送り = 42 = と 1 = 50 = 11月7日
9 = 11月7日 場合 = 4 = 8 = 0 = 1 = 危険を冒した。
② X、カの人達9月が自分に向いてる12、その間は、信徒達を
ウマツリに移せる ③ 移住は大事に22日 2日に行くと信徒に8%55

マホメットは 信徒に8%55

→ 伝説では、マホメットは緑色の外衣を愛用していたが、アリーの9親色の外衣をいつかぶったマホメットの背に刺さるに
目を見かねてこの間に、マホメットとアリーのバグルが深夜
マッカを脱出したとされている

直ちにマホメットとアリーのバグルはマッカを脱出して、急ぎ南の
道へ（ヤスリブはマッカの北東に位置する。南へ向ったのは「マ
カスル山」の南の郊外に位置する）。この間に、マホメットは

身を隠した。3日間ほど隠れ、二人はヤスリブに向い

622年9月24日無事ヤスリブに到着した。その3日後、アリー

がマッカに着いた。

このマホメットのマッカからヤスリブへの移住を「ヒジラ（Hijra）ラ
ビ語。アラビア語ではヒジラ）といふ。日本語では「聖遷
といふ。（本意は中国語、中国のイスラム教徒の中国語訳）

ヒジラはたしかに「移住」の意味であるが、たしかに「移住」と
意味する普通名詞である。

このヒジラによってマホメットとイスラム教のありさまはガラリ180°
の転換を見た。ヤスリブはマッカに比べて規模の小さい
農業都市であったけれど、たゞしこの独立都市であり、マ
ホメットは（55で詳述するが）「たゞしこの首長と化したのである。
マッカでは居候で文字通り小さくなって、イスラム教に
こゝは口外出来なかった。

Mecca イスラ-ム Yathrib
禁じられた「まわい、麻織」 禁じられた「まわい、麻織」

マホメットの脱出に
関する逸話を集めた
『マホメットの脱出』
という本がある。中
には、マホメットが
アリーの9親色を
着用していたこと
も記されている。
また、マホメット
の死後、彼の遺体
はメッカに運ば
れたとされている。

マホメットはヤスリブに、アッラーの意志に自らをゆだねた人々
に於て、アッラーの意志にかなった生活を好む人々の国家を建設
する=と約束された。

マホメットに於てヤスリブは併大なるイスラーム国家(ウーマ)
に変えられたのである。

① このために、^(後に) ヲマヤハド朝のウマルの時に、ヘジラを行なわれた
年の1月1日(太陽暦の)を紀元元年とすヘジラ暦
が定められた。^(922年の) 太陽暦の1月1日は太陽暦の7月16日

あるから、ヘジラ暦の紀元元年 = 西暦622年7月16日である

因みにヘジラ暦と西暦との間には次のような関係が

成立する。 → ヘジラ暦は太陽暦である。1年 = 12ヶ月 { 奇数月 = 30日
偶数月 = 29日 } ∴ 1年

= 180 + 174
= 354日

大体
$$A.D. = A.H. - \frac{1}{33} A.H. + 622$$

↓
今から何年何月何日か
A.H.10年以前
のdateは確定さ
=とが「暦」の
MeccaとMedinaで
暦の日はかまらな
に異なる。136
開25年22112211
=ともなれらるから。

① マホメットがヤスリブに轉った55 Madinat al-Nabiyy
(予言者の街) と呼ばれた (ヤスリブは) al-Nabiyy かの
省略されマディーナ と呼ばれた。…… とは = とに

なっている。 [他説ではイスラーム以前にヤスリブは「マディーナ」
al-Madīnat と呼ばれたと云う。]

① メッサからメディナに移住して至るイスラーム教徒

は ● クハ-ジール-ン と呼ばれた。
(移住した人々)

メディナのイスラーム教徒

は ● アンサール と呼ばれた。
(たてつけた人々)

~~①~~

① アラビアの部族、クハ-ジール-ンの部は 部 70、
アンサール の部は 部 80、

部 50、クハ-ジール-ンと12部、アビシニアに移住
して来た部族が少なかったり、また部 2 のイスラーム
教徒と部 2 のメッサから移住した人々、部 1 のアラ
ブ人のみからイスラーム教徒になったメディナに住む
部 1 に住んだ人々 部 6 がでて、次はクハ-ジール-ン
が追加し、一 3 アンサールも次は部 1 にふえてきて、
メディナのアラブ人は全部イスラーム教徒即ちアンサール
となった。

① マホメットがメディナに住んだ時に、この部 1 は部 1 に増える
《予言者のモスク》となった。

↳ マホメット、アブーバケル、ウマルの墓がある。

① メディナに於けるマホメットにまつて

○ さて1983年にマホメットは Xディナに本拠地をかま
Xディナに全く移った、イスラーム教団を樹立
したわけであるが、
(ウマ)

具体的にその権力はどのようになっていたのだろうか。

これは知るに、非常に都合の悪い史料がある。

それは 《Xディナ憲章》 と呼ばれる文書である。
→ 《ヤスリブ聖約》とも呼ばれる。

◎ これは マホメットと Xディナの アラブ人及び Xディナの
ユダヤ教徒との間に結ばれた契約を 474条に
わたって記したものである。

この Xディナ憲章に関して、
→ この文書がいつどこに作られたか！
どういった形で作られたか！ ... 議論
がなされる。

~~XXXX~~ 或る時、或る所で、マホメットと Xディナの アラブ人
(ヒジュラ直後) Xディナの ユダヤ教徒

との間で、474条の文書をつくらせ、三者を含む19人で

◎ 条約の締結をしようとした文書であるのか

いつ頃に

それと

《ムハムマドの誓い》以来、概してマホメット

と Xディナの アラブ人との間で結ばれたであろう契約を （正し） 19人の （便宜上）

文書にまとめられたものであるのか

Watt は 様々の理由をあげて、後者の見解を主張している。

これはこの文書が作成されたのは、少なくともヒジュラ後5年(627年)
頃のことである。

と「5」が正しいのかは、それだけの見解に一長一短があって
断定は出来ない。しかし、「5」に「1」と「3」の文書のいふこと
が「3」に「変化が生じるわけでは無い」。

≪ X 憲章 ≫ はふくむの「前」の文書である。

47条の前には「2」の前文がある。

下史序讀義

(/)

第22回 (12月6日) ⇒ 休講 (入付採集のため)

第23回 (12月13日)

× ティナ憲章 ... 50 聖った契約文書である。

47 条の契約文の前には 12 の序文がある。

← この文書は ~~...~~ 万々以後 ~~...~~ のイスラ
(慈悲深く、意をなやませしアッラーの御名において、)

教徒及び「ヤスリフ」のイスラ教徒と 彼等に倣う者とは

ともに聖子戦いにありて人々との間の言者なり

と云ふ文書である。彼等は他人とは区別さ

れる一つの共同体 (Ummat) と ^構成される。 ⇒

◎ 条文の47 条の内容をまとめると、

約 20 条 } 1. イスラ教徒相互間の関係 ⇒ 相互保護と同胞愛 (兄弟愛) と強調

2. イスラ教徒と異教徒との関係 ⇒ 相互敵対と尊重と強調

約 15 条 } 3. ヨリヤ教徒の義務と権利

約 10 条 } 4. ヤスリフに於て ^{新たに} 2 族と定められる 9 族に
関するもの。即ち、血の代金と身代金のこと。
(2 族はイスラ教徒構成される = 2 ともみられる)

。 9ヶ條の5 最初のものは

411-311-2 の 集團 (マル、ト、ト、ト、ト、ト、ト、ト、ト) である。

。 8ヶ條の 8ヶ條は アニマルからなる。

3つと以上の 4つに分類される。

これからの 言文を 示す、

①

前文にも あり 8ヶ條に

今の イスラム 教徒は 多神教徒より 豊かである

一つの ウンマエ 結成 12... 4... 5... である、

新文に << 信仰の 基が なる >> に なる 世界 である こと

1... 3... である。

第24回 (12月20日: 冬休み前最終の講義)

X-TT+憲法47条の位置をまとめたとき、

第20条系

① 相互の教統相互間の関係 ⇒ 相互保護と同胞愛
と強調

② 相互の教統と宗教教統との関係 ⇒ 相互解知と尊重
と強調

第10条系

③ マリッジに於て新たに宗教と認められる宗教に関わ
ると、即ち血のつながりや身代金の規定

(つまり遺留財産の宗教格付けが認められることのみ)

◎ 宗教の区分は41-2条による(マホ
ット以外の宗教長とあり) マリッジの宗教はアソール
からなり。

<=>前回>

第15条系

④ マリッジの義務と権利

この条以上の条に分類される。

これは言うことは、

◎ 前文にもあり551、即ち <<相互の教統は宗教
教統の異なる一つの少くもを認め得る>>と
あり、新たに <<信仰の自由>>に551条
>に221条とあり。 ~~XXXXXXXXXX~~

◎ 更にマホットの地位については、形式的には
(法律の、契約上は)

彼は Xデーの 9 月 1 日 午後 9 時 5 分 迄に
 すぎなかった。しかし、1254 教団関係の 11 日 迄に
 は 全 ~~て~~ 又、Xデー ~~の~~ に 解決を 一任
 されて いた。奥力的には 全 Xデーに 力が 及んで いたが、
 Xデーには 9 月 1 日 迄の 上 9 月 2 日 迄の 延長
 による 考へ方が 伝統的に なかった こと、(Xデーに 及ぶ
 も 延長は なかった) 実質的に Xデーの 互恵考
 によって である。大きな 行事 (例 えば 戦争) は 従って
 主要な 会議 ~~の結果~~ の 結果 によって なる。

◎ 411-ジールと アンサーの 一人一人の 間に 義兄弟 (411-11)
 の 関係 を 結ば せた。

兄弟は 助け合 なければ ならない こと、義兄弟、39 まで
 で、 格位 してきた 411-ジールの 生活の 面倒 を アンサー
 に 任せると いう 計算 が あった わけ である。 新 正の
信仰 による 兄弟 は 下げさ に 言 えば 革命的 と いう こと。
 もっとも、 ともに 豊か なる こと、 貧乏 集団に、 極貧 集団
 が 加わった わけ で、 生活の 面倒 を みる こと によって
 かが 知ら れていた。 39 まで 伝統的に キヤンパ の
啓蒙 を 始めた。 高貴なる 予言者 が 強盗 を する こと
 によって 他と 異なる のは 5311 (11) の こと、 1211 は 当

ぬ じいとも 恵... とは 答へる ねえ は い っ ぽ か っ た。

キャラバン を あ ん じ と い っ て も ど の 9 キ ャ ラ バ ン か と い っ て

は ち ゃ っ せ っ ! X, Y の キ ャ ラ バ ン で あ っ た。

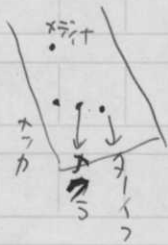
第25回 (1月10日 : 冬休み明け最初の諸氏)

前回まで ... もともと豊かではなかったヤリゴの
 アニマルの所に、入力の極限の(着の
 身.着のままの)411-311-2がや
 ってきたので、食之の度同..はま
 すます深まり、その結果キヤラバ
 への襲撃が始まった。それは
 裕福な入力のキヤラバへの襲撃
 と..s=とになる。

勿論この襲撃の目録は自分達の収入を回ると
 ..s=と他に、ミ神教徒の集である入力の
 には damage 5 5 と..s 意図もあった。

→ 記録に残されてくる重要な戦いは、623年3月には最初の襲撃ラズビ
 から行われた。
 311人が300人 T.S. 30人 (20人
 の格闘)

624年1月 : 10人前後の411-311-2 (対) 4人のホビガード
 とつれた入力の
 キヤラバ



√ アブド・アッラ-の指揮 (2日間 東に向って進み
 300名 襲撃した) 411-311-2 僅けの勝利、
 入力のキヤラバは死す。

商品が奪われ、
 ホビガードの
 1人が殺され
 2人が捕えられた。

この月は神聖月(7月に相当)
 での戦いは禁止されてたので、
 マホメットはほんたにかんたてに
 手かいてした。

外は戦いになるわけである
 襲撃を受ける側はホニマリと襲撃する側
 防衛する側か、さ
 ニ

238
86
324

(2)

ハットルの戦い

624年3月15日

非常に大規模にキャラバンが (ラクダ1000頭分)

シリアから → ヌッカ

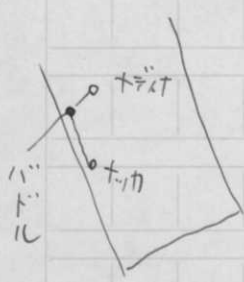
この情報を手にしたマホメットは 全兵力を動員して (324人)

この襲撃に向った。

マホメット出撃の情報を入手したヌッカでは直ちに アブー・ジャフルを指揮官とする1000人近い兵をキャラバン・守護のため ヌッカから出兵させた。

もともとキャラバンには相当数のボディーガードがついてはいた (70人程度と推定、50名未済と推定)

そして両軍は、
ヌッカの西側 125km } のハットル
ヌッカの北 215km }



で相対し、3月15日に戦闘状態に入った。

この戦いは全イスラームの軍命をかけた一戦であった。イスラーム側は全兵力を ~~投入~~ 注いでいた。

この結果、ヌッカ側は全敗であった。

ヌッカ側から出撃した1000人近い兵のうち、300人近くが戦闘の前にヌッカに帰っている。これはキャラバンのボディーガード達のおかげによる。しかし残りの兵は好まぬ結果に終わった。何れにせよ、戦後、ヌッカ側は援軍をこぼしたのがある。それで300人近くのものがヌッカに帰って来た。

それ、バドルの両軍が相まみえたり。
両軍の勢力比は、Xツカ軍が下層2倍
くらいあると見られる。

3月15日の「バドルの戦い」でイスラム軍は大勝を博した。

Xツカ軍の被害：
戦死者：50人〜70人
(総指揮官 アブ・ジャハルを含む)
捕虜：68人又は69人
総は敗走

イスラム軍の被害：
戦死者：14人

キヤラバニは^{自陣}被害を_被受けてイスラムに帰った。

バドルの大勝の影響は大きかった。

① Xツカにとっては「お宝」と呼ばれる商品の奪取
(富争)

② 捕虜の身代金 (捕虜の中にはXツカの名門がいて
この名門の者に対する身代金は高値である)

③ またXツカはこの戦い以前には「軍にXツカ」の
9氏族の1つで隊長としての地位
[形式的・契約上は]
しかなかったが、この戦いの結果、形式的にも

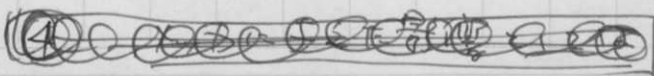
×7% + 全体、長と仮定。

×7% + 全体、長と仮定。

給は全戦利品の $\frac{1}{5}$ と自分のために $\frac{4}{5}$ と参加者
全員で分けさせた。(自分のために $\frac{1}{2}$ と、食い人 $\frac{1}{2}$ ずつ
④④、 $\frac{1}{5}$ 人の費用にも使った)

④ = 大は $\frac{1}{5}$ ずつの戦利品の間で、戦利品に参加した場合
戦利品の $\frac{1}{4}$ と部族長の $\frac{3}{4}$ と、戦利品の $\frac{3}{4}$ と参加者
の間で分けた = $\frac{1}{4}$ と $\frac{3}{4}$ の関係がある。

= 4% ずつの戦利品の常規で $\frac{1}{5}$ と $\frac{4}{5}$ と仮定、 $\frac{1}{5}$ と
 $\frac{4}{5}$ と、また $\frac{1}{5}$ と $\frac{4}{5}$ と仮定 $\frac{1}{5}$ と $\frac{4}{5}$ と仮定、
即ち、 $\frac{1}{5}$ と $\frac{4}{5}$ と仮定 $\frac{1}{5}$ と $\frac{4}{5}$ と仮定
あり。



以上 再々再々
次の仕事は $\frac{1}{5}$ と $\frac{4}{5}$ と
上 $\frac{1}{5}$ と $\frac{4}{5}$ と

伊26回 (1月17日)

バドルの戦い ○ 624年3月15日

。非常に大規模のキャラバン (ラグダ1000頭) がシリアからガザ
を通り、キッカに近づきつつあるという情報が来た。

ラグダ1000頭のキャラバンと云うのは珍しいが、これは小さなキャラ

バンがキティナの4スリム9攻撃を恐れ、合流して

大キャラバンとなって充分なボディーガードをつけておくと見られる。

この大キャラバンは船70人を率いたアブー・スファール

によってガードされた。

。この情報を得たマホメットは直ちに可能な限り全兵力
を動員してこの攻撃に向った。その兵力は300人

以上はいたと見られる。 [莫3リストに示せば]

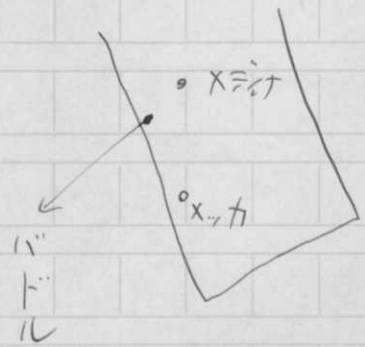
238人のアハル
86人の4ハジル 計 324人

。マホメットが攻撃の情報を入手したキッカでは直ちに、

アブー・シヤールを指揮官とする船950人の兵力を

キャラバンを守護のため、キッカから出兵させた。

。キャラバンを率いるアブー・スファールもまたマホメット
の攻撃の報を知り、ルートを変えた。



バドルで暮らす世にイスとイスとあるが
 キアラバンが迂回してルートをはかり、
 11月と12月 = 4日 マホメット軍には
 11月と12月。
~~この間、アラバンの軍はバドルを占領した~~ しかし、Xツカ

$\left\{ \begin{array}{l} \text{Xツカが北} 215\text{km} \\ \text{Xディヤが南西} 125\text{km} \end{array} \right.$
 軍はそのままバドルにあり、3月14日の夕刻バドールにキャンプは張った。

一方、Xツカ軍総司令官のアブー・ジヤフルもまたキアラバンが迂回してルートに離れたことを知らせを受けた。二ヶ月Xツカ軍の中には、キアラバンは無事なわけから、事あるにはあつた。主張するものもあり、兵隊は(2ヶ月後)兵を引上

げたが、残りはバドルを目指した。アブー・スファールも(無事ながら)兵を引上りXツカ軍に伝令を送ったとみられるが、

アブー・ジヤフルは二度マホメットと対面した。彼はバドルを奪取することを望み、バドルを目指した。これは単純な攻撃(ラズマ)では無い性格になっていた。

〇 両軍は3月15日に戦闘状態に入った。

両軍の兵力は 650人 v.s. 324人
 Mecca Medima

〇 戦闘の結果はイスラーム側の圧勝に終わった。

② 自信が失われるモラルの喪失

① イスラム側がムハシールには若者が多く
ムハシール側は中年以上の者が多かった

ムハシールの大勝の要因

ムハシール側の被害 : 戦死者, 45人 ~ 70人
捕虜者, 大津上と同じ

突如212には 戦死者 68人 }
捕虜 69人 }

③ 戦死者には 総司令官 アブー・ジャフルをはじめ
多くの有力者も含まれていた。
(12人)

イスラム側の被害 : 戦死者 14人 { 411-ミルニ : 6人
アサール : 8人

バトルの大勝の影響

- ① 突如ムハシールに大量の戦利品を得たこと。(大軍を倒したことで相手を倒す)
- ② 捕虜の身代金 (捕虜の中にはムハシールの名門の者も多かった) の名門の者に対する身代金は巨額であった。
- ③ ムハシール側にとって 多くの有力者 15 ~ 20人のうち 12人が戦死したことは大に痛手であった。
- ④ ムハシールの自信が大きくなったこと。
- ⑤ イスラム教徒に与えた自信と、宗教的感動は大きかった。
ムハシール側の自害の日々, ムハシール側の金銭生活の日々, の後 (居候の) でムハシールに響くべき歓喜の日であった。
また, それは自分達の宗教がまさかこうなることになったこと, 神が助けをくれたこと, etc. でイスラム教に与えた影響が大きいであろう。

⑥ マホットは 29 バドミントン 戦... 以前 21 日
 形式の、契約上は 車に X データの 9 族
 9 - 29 族長 と 12 の地位 (かなったが、
 29 戦... の後、形式的にも X データ 全付
 9 長 と なった。

。 29 戦... 21 日は 全戦利品の $\frac{1}{5}$ を 自分 9 ために とり、
 $\frac{4}{5}$ を 参加者 全員 で 分けさせた。(自分 9 ために 11 2 も
 食い 1 人 や orphan, 1 人 1 人 を 隔り 3 費用 にも ある)

⑦ これは プラグ 超 級 民 の 間 で、 戦... に 参加 した 場合
 戦利品の $\frac{1}{4}$ を 部 族 長 が とり、 残りの $\frac{3}{4}$ を 参加者 の 間 で
 分けた こと に関連 がある。

これは プラグ 超 級 民 の 常識 であらう ならば、 幸 = 3
 と かね、 マホット が $\frac{1}{5}$ を とり こと を 認めた ことは、 即ち、
 彼 が 部 族 長 で あり こと を 認めた こと なる であろう。

X データ が 認め られた。

丁史学讲义

(/)

#27回 (1月24日)

#28回 (1月31日)

○ バドルの大敗後、Xツカ側は復讐の準備に忙しかつた。

Xツカ側に大敗を喫したままだと アビシキ島が通商の

独占の地位がくづれ去るからである。

Xツカ側の策謀はむしろは
Xツカ側の信の上にならねば
いた

Xツカ側とXツテナ側との間に小さな争いがあった

後、遂に 625年3月 ^{たかは} 3000人からなる軍をXツテナ
(総司令官: アコ・スパーン)

に向けて。 395700人が艦隊を組んで着ていた

これは遊牧民とアビシニアからの傭兵を合算 馬 200頭
ラッダ 3000頭

と争った。つまりXツカは決戦を望んでいた。 「ウツドの戦い」

3月21日

Xツカ軍はXツテナ北方のウツドの丘の近くに陣營を

深夜

設けた。このあたりにはXツテナの兵が少しは居たが、
防備はこれだけだった。

3月21日

マホットは ^約 700人 「ウツド」 Xツテナの陣営を襲って

Xツカ軍の背後にまわり、Xツテナにいる軍との

間にXツカ軍を挟む形になった。

3月22日

戦いが始まり、初めはイスラム軍側に有利であった

が、ほんの間に ~~イスラム軍は~~ Xツテナ

に逃げ戻ってしまった (マホット軍はウツドから

たどった)。マホットは ^{ウツド} ウツドの丘に逃げ

戻った。イスラム軍は ~~ウツド~~ ウツド、アビシニア、

マホットはウツドの丘に逃げ戻った。Xツテナ側は、マホットを油断させた。マホットは、油断を絶つて、Xツテナ側を襲った。

マホットはウツドの丘に逃げ戻った。Xツテナ側は、マホットを油断させた。マホットは、油断を絶つて、Xツテナ側を襲った。

アッハはアラブ人には伝統的に決戦と戦い慣れがなかった。

メディナの住民の中で
イスラームに反発もしている連中
が戦いの際メディナに帰り、
そこでイスラーム軍に奇襲され
かけることを期待し同じメディナに逃げこむ
させた

アブー・スファーンもかなりの
傷を負った、また戦
力もかなり落ちたことも
ある(馬が弱体化) (2)
失傷による
減少した

スファーンは戦局の中止を命じてメッカ軍をよそへて
帰った。 (何の理由もなく帰ったが) メディナにはとりで
がよことりでに逃げるに足らぬ守りの強固になり不測の
事態にともなうてある。 老いて ~~メディナ~~ イスラーム軍の非
難をとりてに闘うべきでうたあるべきで老いて
人達の意見を、うたえよのきたとある若者軍の意見を
← かなりおたふしたが、またアッハは若者軍の意見をうた
て、うたえよてあつた。

メッカ軍が畑を荒らすの
が、このことは、自分の陣の脆弱さをうた
わたり、この時メッカ軍の陣を固くした

若者の意見の理由

・ イスラーム軍の被害

・ メッカ軍の被害

戦死者 75人
(そのうちが前騎兵に52)
(イスラーム軍は食して馬が弱体化した)

戦死者 27人

○ このウツドの戦いは、阿・自陣に於てはメッカ軍が勝つたとい
える。しかし、決戦といふ点に於てはイスラーム軍側 ~~メッカ軍~~
にかつたの打撃をうけることが出来た。
3000の大軍を相手に充分に戦ったこと自信をイスラーム軍
側にもつた。

○ またアッハはウツドの戦いで、アッハに53倍印の ~~メッカ軍~~
とてうたえ且つ諷刺してゐる。 [イスラーム軍のマニエ] (諷刺)

○ 結局のところ、メディナに於てはまたアッハの地位は何ら落ちたわけでは
ない。

○ この不測の事態に於ては戦いの終り両方とも主として阿・自陣の
味方にうたえられた勢力をうたえさせることになり、また
いに勢力を示してうたえに軍を辛うじて保ちかけた。
このせり合はあつた戦局にはうたえられた。

○ かくてかたがた ~~メッカ軍~~ へ、

627年3月

《ハンダク9戦》

○ ユッカは1万の大軍をメテナに派遣した。

軍馬 600頭. ~~...~~ 3ヶ軍団に命じられていた。
~~...~~ 全軍中

⊗ これに対してマホットは3000人の軍で対抗。
(大半が歩兵部隊: 900名のイスラム軍は騎兵隊を持って居た)

○ ユッカ軍はメテナにつくとウツアの丘に陣をしいた。

⊗ マホットはメテナの街の中を迂回して軍勢をこせしめて、かつメテナの出入口に ~~...~~ 塹壕 (平坦地) と掘った。

この戦いがハンダク(塹壕)の戦いと呼ばれるのはそのためである。 (守備)

塹壕はアラブ人には新しく、ギリシヤ由来の戦法であるとして、マホットの弟子であるギリシヤ人の策を採用したとある。

ユッカ軍がユッカを本陣にした迂回して攻めた迂道に塹壕をほしめた。ユッカ軍が到着時には掘り終わった。(工事は6日後に完成した)

歩兵部隊にはイスラム側にはあるが、両軍ともによくわきまをわけていた

○ ユッカ軍は3月31日メテナ ~~...~~ 攻撃を開始した。しかし塹壕を突破出来ず、隣にせり入ることは出来なかった。

2) 同様にしても塹壕を突破できなかった。ユッカ軍の士気は落ちたが、寒気は吹きまわってスツカリ白けてしまったと云われている。3月31日ユッカ軍はメテナの包囲をこえて引上げてしまった。

ユッカ軍の東・西・南側は岩の流石で囲われていたが、北側には塹壕が掘られた。

夜襲も討みかけたが、見張りには46の騎馬隊が張りつめていた。

① = 9 闘... マホキットが... 作戦は ① 57ト... 85に... 32ある
 かつたこと ② ハンターを捕らせたこと ③ 9に
 600頭... 馬が323)

② 周辺の森林の森を全て刈り倒して... 馬の飼料をたかませた。

③ 512人が6人の戦死者を1274軍団に与えられた。Xッカ軍は撤退したが、これはXッカにとって致命的な痛手となった。

戦死者数は3人
 Xッカ軍団の

- ① 1万人の軍勢を組織するには莫大なコスト...
- ② かかる大軍をもちしてもXッカに勝てなかったことによる威信の低下
- ③ 逆にXッカ側の威信の高まり、自信の増加

④ = 9 戦... 以後 周辺諸国に好まぬXッカの影響力は再び弱くなり、その分各地にXッカの影響力は強まった。また意図的にマホキットは323に... していった。

⑤ Xッカの~~敗~~とみればこれはラッズヤと加えらるべきは多分論であったが、Xッカもまた大規模なキヤラバンをシリア

に送ったりしはじめた。
~~XッカとXッカの地位は、512、逆転したことも云々。マホキットはXッカに軍勢を率いて武力を行使し、Xッカは... 323に... していった。~~

⑥ 7-11 (Xッカ) の3向に... 624年2月... 3向に向って... 何故 7-11 ⇒ Xッカ となったかと言えは

以上
 1/24

その論から マホキットと ヨダヤ教徒との間の雲行き
が怪しくなりはじかたからである。

マホキットの立場は従来からイスラームに 殉教 の序
ヨダヤ教徒を倒すことには反対で、ヨダヤ教徒
は旧約聖書でユダヤ教の 律法 を守るときに、非
難を一向にやめるとしてユダヤ教の ユダヤ をいかに守るか
を主張する。

マホキットの力が強まることはイスラームに有利ではあるが
ヤダヤ教から離れてゆき、最終的にはキリスト教的 ヨダ
ヤ教徒の攻撃を招くことになる。

これはヨダヤ教の新しい存在で、マホキットはイスラーム
の 強固な確立 を図り、

マホキットの
勝利

⇐ かつてのカーバ神殿はアブラハムに建てられたと云う伝説
を利用して、イスラーム教はアブラハムの宗教であると主張、
~~アブラハム~~ アブラハムはヨダヤ教の祖モーゼより古く
であると、イスラーム教の立場からヨダヤ教を 批判 するア
ブラハムの一神教の伝説に従って、これを主張した。
イスラーム教の立場から、アブラハムに建てられたかつてのカーバ
神殿を礼拝の方向と定めたことは、イスラーム教の 勝利 である。

[Q. どの方向が正しいか。イスラーム教の方向は正しいか。]

イスラーム教にアブラハム伝説を利用して、イスラーム教は
アブラハムの民族感情 を 利用して、イスラーム教の 勝利 を図った。

[Q. 結論 = 正しいのはイスラーム教とアブラハムの民族感情と、どっちに勝
つたか]

① 正しいのはカーバに 新しい 寺院を認めるとともに、マホ
キットは

イスラーム教徒の義務としてカーバの巡礼を命じた。
 多神教の信者であるキリスト教のイスラーム教徒がキッカに
 2010年10月25日に行われた... = 2010年... 不可
 能なことであった。従って、いつかキッカをイスラーム教徒
 の街に建てたい... 決意を彼自身ももち、且つイスラーム
 教徒全体の土にも決意をされた... ことになった。

① この事情を背景として、

今世巨大勢力にのり上ったマホムドとイスラーム教

徒とは、キッカが ~~弱体化した~~ ~~弱体化した~~ ~~弱体化した~~

建在... ~~建在... 建在... 建在...~~

(まだ)

とは... 未だ

628年3月13日 1500人以内のイスラーム教徒と共に

マホムドはキッカのカーバの巡礼を命じた。

(2010年10月25日)

① ~~キッカ側は~~ 200馬からなる ~~騎兵~~ 部隊を

送り出した。イスラーム教徒の侵入をさせようとした。

この報を受けたマホムドは巧みにそれを利用して

山地を登る (馬には不利な戦い) キッカに

近づくとキッカの ~~陣を張った~~ ~~陣を張った~~ ~~陣を張った~~

陣を張った。聖域では戦いが禁止された。

そこでキッカはアブ・タリフにマホムドとは使者を

送り出した。次々同盟関係を結んだ。

これは アブ・タリフの同盟関係を呼ぶ 「ヒバ」。
 (和訳) (21)

① つまり マホキットはイスラム教徒と率で X、カアが
 310まで無事に共に行けるわけである。X、カアが
 1000には秘密のあったわけである。また逆に秘密
 密にしたとすると X、カアが気づけるとすると
 である。

X、カア側は ^馬200頭 ^防騎兵部 ~~隊~~ 直下に置いて、
 マホキットは 2ヶ所をたまたま山地を進行して X、カアに
 入ると 3ヶ所あるが、 2ヶ所 戦闘予備隊には
 9ヶ所をたまたま 5ヶ所 隊が たまたま 5ヶ所に
 入る。

X、カアの威信はもとよりしるも 5ヶ所 大き、 X、カ
 側には 戦争 での勝つた、 5ヶ所 大きな 4-1 が
(武力に勝つ)
 ため 5ヶ所 5ヶ所に 2ヶ所。 3ヶ所 逆に倒し
 て マホキット側には、戦争では X、カに勝つ自信が
 ゆき 5ヶ所 あり 5ヶ所 あった。

5ヶ所 2ヶ所、7ヶ所、X、カと 隣に PIC、7ヶ所
の盟約 (和約) と呼ばれる 相互協定を結ぶに
 した。イスラム教徒側には 2ヶ所 2ヶ所 5ヶ所
 がある。

① 2ヶ所、協定を結ぶに 5ヶ所に X、カと
 5ヶ所 あり 5ヶ所 あり。 …… 血気 5ヶ所 5ヶ所

② Xツカは血を流さねばならぬ。又、Xツカは迅速の
行と信子にきこえる。…… 又、Xツカは信念。

今までの通害や戦争の状況の流れたまま。一見は
ほらあつたし、之(エスエス)と思えば、…… 意図
の多からず、何行つたか、…… 二に、もまた、この政府の
存続が、…… と思われ。つまり、

今までの通害や戦争の状況の流れたまま。一見はほらあつたし、之(エスエス)と思えば、…… 意図の多からず、何行つたか、…… 二に、もまた、この政府の存続が、…… と思われ。つまり、

① 決戦をいふ。…… 決定的なものが、…… 5と7と
と、…… 行つたか、……

② Xツカの特別な配置
(…… 位置が…… 地…… である……)

③ Xツカを高く…… 迅速に…… 行つたか、……
ある…… 高人の判断

…… 協定が…… 行つた。その内容は

① 今年に…… 行つたか、…… 迅速に…… 行つたか、……

② 翌年に…… 行つたか、…… 迅速に…… 行つたか、……

③ 今後10年間、…… 戦争を…… 行つたか、……

④ Xツカと…… 迅速に…… 行つたか、……

⑤ ナテイトの侵入に際して 報復を許さず
 Xツカに 報復の権利を認め、ナテイト側には
 別に何も認めない。(ナテイトの自信が揺らぐ)

Xツカの侵入に際して ナテイト側の 報復は
 ナテイトに 認められるものは、直ちに Xツカに 送り込
 んでくれるものとす。

○ この「ナテイト」の 盟約の内容は Xツカの 再自衛を
 許さず、ナテイトの 侵入に 報復を 許さず、
 ナテイトの 自由を 認め、Xツカの 侵入を 許さず、
 ナテイトの 自由を 認め、Xツカの 侵入を 許さず、
 ナテイトの 自由を 認め、Xツカの 侵入を 許さず、

この 盟約の 内容、Xツカに 侵入を 許さず、
 ナテイトの 自由を 認め、Xツカの 侵入を 許さず、

○ 629年3月には この 盟約による Xツカ 巡礼 実行された。
 ○ この PIC・「ナテイト」の 盟約は 翌 629年の 末に 破棄

された。
 これは { Xツカと ナテイトとは 超絶民権 及び 各々の 同盟
 の 自由を 認め、互いに 干渉し合わない

と、互いに 認め、互いに 干渉し合わない
 事件の しこりは 残った。 ナテイトが PICと 盟
 約を 破棄した。 この 盟約にも 違反した
 Xツカを 捕らえ、ナテイトは

630年1月1日 1万人の 軍を 率いて Xツカに 向った。
 1月10日の夜 Xツカに着き、1万人の 軍勢が 盛大な 祭り
 を 行い、Xツカを 占めた。

Xツカは ナテイトの 侵入を 許さず、
 ナテイトの 自由を 認め、Xツカの 侵入を 許さず、
 ナテイトの 自由を 認め、Xツカの 侵入を 許さず、
 ナテイトの 自由を 認め、Xツカの 侵入を 許さず、

翌 1月11日

Xツカに兵を入れた。抵抗は4町か

か行なわれり、
{ Xツカ側9戦死者 28人
 1234側9戦死者 2人

{ Xツカ 24人
 24町 4人

であった。

マホXツカは直ぐにカーバ神路に入つて、神路内
の10町に2町を占めて居た。

抵抗を止めたXツカ9人29戦死者は保障された。

この8日にはXツカ9征服が完成したとされた。

① Xツカ征服成功の理由

別断は11月22日にマホにマホを占めた。印路は12月3日の日。

- ① 1234の魔力
- ② マホXツカ外交の才能
 政治的

下史学講義

第29回 (2月4日)

第30回 (2月21日)

- 630年 / 11月11日 ...
X...の敗北と... 知事等は周辺諸部族にかなりな成功を遂げた。

X...のグライニコ部族は...
はかなりの有力なワー-~~ニ~~部族とサキ-~~フ~~部族は
同様、~~ニ~~と~~フ~~はかなりの連合してX...を目指してやっていた。

また、この両部族の連合軍勢は約2万人で

ワー-~~ニ~~部族は遊牧民 (フサイニに集結していた。X...がその日路の))
 サキ-~~フ~~部族は定住民 ... ~~ニ~~の道へ住んでいた。
 = { 同じ高さ
 X...の支配下にあった。

このマホキットは 630年1月27日にX...を去り
 1月30日の夜 フサイニに到着した。

- マホキット軍の勢力はX...の征服に必要だった1万人
 と新たにX...の人約2000人が加わり 1万2000人
 であった。 (但し馬800頭)

翌 1月31日 フサイニの戦い、と味方側の戦況がきつにあ
 てられた。 マホキット側の大勝利。
 = { 大軍同士が(勝った)か
 激戦もなかった、自軍もなかった
 { 敵の戦士の数は...
 馬800頭
 戦況は...
 壊滅させられた。

莫大也

↑ 全号の者一人一人に
ラッタ4強分の分け前
を渡し給はせし (2)

→ ナイン戦...に 80戦 戦利品は 100 200 300 1/5 8

マホキットが...とリ、残りの 1/5 8 戦利品は 500 1000 1人

合しての分配した。

~~300 戦利品~~
~~300 戦利品~~

注目すべきは、この戦利品が 55 十 百からなること

X、かの有力者達には 20% 以上の子 = 8 であり、

またこの 20% 以上を 100 以上 有力者達の大部分が

いすうの取分と 1000 = 2 である。 { 20% 以上を 100 以上 ...
X、かの有力者達には 20% 以上 ...
かん 20% 以上 100 以上 ...
マホキット ...
100 以上 ...

1000 以上 ...
2000 以上 ...
3000 以上 ...

◎ この有力者達の 20% 以上が

マホキットが 1/5 以上 200 以上、残りの 1/5 8 以上 200 以上

戦利品は 20% 以上を 100 以上 200 以上 1/5 8 以上 100 以上

のが、500 以上 1000 以上。また 20% 以上 100 以上

は X、かの有力者達の 10 人以上 200 以上 300 以上 100 以上

その 20% 以上 100 以上 200 以上 300 以上 100 以上

200 以上 ...
300 以上 ...

。ナイン戦...の 55、マホキットは X、かに 50% の代理人と
道...に X、かに 100 以上 200 以上 300 以上 100 以上

◎ → ナイン戦...の 55、マホキットは X、かに 50% の代理人と

マホキットに 100 以上 200 以上 300 以上 100 以上

戦利品も 100 以上 200 以上 300 以上 100 以上

→ ナイン戦...の 55、マホキットは X、かに 50% の代理人と

道...に X、かに 100 以上 200 以上 300 以上 100 以上

この別れの儀式は非常に大規模なもので参加者は

4万人に達したと云われる。

後の伝説に別れの儀式の形式は二つのマホットの行なわれたと云われている

≪別れの儀式≫ ~~マホット~~ Xマホットに痛つてくると、~~マホット~~ (3月末) 申論子

マホット ~~マホット~~ Yマホット。儀式にある前より健康が衰えたと云われる。マホット自身 = 別れの儀式の儀式

に付きてあると云え自腹にいたと云われる。

≪29年の5月の末に或る日の真夜中不意に... 痛つてくると、激しい腹痛に云われる。痛つてくるとマホットに... 腹痛が続き、夜は妻屋の

部屋を一晩中... (規則通り)

妻屋P-1の部屋に... 云い出し、これが妻屋に思われる。以後P-1の部屋に... した。

632年6月8日死去。P-1の膝からして

突然の死去であった。⇒ P-1の儀式は別れの儀式の形式で... 指示した... 儀式は... 行なわれた。

マホットが... 113... 113... あり

中の特筆すべき点を挙げるならば:

(I) アラブの統一 (民族の統一) である。

アラブに何国も連なっていたがアラブ人は民族 (大きな部族単位) 単位で独立独立し、互いに攻撃し合っていた。今統一された民族であった。

この儀式は... 痛つてくると... 腹痛

アラブの統一... 民族の統一... 部族単位... 独立独立... 攻撃し合っていた... 今統一された民族であった。

マホメット^は アラビア半島内の各遊牧民と盟約を結ぶ。=
 により、 彼等がイスラム教徒となつた。= により、 彼等
 は互いに攻撃するところからしおさくたつて = して アラビアの統一
 が成しおた。

このころの中にも アラビアの統一 と いう 理念 は 通達 には
 出てはなな。

② イスラムの宗教、文化、政治の混合律を
 する統一されたアラビアにさせた。

③ して イスラムは 新鮮な活力にめめられたアラビア
 を して ~~アラビア~~ アラビア半島外の世界に 広げられた
 とき、 独特のイスラム文化を形成した。

丁史学講義

第31回 (2月28日)

《閉講演説》

後期試験問題(案)

- ① 最初期(610~613年)のマホムットの教えについて。(その背景, 土壌にもよって)
信徒
- ② 614年頃からヤスリゴトの程住まわりのマホムット及びイスラム教徒への迫害について
- ③ ヘジラについて
- ④ ヌビヤの^{ウマ}(イスラムの)伝説について
- ⑤ ヌビヤ対ムッカの戦争について
- ⑥ マホムットの回教

[1番と4, 2~6から1つ選んで
計2問について答えて。]
とすか。